地質学雑誌　第108巻　第5号（通巻1280号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成14年5月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.5 No.5 May 2002

日本地質学会第109年年会・総会（新潟大会）予告
会期　2002年9月14日～16日

日本地質学会第109年総会並びに年会予告
新　潟　大　会

2002年日本地質学会総会ならびに年会のご案内をいたします．今大会は，中部支部，とくに新潟大学を中心とする新潟地域のかたがたにご協力をいただき開催いたします．例年のとおり一般発表のほか，特別講演会，プレシンポジウム，見学旅行，また，普及行事として地質情報展，市民向け見学旅行などの催しが企画されています．一般発表は，各専門部会を中心に提案された25件の定番的セッションと9件のトピックセッションが準備されています．また，会期の前日には2件のプレシンポジウムも企画されています．

今大会では，各種の申し込みおよび費用の振り込み先と方法が，従来とは大きく変わっています．発表関係以外の申込みと費用振込の取り扱いを「JTB新潟支店」に依頼しました．申し込み先の一本化による手続きの円滑化と会員への便宜，準備委員会の負担軽減のためですので，ご理解とご協力をお願いいたします．詳細については12項ならびにそれぞれの項目案内を熟読いただき，お間違いのないよう，早めにご準備下さい．なお，開催準備がスムーズに運びますよう，各種〆切日はくれぐれも厳守していただくようご協力をお願いいたします．

1.　日　　程

9月13日（金）：プレシンポジウム
9月14日（土）：特別講演会，総会，一般発表（口頭，ポスター），学会関連会議，懇親会
9月15日（日）：一般発表（口頭，ポスター），部会ランチョン，夜間小集会
9月16日（月）：一般発表（口頭，ポスター），夜間小集会
9月17日～18日：見学旅行　＊9月9日～13日　韓国への見学旅行

関連普及行事
9月14日（土）～16日（月）：地質情報展
9月22日（日）：市民向け体験学習ツアー

2.　会　　場

総会・年会：新潟大学教育学部
地質情報展：新潟県民文化会館（リュートピア）4階
＊総会・年会へ車で来場される場合，駐車スペースが狭いのでご留意下さい．駐車スペースとして，新潟大学正門付近の駐車場と西門駐車場の2カ所をご利用いただけます．

3.　プレシンポジウム

9月13日（金）13：00–18：00，会場：新潟大学教育学部
主催：プレシンポジウム実行委員会（実行委員：宮下純夫・松岡　篤）
後援：日本地質学会

⑴　海洋プレート・オフィオライト研究の最前線
世話人：宮下純夫（新潟大）・荒井章司（金沢大）・沖野郷子（東大海洋研）・松本　剛（海洋科学技術センター）・藤　浩明（富山大）・海野　進（静岡大）・小原泰之（海上保安庁水路部）
キーワード：海洋地殻・マントル，オフィオライト，OD21
趣旨：この間の地球科学界では，プリュームテクトニクスの進展を始め，オフィオライトや海洋プレート研究において重要な進展があった．本年2月，深海掘削船「ちきゅう」が進水式を迎え，日本は海洋地質学の最前線を担わなければならないが，そのことも視野にいれて企画した．

⑵　ジュラ系
世話人：松岡　篤（新潟大）・八尾　昭（大阪市大）・近藤康生（高知大）
キーワード：ジュラ系，国際ジュラ系小委員会
趣旨：4年ごとに開催されているジュラ系に関する国際シンポジウムが，今年9月にイタリアのシシリー島で開かれる．それに先立ち，ジュラ系に関する国内のシンポジウムを企画した．日本におけるジュラ系研究の到達点についての認識を共有し，将来への展望を描き出すことがねらいである．これまで，日本からのジュラ系研究についての発信力は大きかったとはいえない．このシンポジウムを，アジア地域のジュラ系研究へと発展させる足がかりと位置づけている．アジア地区が，ヨーロッパ，北米につづく第3の研究先進地域となることを目指す．

4.　特別講演

9月14日　9：00～9：40，会場：新潟大学教育学部　大講義室
講演者：地質学会会長　小松正幸（愛媛大学・理）
題目：島弧地殻深部の岩石学的構造

5.　普及行事

⑴　地質情報展

9月14日～16日，会場：新潟県民文化会館（リュートピア）4階

主催：産業技術総合研究所地質調査総合センター，日本地質学会

展示内容：新潟県を中心とした，日本海縁辺地域の地質・資源・地震・火山等の情報を分かりやすく展示．化石レプリカ作りや鳴り砂の実習もあります．

問い合せ先：産業技術総合研究所地質調査総合センター

湯浅真人　電話 0298−61−3687，Fax 0298−61−3672

メールアドレス：yuasa-m@aist.go.jp

⑵　市民向け体験学習ツアー（2コース，準備委員会扱い）

―新潟県の化石・鉱物産地を訪ねるフィールドスクール―

開催日：9月22日（日）

申し込み〆切：9月8日（日）

市民向けの見学旅行を，フィールドスクール（体験学習ツアー）と銘打って実施します．以下のように，化石採集と鉱物採集の2コースを準備し，また野外だけでなくそれぞれ，展示資料館を使っての学習，また室内での実習つき講演等がセットになっています．いずれも休日の日帰りコースで，実際に化石・鉱物を採集し，自然にふれつつ新潟の地史を学び，また鉱物・宝石等について知識を深める場になります．詳細は追ってお知らせしますが，知人，友人の方にもご紹介いただけると幸いです．費用は，2コースとも実費程度です．お問い合わせは下記までお願いします．

〒950−2181　新潟市五十嵐二の町8050　新潟大学理学部地質科学教室

係：赤井純治　電話 025−262−6186，FAX 025−262−6194

メールアドレス：akai@geo.sc.niigata-u.ac.jp

①出雲崎コース（化石採集コース），案内者：小林巌雄（前新潟大学・理）・加藤正明（長岡市立科学博物館）

新潟大学旭町資料展示館集合．展示館見学と学習．その後，バスにて出雲崎へ移動．貝化石の採集，現地での鑑定会を行う．

②間瀬コース（鉱物採集コース），案内者：赤井純治（新潟大学・理）

新潟大学理学部に集合．理学部にて，鉱物と宝石についての講義と実習を行う．その後，バスで間瀬へ移動し，沸石採集を行う．

6．　企業等団体展示会出展募集＜申し込み〆切　6月28日（金），準備委員会扱い＞

地質関係企業の活躍を地質学会会員に紹介し，広める場を提供します．ぜひたくさんの企業がご参加下さるよう，お待ちしています．なお，本大会への協賛企業・日本地質学会賛助会員は出展料が無料です．その他の団体，企業は1件当たり1万円の出展料をいただきます．参加・展示希望の企業は，6月28日（金）までに下記へご連絡・お申し込みをお願いします．

〒950−2181　新潟市五十嵐二の町8050　新潟大学理学部地質科学教室

係：加々美寛雄　電話 025−262−7640，Fax 025−262−6194，メールアドレス：kagami@gs.niigata-u.ac.jp

7．　一般講演の募集について＜〆切6月28日（金），行事委員会扱い＞

9月14日（午後）～9月16日の3日間で一般講演を募集します．下記の要領にて口頭，ポスター発表を募集しますのでとじ込みの往復ハガキ，一般発表申込書と受理通知に必要事項を記入し，それぞれに50円切手を貼り，6月28日必着で行事委員会宛にお送り下さい．プログラムの編成が終わり次第，発表セッションや発表日時などを加えて，受理通知を返送します．なお，発表セッションや会場・時間などのプログラム編成につきましては，各セッションの世話人の協力を得て，行事委員会が決定します．申込者の希望は尊重しますが，申込み人数の多少や時間的制約などで，必ずしも希望に添えない場合があることを予めお断りします．今大会もポスター発表は広いスペースを用意して多数の発表ができるよう工夫しています．

⑴　セッションについて

本年会は，9月14日から9月16日（土―月）の3日間で一般発表を行います．専門部会の提案などにより25件の定番的セッションと，9件のカレントトピック・セッションを設けました（p.　～　表1参照）．

⑵　講演に関する条件

日本地質学会の会員は，口頭発表かポスター発表かのいずれかの方法で，1人1題に限り講演をおこなうことができます．共同発表の場合は上記の条件を講演者（＝筆頭発表者）に適用します，非会員は筆頭発表者にはなれませんので，必ず6月28日までに入会手続きを行って下さい．入会申込書が届いていない場合は，講演申し込み書は受理されません．

⑶　招待講演について

招待講演は非会員のみとします．招待講演は1セッションにつき，半日あたり1講演に限ります．

⑷　発表申込書記入の注意

①すべての項目について楷書ではっきりと書いてください．

②講演方法については，「口頭」「ポスターセッション」，「どちらでもよい」のいずれかを選択して○印を付けて下さい．ただし，申し込み〆切後の変更はできません．

③発表題目，発表者氏名について，行事委員会では申込書と講演要旨原稿との照合・確認をしませんので，必ず両方を一

致させてご記入ください．

④共同発表の場合は全員の姓名を完記してください．所属は不要です．

⑤発表を希望するセッションは順位をつけて第3希望まで選び，セッション番号とセッション名（頭から8文字未満で適宜）を記入して下さい．

⑥コメント欄について：発表の対象とする地域の記入を要するセッションについてはこの欄に国名・県名等を記入して下さい．また，関係する一連の発表があるときは，その順番希望等もこの欄に記入して下さい．

⑦スライド使用について：口頭発表会場にはオーバーヘッドプロジェクター（OHP）を用意します．スライドプロジェクターは，経費節減のため確実にスライド使用の必要がある場合に限って，その都度用意します．スライドを必要とされる方は申込書の「スライド使用」に○印をつけて下さい．

⑧液晶プロジェクターの希望について：液晶プロジェクター使用は最近急速に普及してきましたが，機材を用意するのは現状ではなお困難が伴います．そこで今回は世話人の方々のご協力を得て，可能なかぎり液晶プロジェクターを準備していただきました．セッション一覧で「液晶有」の表示のあるセッションでは，世話人が液晶プロジェクターを用意していますので，プロジェクターの使用を希望される場合は申込書の「液晶希望」に○印を記入のうえ，世話人の指示を待ってください．「液晶無」の表示のあるセッションでは液晶プロジェクターの準備がありません．液晶プロジェクターをご自分で用意して使用したい場合は，「液晶希望」に○印を記入のうえ世話人に直接申請して下さい．世話人の方で使用の可否について決定させていただきます．なお，いずれの場合でも，プロジェクターとパソコンの接続等については発表者自身が責任を持ち，緊急の場合に備え発表用OHPも必ず用意して下さい．

8． 講演要旨原稿の提出について＜〆切7月31日（水），行事委員会扱い＞

一般講演者の原稿割当てはA4判1枚（p　のフォーマット参照）で，印刷仕上りで0.5ページ分です．1ページに2件分ずつ印刷します．原稿はそのまま版下となり，70％程度に縮小して印刷されます．文字サイズ，字詰めおよび鮮明度には十分配慮し，オリジナルか，鮮明にコピーした現物を1枚だけ郵送して下さい．ファックスやメールでの原稿送付は受け付けません．

9． 講演要領

⑴ 口頭発表

①講演時間は1題あたり15分（討論時間3分を含む）です．講演者は討論も考慮し余裕を持って講演を行ってください．

②オーバーヘッドプロジェクター1台とスクリーン1幕を使用できます．なお，スライド（35mm判，15枚以内）は必要に応じてプロジェクターを用意します．また，液晶プロジェクターを利用できるセッションもあります．それぞれ発表申込書で申告して下さい．持ち時間を十分に考慮して構成してください．ビラの使用はできません．

⑵ ポスター発表

①1題について1日掲示できます

②各日ともコアタイム（13：00–14：00）には発表者はその場に立ち会い，説明をするものとします．

③ボード面積は1題あたり，縦180cm，横180cmです．

④発表番号・発表題名・発表者名をポスターのタイトルとして明記して下さい．

⑤掲示に必要な画鋲等は，発表者がご持参下さい．

⑥ポスター会場では，コンピューターやビデオによる発表も許可しますが，使用する機器については発表者がご準備下さい．延長コードや机は準備委員会で準備します．講演申込みの際に使用の有無をコメント欄に記入して下さい．

⑦運営細則第11条　により，今回より優れたポスター発表に対して「日本地質学会優秀講演賞」を授与することになりました．具体的な事柄については，プログラムに掲載しますのでご注目ください．

⑶ 発表者の変更

あらかじめ連記されている共同発表者内での変更は認めますが，必ず事前に行事委員会へ連絡して下さい．この場合も新筆頭講演者については7項の　の条件が適用されます．

口頭発表の座長の依頼について

セッションによっては各会場の座長を参会者にお願いすることになります．あらかじめ座長依頼を差し上げることになりますが，その際には是非ともお引き受け・ご協力をお願いします．

10． 夜間小集会の申し込み要領＜申し込み〆切　6月28日（金），行事委員会扱い＞

9月15日（日），16日（月）（18：00～20：00）に夜間小集会の開催を希望する方は，①集会の名称，②世話人氏名，③集会内容（50字以内），④参加予定人数，⑤スライドプロジェクター・OHPの要・不要，⑥その他特記すべきこと，をハガキに明記して，行事委員会（東京）宛に申し込んで下さい．申し込み〆切は6月28日です．なお，世話人の方は，終了後集会の内容をニュース誌の大会記事用原稿としてご投稿下さい（800字以内，原稿〆切10月30日）

11． 各種申し込みと費用について：取り扱いはJTB新潟支店です．

今大会では，1）大会参加登録，2）講演要旨集の購入，3）見学旅行，4）懇親会，5）大会当日の弁当（昼食），6）新潟への交通，飛行機の団体割引，7）会期中の宿泊，などの申し込み受付と費用の取り扱いの一切を，JTB新潟支店に依頼しました．該当する項目（12～16）には「JTB扱い」と記してありますのでご注意下さい．今会期中には新潟市周辺で，他の大規模行事の開催が予定されているため，個人による宿泊予約は困難が予想され，交通の混雑も考えられます．大会の参加申し込みとともに乗り物や宿泊なども早めに予約申込みをされることを強くお勧めします．

(1) JTB新潟支店扱いの全てのお申し込みは，巻末に掲載の申し込み用紙で一括申込みできます．1枚につき3名分まで記入できます．
(2) 変更・追加・取り消しの場合も上記の申込用紙で行っていただきますので，万一に備え書式をコピーしてご利用下さい．
(3) 申し込み受付後，9月初旬頃にJTB新潟支店から確認書（参加証・引換証など）・請求書・振込用紙が届きますので，折返し1週間以内にご送金下さい．
(4) 確認書は，大会当日会場受付にご持参いただきますので，大切に保管して下さい．
(5) 取り扱いに必要な手数料は利用者負担となります．大会参加費と講演要旨集の申し込みだけの場合は1名につき手数料200円，その他見学旅行・懇親会・交通・宿泊などを伴う場合は1名につき手数料500円です．
(6) 取り消しなどにより返金する場合は，所定のキャンセル料のほかにJTBの手数料・返金振込料を差し引いた額となります．

12． 参加登録申し込みおよび参加登録費（講演要旨集付き）について＜申し込み〆切　8月31日（土），JTB扱い＞

当日の受付での混雑緩和のため，事前に参加登録申し込みをお願いします．大会参加登録およびそれに伴う参加費は，全ての参加者（見学旅行のみの場合も）に必要な基本的なお申し込みです．ただし，会員が同伴する非会員の配偶者ならびに子供については必要ありません．

お申し込みは巻末の申し込み用紙を用い，JTB新潟支店宛に申し込んでください（1枚で3名分まで記入可能）．申し込み書を受付けた後，JTB新潟支店から確認書（参加証・引換証など）・請求書・振込用紙が届きますので，お手元に到着後1週間以内にご送金下さい．

*参加登録費（講演要旨集付きです．講演要旨集が不要の場合でも割引はありません）

正会員：3500円（当日払い4500円）

院生割引会費適用正会員・学生会員・名誉会員・非会員学部学生：2500円（当日払い3500円）

非会員（一般・院生）：5000円（当日払い6000円）

*なお，大会に参加できなかった場合は，大会後に講演要旨集をお送りします．費用の返却はいたしませんのでご了承下さい．

13． 講演要旨集のみの予約頒布について＜予約〆切　8月31日（土），JTB扱い＞

大会参加費は講演要旨集付きですので，大会に参加される場合は別途購入の必要はありません．大会に参加されない方ならびに参加する方でも複数の講演要旨集を購入される場合の予約頒布です．巻末の申し込み用紙に必要部数を記入し，JTB新潟支店宛に申し込んで下さい．要旨集の受け取り方法として，①大会後に送付，②会場で受取り，があります．①の場合は別途送料が必要です．②の場合は大会受付にて確認書が必要となりますので，ご承知おき下さい．残部があれば大会当日あるいは大会後にもお頒けしますが，売り切れの際はご容赦下さい．

*前金予約　会員　3000円/冊，非会員　4000円/冊（送付の場合は下記の送料を付加して下さい．）

送料：1冊　500円，2冊　600円，3冊　800円，4冊　1000円，5冊　1200円

*予約外（当日販売）：会員　3500円/冊，非会員　4500円/冊

14． 見学旅行参加申し込み要領＜申し込み〆切　8月10日（土），JTB扱い＞

会期前に1コース，後に9コース，合わせて10コース（班）の見学旅行を計画しました（p.　,　の表2.参照）．参加希望の方は，巻末の申し込み用紙を用い，JTB新潟支店宛に大会参加申し込みとともに申し込んでください（1枚につき，3名分まで記入可能）．見学旅行だけに参加するという場合も大会参加登録ならびに参加費は必要です．見学旅行と大会参加登録の申し込みを合わせて行って下さい．申し込み書を受付けた後，JTB新潟支店から確認書（参加証・引換証など）・請求書・振込用紙が届きますので，お手元に到着後1週間以内にご送金下さい．

(1) お申し込みに際し，希望の班が満員の場合に備え，①キャンセル待ち，②第2，第3希望の班の指定，③他班希望なくキャンセル待ちせず，のいずれかを必ず指定して下さい．
(2) 参加者が定員の3/4未満の場合は見学旅行を中止することがありますので，予定が決まり次第，お早めの申し込みをお願いします．
(3) 非会員の方は，申し込み〆切時点で定員に余裕があれば参加可能となりますので，予めお申し込みおき下さい．
(4) 日本地質学会ならびに同新潟大会準備委員会は見学旅行参加者に対し，見学旅行中に発生する病気，事故，傷害，死亡等に対する責任・補償をいっさい負いません．これらについては，見学旅行費用に含まれる保険の範囲でまかなわれます．
(5) 子供同伴の場合など特殊な事情がある場合は，申し込み前に見学旅行係（志村俊昭，smr@gs.niigata-u.ac.jp）へあらかじめお問い合わせ下さい．
(6) 参加取り消しの場合は必ず申込書にてJTB新潟支店宛連絡して下さい．費用送金の如何にかかわらず，申込み受付後はキャンセル料が発生します．申し込み受付後は参加費用の50％（出発の2日前以降の場合は全額）をキャンセル料としていただきます．また，万一費用の振り込み後に当該旅行が中止になった場合は，JTBの手数料・返金振込料を除いた金額をお返しすることになりますのでご了承下さい．
(7) 集合・解散の場所，時刻などを変更することもありますので，大会期間中は掲示などの案内に注意してください．
(8) 見学旅行案内書は会期中，会場で販売します．会場で購入することができない場合（大会不参加または見学旅行のみ参加）は見学旅行係へお申し込み下さい．

15． **懇親会参加申し込み要領＜申し込み〆切　8月31日（土），JTB扱い＞**

懇親会は9月14日（土）午後6時から8時まで，新潟大学第一学生食堂で行います．会費は正会員5,000円，名誉会員・院生割引会費適用正会員・学生会員および会員の家族は2,500円です．非会員の会費は会員に準じます．準備の都合上，前金制の予約参加とします．新潟特産の美味しい酒と肴を準備して，たくさんの方々，特に院生・学生などの若手会員のご参加をお待ちしております．余裕があれば当日参加も可能ですが，予定数に達し次第しめ切りますし，会費はそれぞれ1,000円ずつ高くなります．

予約申し込みは，巻末の申し込み用紙を用い，大会参加申し込みと合わせて，JTB新潟支店宛，8月31日（土）までにお申し込み下さい．当日は確認書を受付にご持参下さい．なお，参加取り消しの場合でも会費の返却はいたしませんのでご了承下さい．また，懇親会終了後，新潟市街地まで貸し切りバスを運行しますのでご利用下さい．

16． **宿泊・交通について＜申し込み〆切　8月10日（土），JTB扱い＞**

基本的には新潟市内での宿泊，JR乗車券・特急券，航空券の斡旋になります．詳細はp.　～　の案内をご覧になり，巻末の申込書にてJTB新潟支店宛お申し込み下さい．

なお，共済関係宿泊施設は以下のものがありますが，JTBでは扱いませんのでご利用の際は，直接施設にお申し込み下さい．

・万代荘（建設省共済組合）　南笹口2-1-22　電話：025-244-1796
・新潟会館（公立学校共済組合）　幸西3-3-1　電話：025-247-9307
・信濃川会館（警察共済組合）　川岸町2-14　電話：025-231-4151
・新潟厚生年金会館（厚生年金福祉施設）　南万代町1-8　電話：025-243-3551
・新潟厚生年金スポーツセンター（厚生年金福祉施設）　赤塚4627-1　電話：025-239-3232
・メルパルク新潟（郵便貯金会館）　川岸町2-1-7　電話：025-232-0101

17． **関係書籍類の販売および見本展示，機器等の展示・販売申し込み＜申し込み〆切　8月10日（土），準備委員会扱い＞**

年会開催期間中の展示・販売関係は，9月14日（土）～16日（月）（会場：新潟大学）の3日間とします．問い合わせおよび申し込みは8月10日（土）までに直接準備委員会へお願いします．

係：新潟大学　加々美寛雄　電話 025-262-7640，Fax 025-262-6194，メールアドレス：kagami@gs.niigata-u.ac.jp

18． **保育室の開設＜利用申し込み〆切　8月9日（金），準備委員会扱い＞**

乳幼児・児童を同伴する大会参加者のために，大会会期中，下記の利用要領と設置要領で保育室を設けます．保育室の利用には事前の申し込みが必要です．保護者同伴でベビーシッターを頼まずに部屋の使用を希望する方もご相談下さい．

(1) 利用要領

①申し込み先：新潟大会準備委員会保育室係　藤林紀枝（メールアドレス：fujib@ed.niigata-u.ac.jp，電話/Fax 025-262-7156）

②申し込み必要事項

a.　保護者氏名と連絡先：地質学会会員は学会登録名でお願いします．また，パートナーと一緒に参加される方は，パートナーの氏名も書いて下さい．

b.　子供の氏名，性別，生年月日，9月14日時点の年齢・月齢・出産予定日

c.　9月14，15，16日の利用希望の時間

d.　緊急連絡用のポケットベル，携帯電話の番号，および［レンタル希望］についての情報

③誓約書とシッターさんに渡す子供の情況メモなどについては当日お渡しします．保育最初の日は余裕をもっておいでください．

(2) 保育室設置要領

①保育室：大会会場の新潟大学教育人間科学部3Fの1室を使用します（96 m^2）．部屋はカーペット敷きで，お昼寝用具，小型の冷蔵庫，おもちゃやビデオ（子供の年齢に相当する）を用意します．トイレは保育室の近くにあります．

②食事・おやつ：希望があれば，おやつと飲み物（別料金）を用意できます．昼食については保護者のほうでご準備下さい（大学近辺にコンビニエンスストア，薬屋あり）．

③設置時間帯：9月14日から16日の大会期間中の朝9時から夜8時まで．

④利用料金：最近の実績から，1時間500～700円程度を見込んでいますが，利用者の数などにより変動します．

⑤託児サービス委託業者：(株)鈴商　キッズメイト事業部（電話 025-247-8301，Fax 025-541-1880，メイルアドレス：suzushor@on.rim.or.jp）

⑥病気・事故：日本地質学会ならびに新潟大会準備委員会は保育時における病気，事故等に対する責任をいっさい負いません．これらの補償はベビーシッター契約の保険の範囲でまかなわれます．保護者が責任をもって対応して下さい．病児保育は行えません．大会期間中の急病の場合の医院等の情報は，保育室に掲示します．世話人に気軽にご相談下さい．

19． **準備委員会組織**

諸連絡の代表窓口は大会事務局の豊島剛志（電話 025-262-6199，Fax 025-262-6194，メールアドレス：ttoyo@geo.sc.niigata-u.ac.jp）です．また，内容によっては，それぞれ担当が決まっていますので，下記の中で該当する係（代表者）に直接ご連絡下さい．複数で担当の場合，*付きが代表者です．下記氏名の次のカッコ内は，各係の代表者の連絡先（電話，メール

アドレス）を示しています．電話は025−262−に続く番号を，メールアドレスはniigata-u.ac.jpに先立つ文字を示しています．
大会準備委員長：周藤賢治（6188，shuto@geo.sc.）
事務局：豊島剛志*（6199，ttoyo@geo.sc.）・立石雅昭（6187，sedta9-4@geo.sc.）
会計：栗田裕司（6374，kurita@geo.sc.）
プログラム：宮下純夫*（6193，miyashit@geo.sc.）・松岡　篤
会場：新川　公*（6373，awakiin@geobio.ge.）・藤林紀枝・高濱信行・高澤栄一
見学旅行：志村俊昭*（7494，smr@gs.）・卜部厚志・黒川勝己
懇親会：小林健太*（7384，kenkoba@gs.）・久保田喜裕
普及・企画：赤井純治（6186，akai@geo.sc.）
展示・販売：加々美寛雄（7640，kagami@gs.）・荒戸裕之
渉外：周藤賢治（6188，shuto@geo.sc.）・山岸宏光・荒戸裕之
宿泊・交通：田澤純一（6327，tazawa@geo.sc.）
保育室：藤林紀枝（7156，fujib@ed.）

20．申し込みスケジュール確認＜〆切日厳守＞

⑴ JTB新潟支店に申し込むもの（申込書を郵送またはFax）
①見学旅行　8月10日（土）
②宿泊・交通　8月10日（土）
③大会参加（参加登録費・講演要旨集代の事前支払い）　8月31日（土）
④講演要旨集頒布（大会に参加しない方および複数購入用）　8月31日（土）
⑤懇親会・弁当　8月31日（土）

⑵ 地質学会行事委員会（東京）に申し込むもの
①一般講演（往復ハガキ）　6月28日（金）
②夜間小集会　6月28日（金）
③講演要旨原稿提出　7月31日（水）

⑶ 準備委員会（新潟）に申し込むもの
①賛助会員・企業等団体展示会（係代表へ）　6月28日（金）
②保育室利用（係代表へ）　8月9日（金）
③販売・見本の展示（係代表へ）　8月10日（土）
④市民向け体験学習ツアー（係代表へ）　9月8日（日）

日本地質学会行事委員会
〒101−0032　東京都千代田区岩本町2丁目8−15　井桁ビル6F
電話　03−5823−1150，Fax　03−5823−1156
メールアドレス：geosocjp@ra2.so-net.ne.jp

日本地質学会第109年年会（新潟大会）準備委員会
新潟大学理学部地質科学教室
〒950−2181　新潟市五十嵐二の町8050
電話　025−262−6197（地質科学教室事務室），Fax　025−262−6194

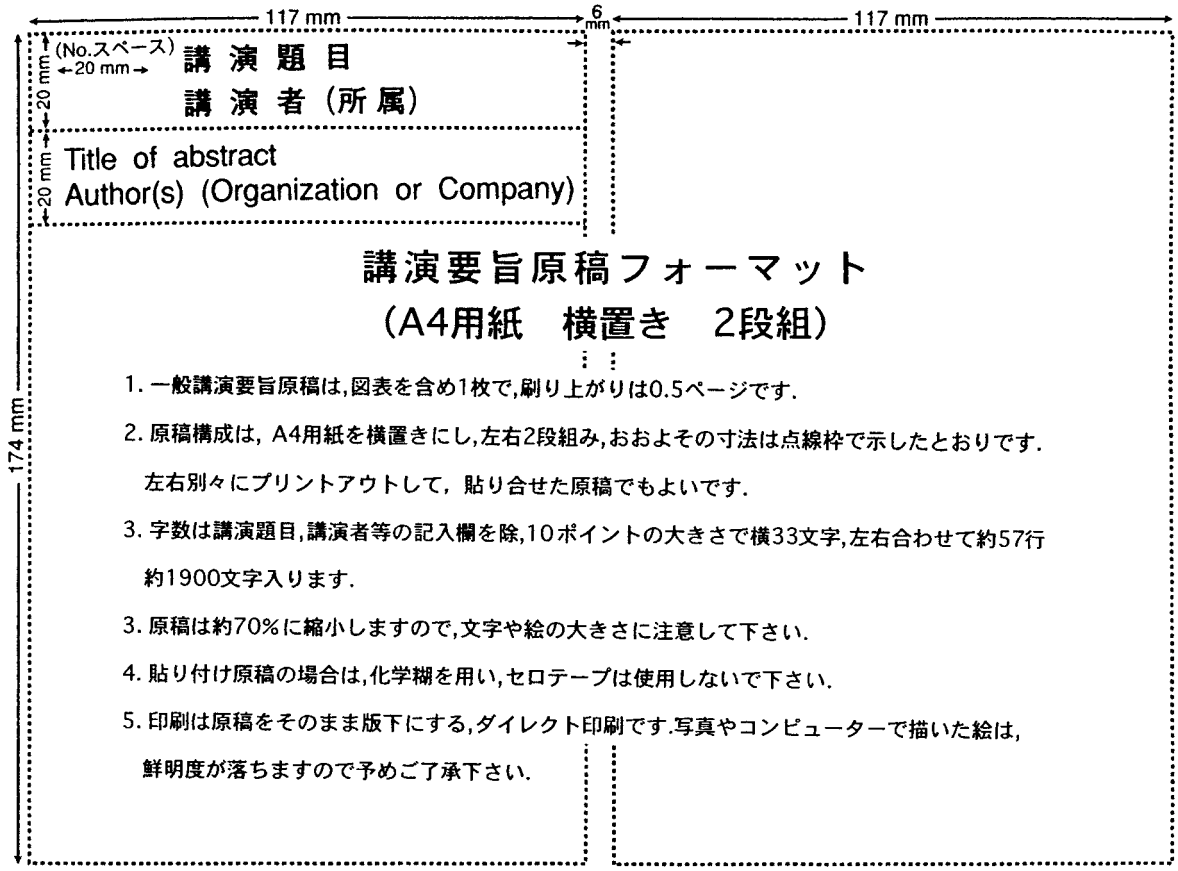


表1.　セッション一覧

とくに断りのないものは口頭とポスターの両方を募集します．申し込み時に地域名が必要なセッションには「地域名必要」と添え書きがあります．液晶プロジェクターを用意できるセッションは「液晶有」，用意していないセッションは「液晶無」の表示がついています．詳しくは　ページの⑧液晶プロジェクター使用についての項目をご覧下さい．

セッションテーマ，（提案部会名）(地域名必要，液晶プロジェクター有・無)，世話人（*印：責任者），趣旨の順に掲載．

*提案部会に関わりなく，会員はいずれのセッションにも応募できます．ただし，応募は会員1名につき講演は口頭かポスターのいずれか1件に限ります．

【カレント・トピックセッション：9件】

1.　**日本列島とアジア大陸の地質学的連続性（液晶無）**

*田沢純一（新潟大理　tazawa@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・石渡　明（金沢大理）・大藤　茂（富山大理）

日本列島の地体構造とその形成プロセスを考察するうえで，アジア大陸のとくに朝鮮半島，中国，ロシア極東地域の地質学的情報は重要である．本セッションでは，日本列島の中・古生界を中心に据えて，それが上記東アジア周辺地域の地質とどのように関連し，連続するのかを問題にし，取り上げる．層序・構造・岩石・古生物・鉱床などさまざまな分野から情報をもちより，討論し，今後の研究の発展を目指したい．

2.　**オフィオライト・マントル岩体・付加体緑色岩・海洋底岩石（液晶無）**

*石渡　明（金沢大理　geoishw@kenroku.kanazawa-u.ac.jp）・荒井章司（金沢大理）

オフィオライトや海洋底の研究が精力的に行われ，また新たな海洋底掘削時代を迎えつつある現在，地殻―マントル過程の理解についても新たな局面を切り開く必要がある．その一環として，オフィオライト，緑色岩体，海洋底などの複合的な地質体や深部起原のかんらん岩体などの最新の情報を持ち寄り，地殻―マントル系の生成および改変についての議論を行う．幅広い関連分野の研究者の参加を希望する．

3.　**堆積盆テクトニクス（液晶有）**

*山路　敦（京大理　yamaji@kueps.kyoto-u.ac.jp）・保柳康一（信州大理）・荒戸裕之（(株)帝国石油）

前回の新潟における学会以来，堆積盆に関する研究は長足の進歩をとげた．本セッションの目的は，様々な地域で集積された堆積盆テクトニクスの事例研究や，それと併行して進展した層序・堆積作用・地質構造・石油地質などにもとづく

方法論的研究を紹介し議論することである．広範な分野からの話題提供を期待する．

4. **紀伊半島とその周辺における中新世火成作用とテクトニクス（液晶有）**

星　博幸（愛知教育大）・岩野英樹（(株)京都フィッション・トラック）・新正裕尚（東京経済大）・*角井朝昭（産業技術総合研究所　tomo-sumii@aist.go.jp）

紀伊半島には多様な初期～中期中新世の地質ユニットが分布する．この数年の間に，これらの各地質ユニットについては様々な新知見がもたらされつつあるが，これらの地質事象の時空分布についての統合的理解には至っていない．本セッションでは，異なった専門分野の研究者を集め，個別の地質事象を西南日本の時計回り回転イベント前後での，テクトニクス場の急変史の中で位置づけることを目指す．

5. **マグマ上昇・噴出システム（火山部会）（液晶有）**

山岸宏光（新潟大理）・*藤林紀枝（新潟大教育　fujib@yahiko.ed.niigata-u.ac.jp）・高田亮（産業技術総合研究所）

最近，有珠火山や三宅島火山の噴火で様々な噴火現象が観測されている．これらの観測事実と火山噴出物等の研究から，火山噴火の際のマグマとガスの挙動や噴火メカニズムを明らかにしていくことは重要である．そこで，マグマの上昇・噴出システムに関係する野外での噴出物（陸上・水中）・貫入岩の産状や噴火現象の記載，実験，数値計算などの広い範囲の話題提供を歓迎する．発表形式は主にポスターとする．

6. **環日本海・オホーツク海の火成活動とテクトニクス（地域名必要，液晶無）**

*周藤賢治（新潟大理　shuto@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・池田保夫（北教大釧路）・石渡　明（金沢大理）・岡村　聡（北教大札幌）・巽　好幸（海洋科学技術センター）・土谷信高（岩手大教育）・中川光弘（北大理）

日本列島においては，沈み込む海洋地殻の溶融によって生成されたマグマに由来すると考えられる花崗岩や安山岩などが，前期白亜紀～第四紀に形成されていることが明らかになってきている．これらの火成岩と他の火成岩との成因関係や，白亜紀以降の環日本海・オホーツク海地域の火成活動とテクトニクスの関連などについて意見交換を行い，今後の研究課題を明らかにしたい．幅広い関連分野の研究者の参加を希望する．

7. **アイソクロン年代はどこまで使えるか（液晶有）口頭のみ，ポスターなし**

*中島　隆（産総研地質調査総合センター　tngeoch.nakajima@aist.go.jp）・鈴木和博（名古屋大年代測定総合研究センター）・加藤丈典（名古屋大年代測定総合研究センター）・原山　智（信州大理）・加々美寛雄（新潟大理）

アイソクロンを用いた年代データはこの10～20年の間に大量に生産され，日本の地域地質学に使われてきたが，発表されたデータの評価はあまり議論されてきていない．アイソクロンによって年代を決定する場合の問題点を，年代データを生産したことのある人とそれを利用したことのある人の間で忌憚なく意見交換し，アイソクロン年代はどのような場合に使えるか使えないかを議論したい．

8. Natural Attenuation と Natural Analog－Green Geology の確立のために－（液晶無）口頭のみ，ポスターなし

*楡井　久（nirei@mito.ipc.ibaraki.sc.jp）・赤井純治（新潟大理）・楠田　隆（千葉県地質環境研究室）・丸茂克美（産総研）・難波謙二（東大農）・田崎和江（金沢大理）・吉田英一（名大博物館）

1995年にクリントン前米国大統領によって，“Presidential Green Chemistry Challenge”が宣言され，各国の化学界からもGreen Chemistryの意味が理解され，その重要性が認識されてきている．日本地質学会でも世界の地質学界に先駆け，金沢大会でGreen Geologyのセッションを持ち，環境汚染問題に生物を含む無害天然資源を用いた汚染浄化法，Natural Analogを含む自然浄化ポテンシャル，エネルギー利用の最小を目指す地域開発が提唱された．だが国の地域に根ざした地質環境学は，Green Geologyの主翼となり，本格的な国際貢献をする研究に発展する可能性が秘められている．本セッションでは無害天然資源を用いた地質汚染浄化や核廃棄物の処理などの発表と討論を行う．

9. **第四紀末期における沖積低地の形成史と災害・環境地質の諸問題（液晶無）**

*卜部厚志（新潟大災害研　urabe@gs.niigata-u.ac.jp）・風岡　修（千葉県地質環境研究室）・古野邦雄（千葉県環境研究センター）・坂東和郎（社団法人雪センター）・三田村宗樹（大阪市大理）・岡　孝雄（北海道地質研究所）・安井　賢（新潟基礎工学研究所）・久保田喜裕（新潟大理）・高濱信行（新潟大災害研）

現在に直接つながる第四紀末期の層序・堆積物の性質・運動（ネオテクトニクス・埋没断層を含む）など地域地質を基礎として，沖積層（未固結堆積物）・沖積低地の災害・環境地質に関連したことがら（土砂災害・液状化・異常震動域・地質汚染・地盤沈下・地下水などの諸問題）を広く取り上げる．沖積低地の後背地として，丘陵部における第四紀後期の変動・諸現象も含む．ポスターでの応募も歓迎．

【定番的セッション：25件】

10. **地域地質・地域層序（地域地質部会・層序部会）（地域名必要，液晶無）**

*斎藤　眞（産総研地質調査総合センター　saitomkt@ni.aist.go.jp）・岡田　誠（茨城大理）・天野一男（茨城大理）

国内，海外問わず各地域に関係した地質や層序の発表を広く募集．地域的な年代，化学分析，リモセン，活構造，応用地質等の発表も歓迎．地域を軸にした討論を期待する．地質図や断面図のポスター発表を特に歓迎．惑星地質も．

11. **年代層序スケールと地質年代学（層序部会）（地域名必要，液晶無）**

角井朝昭（産総研）・亀尾浩司（千葉大）・*岡田　誠（茨城大　okada@mito.ipc.ibaraki.ac.jp）

古地磁気層序，生層序，同位体層序，天文年代学など異なる層序学の間の対応関係や放射年代等により，グローバルな

年代層序スケールの構築に寄与するような研究や，年代測定法の開発や改良に関する研究．多くの分野の方が参加できるよう，ポスター発表を特に歓迎．

12.　地域間層序対比（層序部会）（地域名必要，液晶有）

黒川勝己（新潟大）・*岡田　誠（茨城大　okada@mito.ipc.ibaraki.ac.jp）

テフラ等の鍵層を用いて異なる地域間の層序対比に主体をおく研究講演を募集．テフラの岩相や給源火山の推定といった鍵層そのものを主体とした研究講演も歓迎する．

13.　海洋地質（海洋地質部会）（地域名必要，液晶有）

*西村　昭（産総研海洋資源環境研究部門　akira-nishimura@aist.go.jp）・湯浅真人（産総研地質調査情報部）・氏家　宏

海洋地質に関連する分野（海域の地質・テクトニクス・堆積学・海洋学・古環境学・陸域地質での海洋環境変遷研究など）を募集．調査速報・アイデアの公表，海底地形・地質・画像データなどのポスター発表を歓迎する．

14.　砕屑物組成・組織と続成作用（堆積地質部会）（地域名必要，液晶無）

*竹内　誠（名古屋大理　takeuchi@eps.nagoya-u.ac.jp）・公文富士夫（信州大理）

砕屑物を構成する粒子の様々な特性（モード組成・化学組成など）や砕屑物の組織特性から，砕屑岩の形成過程や続成過程を復元し，後背地や地質体の発達史などを議論する．

15.　炭酸塩岩の起源と地球環境（堆積地質部会）（地域名必要，液晶有）

*山田　努（東北大理　yamada@dges.tohoku.ac.jp）・坂井三郎（JAMSTEC・IFREE）

炭酸塩岩・炭酸堆積物の組織，構造，岩相・生物相，層序，堆積作用，地球化学，続成作用，ドロマイト化作用などの，炭酸塩に関わる広範な研究発表を募集する．また，現世炭酸塩の堆積作用・発達様式や生物・生態学的な視点からの研究発表も歓迎する．

16.　堆積相と堆積システム・シーケンス（堆積地質部会）（地域名必要，液晶有）

*高野　修（石油資源開発技研　takano-o@rc.japex.co.jp）・伊藤　慎（千葉大理）

堆積相の分類・記載，その時空分布をもとにした堆積システムの認定や解釈などを扱う．また，堆積相解析を基礎にした堆積システム変遷の解析はシーケンス層序へと進展する．こうした地層形成過程のダイナミックな復元に関連する研究発表と議論を行う．

17.　堆積作用・堆積過程（現行地質過程部会・堆積地質部会）（地域名必要，液晶無）

*斎藤文紀（産総研海洋資源環境研究部門　yoshiki.saito@aist.go.jp）・宮田雄一郎（山口大理）

堆積作用や堆積過程に関して，実験・シミュレーション・現地観測および地層観察などに基づいた研究を募る．特定の地域や年代を超えて適応可能な，新しい解析手法や多方面からのアプローチによる堆積関連の研究も募集する．ポスター発表大歓迎．

18.　石油・石炭地質学（地域名必要，液晶無）

*秋葉文雄（石油資源技研　dtakiba@rc.japex.co.jp）・鈴木祐一郎（産総研地圏資源環境）

国内外の石油・石炭地質に関する講演を集め，石油・天然ガス・石炭鉱床の成因・産状・探査手法など，特にトラップ構造，堆積盆，堆積環境，貯留岩，根源岩，石油システム，資源量，炭化度などについて討論する．

19.　岩石・鉱物の破壊と変形（構造地質部会）（液晶有）

*小林健太（新潟大自然科学　kenkoba@gs.niigata-u.ac.jp）・大谷具幸（産総研地圏資源環境研究部門）

断層岩を含む岩石・鉱物の破壊および変形機構，変形微細構造，岩石・鉱物のレオロジーや物性に関する研究を募る．観察・観測・分析理論・数値計算など多方面からのアプローチを歓迎する．

20.　付加体（構造地質部会）（液晶有）

*大塚　勉（信州大理　otsukat@gipac.shinshu-u.ac.jp）・倉本真一（産総研海洋資源環境研究部門）

現世から過去の付加体まで，その形成史，形成機構などに関する総合的な付加体研究の討論を行う．また付加体形成と巨大地震発生の関係について，社会的にもインパクトの大きいこの科学テーマに関して，様々な学際的アプローチによる最新成果をもとに議論を行う．

21.　テクトニクス（構造地質部会）（液晶有）

*川村信人（北大院理　mkawa@strati.sci.hokudai.ac.jp）・星　博幸（愛知教育大理科教育）

地球科学の多方面からのアプローチによる，大小さまざまなスケールの地質構造の成因や形成機構・発達史に関する講演を広く募集する．

22.　ノンテクトニック構造（構造地質部会・応用地質部会）（液晶有）

*永田秀尚（(有)風水土　nagatah@concerto.plala.or.jp）・宮田雄一郎（山口大）・田近　淳（北海道立地質研）

地表近くで形成される，地すべり（地上・海底を問わず）などによる構造・地震時に形成される構造・重力性の構造，および，これらとテクトニックな構造との比較・応用地質学への適用などを扱うセッション．さまざまな分野からの参加を期待する．

23.　新生代古生物（古生物部会）（地域名必要，液晶有）

*天野和孝（上越教育大自然系　amano@juen.ac.jp）・入月俊明（島根大総合理工）

新生代の無脊椎動物化石と植物化石を対象とし，タフォノミー，化石群集に基づく古環境解析，古生態，古生物地理な

どに関する新見地およびそれらに関する新しい解析方法を発表し，広く議論を行う．

24.　中・古生代古生物（古生物部会）（地域名必要，液晶無）

*江崎洋一（大阪市大理　ezaki@sci.osaka-cu.ac.jp）・鈴木雄太郎（静岡大理）

中・古生代の古生物に関する情報は，年代・環境指標として地質学に不可欠である．それらを，系統・分類・古生態・生層序・タフォノミー・古生物地理などの視点から取り上げたい．

25.　脊椎動物化石（古生物部会）（液晶無）

*仲谷英夫（香川大工　nakaya@eng.kagawa-u.ac.jp）・堀川秀夫（新潟県小千谷市）

脊椎動物化石に関しては近年，北陸地方をはじめ，国内外での新たな発見があり，また，新しい手法による研究も進んでいる．従来の系統分類や古生物地理に関する研究だけでなく，生物相の変化による環境変遷解析，生物層序の再検討，同位体を用いた古生態解析，精密な機能形態復元など，地質学以外の地球科学や生物科学の諸分野の研究者との共同研究を通じて新しい研究の展開がみられる．これらの話題について活発な討論を期待する．

26.　噴火と火山発達史（火山部会）（液晶有）

*山元孝広（産総研　t-yamamoto@aist.go.jp）・早川由紀夫（群馬大教育）

マグマの上昇過程や噴火様式，噴火経緯，噴出物の移動・運搬・堆積，特定火山あるいは火山地域の発達史，火山活動とテクトニクスおよびその他火山地質に関する研究成果を対象とする．

27.　深成岩・火山岩とマグマプロセス（岩石部会・火山部会）（液晶有）

*土谷信高（岩手大教育　tsuchiya@msv.cc.iwate-u.ac.jp）・藤縄明彦（茨城大理）

深成岩・火山岩を対象に，マグマプロセスにアプローチした研究発表を広く募集する．発生から定置・固結に至るまでのマグマの物理・化学的挙動や，テクトニクスとの関連について，野外地質学・岩石学・地球化学・年代学など様々な視点からの活発な議論を期待する．

28.　変成岩とテクトニクス（岩石部会）（液晶無）

*榎並正樹（名大院環境　enami@eps.nagoya-u.ac.jp）・小山内康人（岡大教育）

国内および世界各地の変成岩を主な対象に，記載的事項から実験的・理論的考察まで，またマイクロスケールから大規模テクトニクスまで，あらゆる地球科学的分野を網羅して，様々な視点に立った斬新な話題提供と活発な議論を期待する．

29.　岩石鉱物一般（岩石部会）（地域名必要，液晶無）

*高澤栄一（新潟大理　takazawa@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・赤井純治（新潟大理）

岩石学，鉱物学，鉱床学，地球化学など，地質学に関連する地球・惑星物質科学全般にわたる研究発表を広く募集する．環日本海地域に関連した研究発表も歓迎する．

30.　情報地質（情報地質部会）　ポスターのみ，口頭なし

*坂本正徳（cigma@kokugakuin.ac.jp）

地質情報の数理解析，統計解析，データ処理，画像処理などの理論，応用，システム開発，利用技術など，最近の情報地質分野の研究結果を対象とする．また，これらの成果の地質学の広い分野への応用・普及なども歓迎する．

31.　環境地質（環境地質部会）（液晶無）

*田村嘉之（千葉県環境財団　tamura-yoshiyuki@pop07.odn.ne.jp）・風岡　修（千葉県地質環境研究室）・三田村宗樹（大阪市大理）

地盤沈下，湧水，水資源，湖沼・河川，都市環境問題，法地質学，環境教育，地震動，液状化・流動化，地震災害，岩盤崩落など環境地質にかかわる研究の発表・討論を行う．

32.　応用地質学一般（応用地質部会）（地域名必要，液晶有）

*野崎　保（(株)中部日本鉱業研究所　nozaki@cnktec.co.jp）・横田修一郎（島根大総合理工）

わが国ならびに世界各地における種々の地質ハザードの実態，調査，解析，災害予測，ハザードマップの構築手法，土木構造物の設計・施工に関わる調査，解析などの応用地質学の視点にたった幅広い地質学研究についての発表・討論を行う．

33.　地学教育・地学史（液晶無）

阿部国広（川崎市西有馬小）・*佐瀬和義（練馬高　fax 03-3976-0872）・府川宗雄

新指導要領の施行に関連した，新しい実践を求める．小・中学校教員会員の積極的な参加を期待する．

34.　第四紀地質（地域名必要，液晶無）

*高安克己（島根大　takayasu@soc.shimane-u.ac.jp）・吉川周作（大阪市大）・立石雅昭（新潟大）

第四紀地質学に関連する全ての分野［環境変動・気候変動・湖沼堆積物・地域層序など］からの発表を含む．また，新しい調査・研究方法の開発や調査速報なども歓迎する．

表2.　見学旅行一覧

＊概算参加費用にはバス等の交通費，宿泊料，保険料，施設入場料などを含みますが，昼食代は原則として含みません．申し込み〆切りは8月10日（土）です．キャンセルの場合，申し込み受付後は参加費用の50％（出発の2日前以降の場合全額）をキャンセル料として頂きます．

＊参加者が定員の3/4未満の場合は見学旅行を中止することがあります．集合・解散の場所，時刻などを変更することもありますので，学会期間中は掲示などの案内に注意してください．また，備考に記されている公共交通機関の時刻は4月現在のもので，今後変更される可能性があります．

＊子供を同伴するなど特殊な事情がある場合は，申し込み前に見学旅行係（志村俊昭，smr@gs.niigata-u.ac.jp）へあらかじめお問い合わせ下さい．

＊案内書や地形図は参加費用に含まれていません．大会期間中に会場にて販売しますので，各自購入してください．

[番号，略称] 班名称	見学コース	主要見学対象	期日	定員	案内者 (*リーダー)	概算参加費用	地形図	備考
[1．韓国] 韓半島中南部の地質	新潟空港集合（7：30)→ソウル空港→忠南市（泊），忠州→慶尚北道→安東市（泊），安東市→浦項→慶州（泊），慶州→仏国寺→石窟庵→普門湖→慶州（泊），慶州→ソウル空港→新潟空港（17：00着）	韓半島南部の地質を対象とし，沃川帯（プレカンブリア紀），慶尚盆地白亜系，浦項盆地第三系，慶州の世界遺産．	9/9–13 (4泊5日)	20名	李鉉具＊（忠南大）・尹銑（釜山大）・孫炳國（韓国資源研究所）・立石雅昭（新潟大）	120,000–150,000円（航空運賃含む）	案内者がコピー配布	プレ巡検．韓国内では中型バス使用予定．日本では見られない地質・岩石，そして文化に触れます．費用はできるだけ安くあげます．
[2．青海] 青海石灰岩と周辺の中・古生界	8：00 新潟駅南口集合→青海町自然史博物館（昼食）→青海電化東山採石場→清水倉→外波（泊)→親不知・上路 虫川不動滝(昼食)→小滝ヒスイ峡→フォッサマグナミュージアム→16：30 糸魚川駅→18：30 燕・三条駅→19：30 新潟駅南口解散	青海町自然史博物館，青海石灰岩，親不知火山岩類，手取層群，虫川・姫川コンプレックス，小滝ヒスイ峡，明星山南壁，フォッサマグナミュージアム．	9/17–18	20名	田沢純一＊・新川　公（新潟大）・茨木洋介（青海町自然史博）・長谷川美行	22,000円	1：2.5万 糸魚川・小滝・親不知	貸切バスを使用するので徒歩区間ほとんどなし．参加者が10名以下の場合は中止．帰路は糸魚川駅（JR北陸線），燕・三条駅（JR上越新幹線）で途中下車可．宿泊：まるたん坊（0255–62–3002)，糸魚川駅からJR特急金沢行 17：43，燕・三条駅からJR新幹線東京行 18：49，19：55，新潟駅からJR特急酒田行 20：02．
[3．上越帯] 上越帯・足尾帯西帯の岩石構成と構造	8：00 新潟大学西門駐車場集合→巻潟東IC→小出IC→奥只見の酸性凝灰岩層，泥質岩メランジ（昼食)→水無川変成岩→中ノ岳変はんれい岩体→六日町IC→沼田IC→川場村（泊)→川場変成岩→岩室層→戸倉沢層（昼食)→尾名沢層→16：00 上毛高原駅解散	上越国境地帯の中・古生界．ペルム紀酸性凝灰岩層・変塩基性岩を含む泥質岩メランジ（岩相と構造)，水無川変成岩・川場変成岩（低度変成岩の岩相と変形構造)，中ノ岳変はんれい岩体（角閃岩，変はんれい岩と泥質片岩）岩室層・戸倉沢層（浅海汽水成中生界の岩相と堆積構造)，尾名沢層（超丹波帯相当層の岩相，時間がある場合のみ，または，オプション)．	9/17–18	20名	竹之内耕＊（フォッサマグナ博）・滝沢文教（応用地質）・宮下純夫（新潟大）・木村公志（アイドール）・大河内誠（アイドール）	15,000円（1日目の昼食は各自持参）	1：2.5万 未丈が岳，高幽山，八海山，兎岳，後閑，追貝，高平，三平峠	2日とも徒渉あり．解散後の交通：（東京方面）17：26発たにがわ450，（新潟方面）16：47発あさひ405，（北陸方面）越後湯沢17：48発はくたか16金沢行き．宿泊：川場温泉「ふじやまの湯」0278–52–3326．
[4．羽越] 羽越地域の花崗岩質地殻の形成と変形	9：00 新潟駅→村上市岩ヶ崎→馬下（昼食）→山北町澄川→勝木（泊)→小俣周辺→14：30 JR羽越本線府屋駅解散→17：30 新潟駅	斑状黒雲母花崗岩，花崗岩の層状構造，グラニュライト相変成岩ゼノリス（スピネル＋石英共生グラニュライト発見地点)，日本国マイロナイト．	9/17–18	15名	志村俊昭＊・加々島慎一（新潟大）・高橋浩（産総研）	15,000円（学生・院生は13,000円)（1日目の昼食は各自持参）	1：2.5万 鼠ヶ関・雷・笹川・村上	宿泊：山北町勝木，ゆり花温泉「交流の館・八幡」(0254–60–5050)．参加費の学割は宿泊施設の学割料金を反映したもの．解散後：府屋発新潟行特急 14：52，府屋発秋田行特急 15：35．

[番号．略称] 班名称	見学コース	主要見学対象	期日	定員	案内者 (*リーダー)	費用概算	地形図	備考
[5．関東] 関東山地の跡倉・金勝山ナップと中央構造線	7：30 新潟駅集合→新潟西IC→越後川口SA→富岡IC→富岡市蚊沼→下仁田町川井→吉崎→下仁田町（泊）→宮室→青倉→跡倉→大北野→15：00 下仁田農産物直売所→15：15 下仁田IC→16：00 高崎駅解散→20：00 新潟駅	領家花崗岩と断層岩（マイロナイト・カタクレーサイト），御荷鉾緑色岩，完新世まで活動した中央構造線と断層岩（断層ガウジ），跡倉ナップを構成する跡倉層の岩相と，運動論的指標としての変形構造（重複褶曲，雁行脈），跡倉ナップ基底断層，金勝山ナップを構成する石英閃緑岩・ホルンフェルス，金勝山ナップ基底断層.	9/17–18	20名	小林健太＊（新潟大）・新井宏嘉（早稲田大）	20,000円	1/2.5万 下仁田	宿泊先：「大井田旅館」0274–82–5906．1露頭のみ徒渉あり．解散後：高崎駅からJR上越・長野新幹線（東京・長野・新潟方面）：多数．下仁田農産物直売所から高速バス（池袋・上田行）に乗車可.
[6．信濃川] 信濃川中流域の活構造運動と段丘形成，旧期巨大地すべり.	8：00 新潟大学集合→巻・潟東IC→越後川口IC→山本山→真人原→昼食→千手観音北方液状化露頭→津南マウントパーク→16：00頃 十日町駅解散	小千谷市山本山山頂（山本山の測地学的変動，信濃川・魚野川合流部地形の遠望），同真人原旧石器遺跡（AT降灰（直）前の断層活動と液状化），川西町千手観音（ほぼAT降灰時離水面の変位と液状化），津南町マウントパーク（旧期巨大地すべりと津南の段丘面群の遠望）.	9/17	20名	高浜信行＊（新潟大）・信濃川ネオテクトニクス団研グループ	6,000円	1/2.5万 小千谷，岩沢，岡野町，十日町，千手，大割野，松之山温泉．コピーは案内者が準備.	見学地点は露頭の変化により変更の可能あり．解散地解散JR十日町駅から北越北線越後湯沢乗換東京方面新幹線連絡．北陸・関西方面は特急連絡.
[7．出雲崎] 中央・西山油帯の鮮新世 更新世前期の広域テフラ	8：45 新潟大学西門集合→シーサイドライン→出雲崎町久田→天領の里（昼食）→出雲崎町小木→中永トンネル西口→長岡市薬師峠北→16：20長岡駅解散	中央・西山油帯の西山層・灰爪層の広域テフラ（Ya，Ylg〔Znp〕，Ysc，Ojw，Arg-2〔MT2〕，Ka，SK085，JA，Og〔大阪ピンク〕など）.	9/17	15名	黒川勝己＊・坂井一・樋口裕也(新潟大)	4,000円 （弁当付）	1/2.5万 出雲崎・西山	自家用車使用を予定．解散後：長岡駅からJR特急金沢方面16：30，東京方面16：48，新潟方面16：45.
[8．北蒲原] 新潟県北部の新第三系と古生物相	新潟駅前 8：00→小出川→熊出川→胎内川→村上市（泊）→釜杭→黒田→大須戸→笹川流れ→新潟空港 16：00→新潟駅 16：30	北蒲原地域の中新統 鮮新統堆積岩類と大型化石・浮遊性微化石産地，基盤の岩船花崗岩類．釜杭層：浅海堆積物と貝・ウニ・大型有孔虫化石，内須川層：珪藻質堆積物と微化石産地，鍬江層：貝・微化石産地.	9/17–18	20名	栗田裕司＊（新潟大）・天野和孝（上越教育大）・河内一男（新潟県西新発田高）・鴨井幸彦（(株)興和）	25,000円	必要カ所は案内者がコピー配布.	宿泊：村上市瀬波温泉(予定)
[9．石油] 新潟堆積盆地の油・ガス田 椎谷層の含油砂岩と南長岡/片貝ガス田	9：00 新津駅集合→新津丘陵→石油資源開発(株)長岡鉱業所（昼食）→帝国石油(株)南長岡ガス田掘削現場および越路原プラント→17：00 長岡駅解散	新津丘陵に露出する椎谷層相当タービダイト砂岩. 主な油・ガス田の原油およびコア，試掘井の掘削現場，ならびにガス田の地表施設.	9/17	20名	加藤 進＊（石油資源開発・探鉱本部）・保柳康一（信州大理学部）・荒戸裕之（帝国石油・探鉱部）	3,000円 （昼食代含む）	必要カ所は案内者が準備	参加者少数の場合は中止．事故防止のため，掘削現場・プラントでは案内者・現場責任者の指示を厳守すること．写真等の撮影は，現場責任者の許可を得て行うこと.
[10．佐渡] 小佐渡の中新世海底火山噴火と最近の地すべり災害	8：30 新潟港（佐渡航路）集合（佐渡汽船駐車場は有料）→9：30 新潟港発カ フェリ（昼食は各自佐渡汽船内食堂，もしくは各自弁当を準備する）→11：50 両津港着→梅津地すべり→椎泊地すべり→赤玉地すべり→宿泊先→宿泊先出発→三ツ屋→白木→沢崎→宿根木→城山→小木→15：10 両津港発カ フェリ→17：30 新潟港着，解散	佐渡島小佐渡地域を中心とした新第三紀火山岩地帯の規模の大きな地すべりと地すべり対策工施設など，特に椎泊谷平地すべりにおける地すべり末端部の河床隆起部は迫力大．　マシブ溶岩-枕状溶岩漸移部，ピクライト質ドレライト岩床，水中溶岩噴泉堆積物（スパターコーン，スコリア質集塊岩），ピローローブを含むハイアロクラスタイト，安山岩質シルと炭酸塩岩脈など小木半島の玄武岩質浅海底火山噴出物.	9/17–18	30名	山岸宏光＊・藤林紀枝（新潟大）・菅野孝美（川崎地質・北陸支店）	17,000円 （1日目昼食代は自己負担）	1/2.5万 水津，両津，両津北部，小木，宿根木，羽茂北部	移動手段：マイクロバスと乗用車 宿泊先：割烹旅館「浦島」，新潟県佐渡郡佐和田町窪田，0259–57–3751，http://www2s.biglobe.ne.jp/%7Er-urasim/

宿泊・交通・昼食のご案内

〔宿泊のご案内〕

・宿泊取り扱い期日：2002年9月13日（金）～9月16日（月）

・宿泊条件：1泊朝食付，税・サ込，S―シングル　T―ツイン

ランク	No	ホテル名	地区	タイプ	宿泊料金	申込記号
A	1	ホテルイタリア軒	古町地区	シングル	￥10,500	A1―S
				ツイン	￥10,000	A1―T
	2	ホテルオークラ新潟	古町地区	シングル	￥10,500	A2―S
				ツイン	￥10,000	A2―T
	3	新潟グランドホテル	古町地区	シングル	￥10,500	A3―S
B	4	ホテルディアモント新潟	古町地区	シングル	￥9,300	B4―S
	5	万代シルバーホテル	万代地区	シングル	￥9,300	B5―S
	6	新潟東急イン	駅前地区	シングル	￥8,000	B6―S
	7	新潟ワシントンホテル	駅南地区	シングル	￥8,000	B7―S
				ツイン	￥7,000	B7―T
	8	ホテルサンルート新潟	駅前地区	シングル	￥9,000	B8―S
				ツイン	￥7,500	B8―T
	9	新潟東映ホテル	駅前地区	シングル	￥8,600	B9―S
				ツイン	￥8,000	B9―T
	10	新潟第一ホテル	駅前地区	シングル	￥8,600	B10―S
				ツイン	￥8,000	B10―T
C	11	マルコーイン新潟	万代地区	シングル	￥7,300	C11―S
	12	ニイガタステーションホテル	駅前地区	シングル	￥7,500	C12―S
	13	ターミナルアートイン	駅南地区	シングル	￥7,500	C13―S
	14	新潟パークホテル	駅南地区	シングル	￥7,300	C14―S
				ツイン	￥6,800	C14―T
	15	ミナミプラザホテル	万代地区	シングル	￥7,500	C15―S
				ツイン	￥7,000	C15―T

上記料金は，シングル・ツイン共お1人様宿泊料金をクラス別に表示しました．

最終的な確定料金は，ホテルが決定した後，宿泊券・請求書送付時にご連絡いたします．

1）　申込書へ記入する際，ホテル名は申込記号で，ツインルームご利用の方は，同室者名を必ずご記入下さい．

2）　お申込受け付け順にご希望ホテルを手配いたします．ご希望のホテルが満室の場合は，他のホテルにてご用意させていただく場合がありますので予めご了承下さい．

3）　上記以外の宿泊日，ホテル予約もお引き受けします．記事欄にご記入下さい．

〔昼食：弁当販売予約〕

学内生協食堂は営業しますが，大変混雑が予想されますので，お弁当の利用をおすすめします．

販売日：2002年9月14日（土）～9月16日（月）

料金：1個1,000円（税金込・お茶付）日替わりメニュー

＊お弁当購入希望の方は，申込用紙のお弁当希望日に○をつけて下さい．事前にお弁当券を郵送にてお送りします．

＊引き換え方法：学会会場にてお弁当券と引き換えにお渡しします．

〔団体航空券のご案内〕

・学会開催中は特定日のため，団体航空券の設定は日本エアシステム大阪―新潟路線のみで，他の路線の設定はありません．

・各便5名以上に適応させる学会特別運賃です．人数に満たない場合，又は席数に限りがあるため特別運賃にてご用意できない場合には，普通運賃又は特定便割引運賃にてご案内させていただく場合がありますので予めご了承下さい．

・お申込みは，所定の申込用紙航空券欄へご希望搭乗日・便名を記入して下さい．

出発地	大阪(伊丹) ～ 新潟		
	搭乗日	便名／出発時間	運賃
大阪(伊丹)	9／13	JAS 797／17:20	¥17,000
	9／13	JAS 799／18:55	¥17,000
	9／14	JAS 793／10:50	¥19,000
新潟	9／16	JAS 798／19:00	¥18,000
	9／17	JAS 790／08:20	¥17,000
	9／17	JAS 792／11:25	¥17,000

〔個人向航空券のご案内〕

・各種割引運賃航空券をご用意させていただきます．割引航空券は，各便共，席の数が限られていますので，下記ダイヤをご参照の上，お早めにお申し込み下さい．なお，特定便割引航空券は，予約の変更ができませんので，ご注意下さい．

お申込方法：所定の申込用紙航空券欄へ，ご希望搭乗日・便名をご記入下さい．

《参考》新潟空港より新潟駅までのアクセス

バス（30分）：新潟空港→新潟駅（料金：¥350円），タクシー（20分）：新潟空港→新潟駅（料金：約¥3,000円）

〈飛行機ダイヤ〉

区間	便名	出発時刻	普通運賃	特定便割引きっぷ
往路				
大阪(伊丹)―新潟	ANA 517 便	09:40 頃	25,000 円	19,500 円
大阪(伊丹)―新潟	JAS 793 便	09:45 頃	25,000 円	19,500 円
大阪(伊丹)―新潟	JAS 795 便	12:45 頃	25,000 円	20,500 円
大阪(伊丹)―新潟	JAS 797 便	17:20 頃	25,000 円	19,500 円
大阪(伊丹)―新潟	ANA 519 便	18:00 頃	25,000 円	19,500 円
大阪(伊丹)―新潟	JAS 799 便	18:55 頃	25,000 円	19,500 円
札幌―新潟	ANA 436 便	10:35 頃	25,500 円	20,500 円
札幌―新潟	ANA 440 便	15:50 頃	25,500 円	20,500 円
名古屋―新潟	ANA 311 便	07:30 頃	22,000 円	17,000 円
名古屋―新潟	ANA 313 便	12:55 頃	22,000 円	17,000 円
名古屋―新潟	J―AIR 627 便	18:05 頃	22,000 円	
広島西―新潟	J―AIR 550 便	08:20 頃	33,500 円	
福岡―新潟	ANK 329 便	09:25 頃	35,500 円	28,500 円
福岡―新潟	ANK 331 便	17:00 頃	35,500 円	28,500 円
復路				
新潟―大阪(伊丹)	JAS 790 便	08:20 頃	25,000 円	19,500 円
新潟―大阪(伊丹)	ANA 518 便	08:00 頃	25,000 円	19,500 円
新潟―大阪(伊丹)	JAS 792 便	11:25 頃	25,000 円	20,500 円
新潟―大阪(伊丹)	JAS 794 便	14:25 頃	25,000 円	20,500 円
新潟―大阪(伊丹)	ANA 520 便	17:40 頃	25,000 円	19,500 円
新潟―大阪(伊丹)	JAS 798 便	19:00 頃	25,000 円	19,500 円
新潟―札幌	ANA 435 便	11:15 頃	25,500 円	20,500 円
新潟―札幌	ANA 439 便	12:20 頃	25,500 円	20,500 円
新潟―名古屋	ANA 312 便	14:55 頃	22,000 円	17,000 円
新潟―名古屋	ANA 314 便	18:50 頃	22,000 円	17,000 円
新潟―名古屋	J―AIR 622 便	10:05 頃	22,000 円	
新潟―広島西	J―AIR 559 便	19:20 頃	33,500 円	
新潟―福岡	ANK 330 便	11:25 頃	35,500 円	28,500 円
新潟―福岡	ANK 322 便	19:25 頃	35,500 円	28,500 円

*航空ダイヤは平成14年4月1日現在のものです．スケジュール及び運賃は変更となる場合がありますので予めご了承下さい．ご搭乗日によりまして運賃が異なる路線もございますので予めご了承下さい．

*その他，新潟―広島西・新潟―名古屋間運行J-AIRにつきましては，特定便割引運賃の設定はありませんので，他の割引運賃をご案内させていただきます．

〔JRのご案内〕

JR利用する場合は，申込用紙JR欄へ必要事項をご記入して下さい．（乗車日，乗車区間，列車名，時間等），列車名等がご不明の場合は，希望時間（到着・出発）をご記入下さい．また，個人向けJR各種割引切符（指定席往復割引切符，指定席特急回数券，発売地域が限定されたもの）を利用される場合は，ご用意できませんので各自でご準備下さい．

《参考》JR新潟駅より，新潟大学五十嵐キャンパスまでのアクセス

電車：越後線新潟駅→（22分）新潟大学前駅→（徒歩15分）五十嵐キャンパス（料金：¥230）

バス：新潟交通新潟駅前→（45分）新潟大学正門→（徒歩1分）五十嵐キャンパス（料金：¥450）

〔お申し込み方法〕

巻末の申込用紙に必要事項をご記入の上，下記の送り先まで郵送又はFAXでお申込下さい．お手元に必ず控えを残されるようお願いします．また，E-mailにてお申し込みの場合には，必要事項（申込書参照）を記入し下記アドレスまでご送信下さい．なお，お電話によるお申し込みは一切受け付けません．

(1) お申込〆切日：平成14年8月10日（土）…宿泊・JR・見学旅行・航空券
平成14年8月31日（土）…学会参加・懇親会・弁当

(2) 宿泊券等の送付・精算：ご宿泊の7日～10日前までに各種確認書と料金明細請求書をお送りします．また，振込用紙も同封いたしますので，1週間以内にご送金下さい．

(3) クレジットカードでの支払いも可能です．ご希望の方は，申込書記事欄に必要事項をご記入下さい．

(4) 通信連絡費として，お1人様につき，以下の金額を合わせてご請求させていただきます．
学会参加と講演要旨集の申し込みのみの場合・200円
その他宿泊・見学会・交通・懇親会などを伴う場合・500円

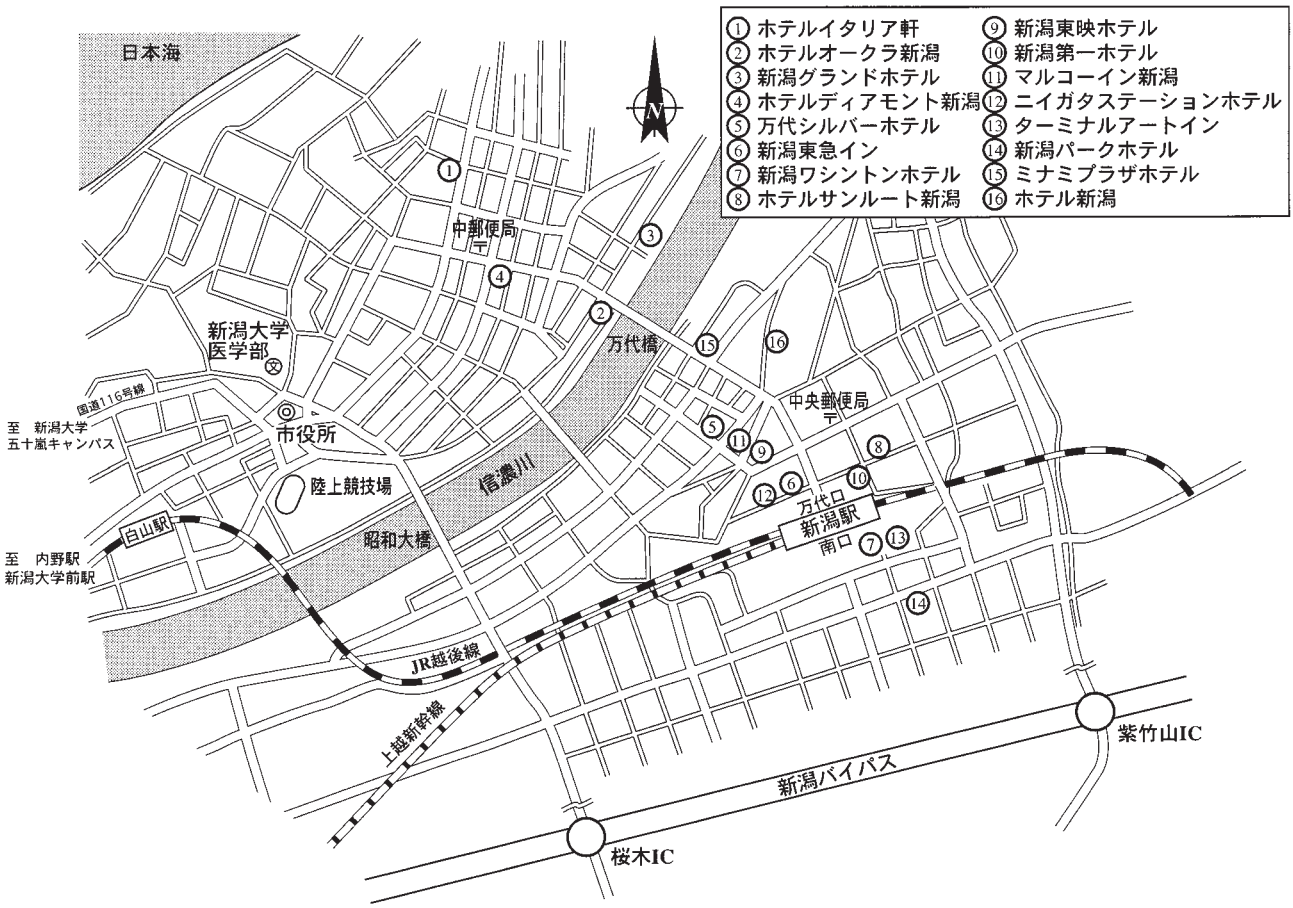
〔変更・取消について〕

・変更，取消が生じた場合には，すみやかには下記までご連絡下さい．なお，発生日による取消料は以下のとおりです．
・学会参加・懇親会・見学旅行の取消料につきましては，下記は適用しません．各項目案内文にてご確認下さい．

	20日前～14日前	13日前～7日前	6日前～2日前	前日	当日以降
宿　泊	無　料		20%	50%	全　額
弁　当	無　料			20%	全　額
団体航空券	無　料	￥2,420	￥4,420		￥6,420
個人航空券	各航空会社によって取消料が変わります。その都度おたずね下さい。※払戻手数料1枚¥420				

《お問い合わせ・申込書送先》

〒951-8063 新潟県新潟市古町通6-976
JTB新潟支店「日本地質学会　第109年学術大会」斡旋係
宿泊斡旋事務局　担当：古田・神田・後藤
（TEL : 025-224-2201/FAX : 025-229-5775）
E-mail : niigata_eila@kit.jtb.co.jp
営業時間：09 : 30～17 : 30（月～土）



日本地質学会　新潟大会

～学会参加申し込み・講演要旨集事前購入申し込み・宿泊･航空券･JR・弁当・見学旅行・懇親会申込書～

ＪＴＢ新潟支店御中
FAX 025−229−5775
E−mail : niigata_eila@kit.jtb.co.jp

（いずれかに○印）

新規申込	変　更	取　消

＊郵送又は，FAXにてお申込み下さい．お申込控えは必ずお持ち下さい．

所　属　先 （お勤め先）		フ リ ガ ナ 申込代表者名		自宅電話	（　　）　－	発信月日
				所属先電話	（　　）　－	
確認書送付先 所属先・自宅	〒			FAX	（　　）　－	／

ご利用者名（必ずフリガナをご記入下さい．＊ツインご希望の方は同室希望者名を必ずご記入ください）

	（フリガナ） 氏　　名	性別	年令	＊） 会員	参加	＊＊） 講演要旨集のみ	宿泊				同室者名	航空券		懇親会	お弁当			見学旅行			
							9/13（金）	9/14（土）	9/15（日）	9/16（月）		往路	復路	14（土）	14（土）	15（日）	16（月）	第一希望	第二希望	第三希望	ｷｬﾝｾﾙ待ち
例	ニイガタ ハナコ 新 潟 花 子	女	30	正	○	送・受 冊	B4-S	B4-S	B4-S	B4-S			9/17 ANA520	○	○	○	○	5	10	1	
						送・受															
						送・受															
						送・受															

＊）：正ー正会員，院ー院生割引会費適用正会員，学ー学生会員，名ー名誉会員，家ー会員の家族，非ー非会員一般・院生，非学ー非会員学生．
＊＊）：大会不参加で講演要旨集購入ご希望の方は「参加」欄に×を記し必要冊数を，参加者で複数必要の方は送・受の一方を○で囲み追加冊数をご記入下さい．

〔JR〕

乗車日	列車名	指定区間	種別	ご利用者名	乗車区間	希望時間（出発・到着）
9/		―	普通・自由・G・禁煙・B寝台・A寝台		―	頃
9/		―	普通・自由・G・禁煙・B寝台・A寝台		―	頃
9/		―	普通・自由・G・禁煙・B寝台・A寝台		―	頃

注1）　E-mailにてお申込の場合には，必要事項（氏名，年齢・連絡先，学会参加有・無，講演要旨集の要・不要，宿泊日，宿泊希望ホテル，希望部屋タイプ・見学会・懇親会・その他交通手配・弁当等）をご記入し送信下さい．
注2）　上記期間外の交通・宿泊などをお申込みの場合，記事欄にお書き添え下さい．
注3）　取消，変更にともなう返金の際に必要です．申込者の口座を必ずご記入下さい．

記事欄

クレジット払い利用：カード種類（　　），No（　　），有効期限（　年　月）

振込銀行 銀行	預金科目	普　通　・　当　座
	口座番号	
支店名 支店	（フリガナ） 口座名義	

日本地質学会 *News*

Vol.5 No.5 May 2002

The Geological Society of Japan *News*

日本地質学会／〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6階
編集委員長 高橋正樹
電話 03-5823-1150 Fax 03-5823-1156
E-mail : geosocjp@ra2.so-net.ne.jp
ホームページ http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/gsj/

Contents

巻頭 日本地質学会第109年年会・総会（新潟大会）予告

表紙紹介 2000年噴出物に覆われた三宅島山頂部（下司信夫；産総研地質調査総合センター）……1

報告……2–3
IGCPニュース2002（土 隆一・波田重熙）

案内……4–5
地質調査総合センター記念講演会のご案内/東京地学協会第6回海外巡検「スイスアルプスを歩く」のご案内/「ODP-Japan/U.S.MARGINS南海地震発生帯科学掘削国際ワークショップ」のお知らせ/第6回テチス浅海域に関する国際シンポジウムの開催延期について/国際シンポジウム「環日本海地域における白亜系層序と国際対比―手取層群を中心として―」のご案内

公募……5
核燃料サイクル開発機構平成15年度任期付研究員（博士研究員）の公募/島根大学汽水域研究センター教官公募

学協会・研究会報告……6
IGCP434「白亜紀の炭素循環及び生物多様性変動」・「第7回国際古海洋学会」共催巡検報告（清水孝太郎）

紹介……7–8
岩相解析および堆積構造 八木下晃司 著（天野一男）/岩石学概論・上 記載岩石学―岩石学のための情報収集マニュアル 周藤賢治・小山内康人 著（石塚英男）/本邦産岩石の深部物性データ集 2001 星野一男・加藤碩一・深部物性データ編集委員会（羽田 忍）

CALENDAR……9

海外の動き……10–11
ロシア科学アカデミーの現況（富樫幸雄）

委員会だより……12–13
法人化調査検討委員会 報告

The Island Arc Vol.11, Issue 2；和文要旨……14

支部コーナー……15
関東支部 雲仙コア観察会報告（中澤 努）/近畿・四国・西日本支部合同大会のご案内

院生コーナー……16
2001年5月～2002年4月；掲載目録/新委員紹介；戸丸 仁

執行委員会だより……17
2002年度第9回・第10回執行委員会議事録

事務局職員紹介……17

2001年度に日本地質学会に拠金された会員の方々……18

2002年の会費払込みについて……18

訃報……18

2002年第4回定例評議員会のお知らせ……18

学会記事……19–27
2002年第3回定例評議員会議事録/日本地質学会2001年度会計決算案と2002年度予算案について/2002年第4回定例評議員会のお知らせ

追悼……28–29
名誉会員 岩井淳一先生のご逝去を悼む（鎌田泰彦）/名誉会員 牛来正夫先生を偲ぶ（大森昌衛）

出版物在庫案内……30

入会申込書……31

取扱い地質図一覧……32

表紙紹介

2000年噴出物に覆われた三宅島山頂部

産総研地質調査総合センター
写真・文 下司信夫

三宅島山頂部には，2000年7月から9月にかけて噴出した火山灰が厚いところで2m以上堆積している．噴火前山頂部を覆っていた森林は，降灰と火山ガスによって壊滅した．写真は2001年11月に撮影した陥没カルデラ東側山頂部の状況である．火山灰層最上部の黄褐色部は2000年8月29日の火砕流をともなった噴火の噴出物で，その下位には暗灰色の7月から8月にかけての噴出物が累重している．遠景にみえる稜線の向こう側が，深さ400mを超える2000年陥没カルデラである．現在のところ三宅島火山の活動は安定しており，火山ガスの放出量も長期的には減少し続けているが，なお全島民が避難生活を強いられている．

広告取扱：株式会社廣業社
〒104-0061 東京都中央区銀座8-2-9 電話 03-3571-0997

印刷・製本：創文印刷工業株式会社

報告

本会委員会以外の研究会・委員会等よりのお知らせを掲載します．

IGCPニュース2002

1．IGCP国内委員会（国際学術協力事業研連IGCP専門委・小委）

平成13年度は第18期第3回を平成13年6月12日，第4回を平成13年9月13日及び第5回を平成14年2月28日にと，計3回の委員会を日本学術会議で開催した．審議・決定・実施された主な事項について以下に報告する．

1） 日本国内委員会の活動報告書として“Japan Contribution to the IGCP, 2001 Report”（A4版，11頁）及び「日本IGCP活動報告2001」（A4版，41頁）を2月に刊行し内・外の関係方面に配付した．

2） IGCP本部より理事会の欠員（WG1,2＆3）に対する推薦及び前回までの推薦者の確認の依頼があったので，今回は国内委員会からは新しい推薦をしないこと及び昨年WG2（Quaternary, Environmental and Engineering Geosciences）に推薦した太田陽子氏に対する推薦を確認した旨，報告した．なお，IGCP日本国内委員会から推薦した島田允堯氏が現在WG3の理事として活躍しておられ，その他に候補者としてWG1（Stratigraphy, Palaeontology, Sedimentology, Fossil Fuels）に岡田博有氏，WG3（Mineral Deposits, Petrogy, Volcanology, Geochemistry）に田崎和江氏と有馬　眞氏の3名の名前がリストアップされている．

3）旧地質調査所の法人化による産業技術総合研究所への組織変更に伴って，これまで地質調査所とIGCP-441の国内委員会委員を兼任していた脇田浩二氏から，産総研の委員として村尾　智氏（国際部門国際協力室）が新しく国内委員会に加わることとなった．また，これまでIGCP-396の国内代表として国内委員会委員を務めてきた齋藤文紀氏は，昨年からスタートした後継プロジェクトであるIGCP-464（Continental Shelves during the Last Glacial Cycle : Knowledge and Application）の国内代表として引き続き国内委員会委員を務めることとなった．

4） Joint Communication of the Five Scientific Programmes（IOC, IGCP, IHP, MAB, MOST）における勧告やそれを受けた日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会水文学分科会における議論を踏まえて，今後のIGCPとIHPとの協力関係について議論した．

5） 近年，IGCPの新しいプロジェクトの日本からの申請が減少する傾向にあること，また，国内委員会への委員の出席状況も必ずしも良くないことに関わって，そのような現状を打開するには，学会等の理解を得るために積極的に行動することが第一であり，そのための方策について議論した．

2．IGCP本部

第30回IGCP理事会は本年2月4日から8日までパリのユネスコ本部で開催され，各プロジェクトの活動の評価，各国内委員会報告の検討，新しいIGCPプロジェクトの採択等が行なわれた．日本からは島田允堯氏（九州大学）が参加した．また，今回はIGCP発足30周年紀年として，元及び現理事会代表ほかによるシンポジウムが行われた．

3．IGCP国内委員会

委員長　土　隆一
幹　事　波田重熙（411，ユネスコ国内委）
委　員　吉田　勝（368）　有馬　眞（368）
　　佃　栄吉（383）　後藤仁敏（406）
　　脇田浩二（411）　佐々恭二（425）
　　平野弘道（434）　海津正倫（437）
　　渡辺暉夫（440）　斎藤文紀（464）
　　村尾　智（産総研）
　　本吉洋一（極地研）

4．現在日本がLeadershipをとっているプロジェクト

No.411 Geodynamics of Godwanaland-derived Terranes in E and S Asia (1998–2002)
Co-Leader：波田重熙

No.425 Landslide Hazard Assesment and Cultural Heritage (1998–2002)
Leader：佐々恭二

No.434 Land-Ocean Interactions during Cretaceous (1999–2003)
Leader：平野弘道

5．日本にWorking Groupが組織されているプロジェクト

No.411：上掲
Representative：脇田浩二

No.425：上掲

No.434：上掲

No.437：Coastal Environmental Change during Sea-level Highstands (1999–2003)
Representative：海津正倫

No.440：Rodinia Assembly and Breakup (1999–2003)
Representative：渡辺暉夫

No.464：Continental Shelves during the Last Glacial Cycle : Knowledge and Application (2001–2005)
Representative：斎藤文紀

6．2001年（平成13年）度の日本の活動

No.368：「東ゴンドワナにおける原生代地質事件」

プロジェクトは1年延長して活動していたが，さらに1年延長することは認められなかった．地球惑星科学関連学会2001年合同大会において，昨年6月5日にIGCP368/411/440の共催で特別シンポジウム「ロディニア・ゴンドワナの集合・分裂：地殻及びマントル過程」を開催し，約50名が参加した．昨年10月には大阪でIGCP368/411/420/440の共催で“International Symp-sium on the Assembly and Breakup of Rodinia and Gondwana, and Growth of Asia”を開催したが，33ヶ国から330人（うち外国人154名）が参加した．その際，アブストラクト集（Gondwana Research, Vol.4, No.4, 889pp.），巡検案内書（258pp.），市民公開講座テスストを出版した．2002年中に最終報告書をまとめて本プロジェクトは活動を終えるが，後継プロジェクトについては未定．

No.383：「西太平洋・アジア地域の古応力，ジオダイナミクス，ネオテクトニクス及び自然災害」

本プロジェクトに関連して，地質調査所（産業技術総合研究所）が実施してきた「東アジア自然災害図計画」は，CCOP，CGMWの協力を得て，3枚組の7,000,000分の1「東アジア自然災害図」として2002年1月に出版した．このCD−ROM版を2002年中に出版予定である．プロジェクトとしての活動はすでに終了している．

No.406：「北極圏を取り巻く地域の古生代脊椎動物」

IGCP-328の最終報告書“Palaeozoic Vertebrate Biochlonology and Global Marine/Nonmarine Correlation (575pp.)”が2000年に出版された．本プロジェクトが関わる3rd International Symposium on Mesozoic Fishes - Systematic Paleoenvironments and Biodiversityが昨年8月にスイスで開催され，日本から3名が参加した．また，“The 8th International Sympo-sium on Biomineralization”が新潟県黒川村で昨年9月に開催され，参加者は140名であった．本プロジェクトは終了しているが，後継プロジェクトについては，‘Mesozoic microvertebrates and Palaeozoic-Mesozoic boundary’，‘Geological events and evolution of Palaeozoic craniates’，‘Evolution of basins’という案が出されており，それぞれ別個のプロジェクトとして申請される予定．

No.411：「東・南アジアにおけるゴンドワナランド起源テレーンのジオダイナミクス」

地球惑星科学関連学会2001年合同大会において，昨年6月IGCP368/411/440の共催で特別シンポジウム「ロディニア・ゴンドワナの集合・分裂：地殻及びマントル過程」を開催し，約50名が参加した．昨年10月には大阪でIGCP368/411/420/440の共催で“International Symposium on the Assembly and Breakup of Rodinia and Gondwana, and Growth of Asia”を開催したが，本プロジェクトが主催した“Session 2 : Orogenic Processes and

Growth of Asia”では，41の口頭発表と13のポスターによる発表がなされた．また，本プロジェクトが主催してPostの巡検を美濃一丹波帯を中心に実施し，7ヶ国15人が参加した．

No.425：「文化遺産と地すべり災害予測」

ユネスコ/IGCPシンポジウム“Landslide Risk Mitigation and Protection of Cultural and Natural Hehtage”を日本学術会議で本年1月15日～19日に日本学術会議において開催した．この際，ユネスコおよびIGC-425グループを核として「国際地すべりコンソーシアム(ILC)」を早期に設立すべきであるとして，2001年東京宣言“Geoscientiststamelandslides”を起草し，発表した．また，ISSMGE（国際地盤工学会）アジア地区技術委員会No.6「地すべり・土砂災害からの文化遺産の保全」国内委員会とIGCP-425との合同会議を，昨年6月12日に第36回地盤工学研究発表会のディスカッションセッションで開催し，約20名が出席し4件の発表が行われた．

No.434：「白亜紀の炭素循環及び生物多様性の変動」

第3回国際シンポジウムは中国チベット自治区ラサ市において，昨年10月6日から14日まで開催した．10カ国，50名以上の参加を得た．2日間のシンポジウムで30件の講演があり，総合討論では今後の活動方針について議論し，いくつかの課題別ワーキング・グループの作成が決められた．また，第7回国際古海洋学会の札幌開催に際して本プロジェクトは4日間の巡検を実施した．8カ国から20名が参加した．本プロジェクトのワーキング・グループが，昨年年3月にはタイ国，同年7月から8月にはロシアを訪問し，現地の研究者と共同研究を行った．

No.437：「高海水準期における海岸環境の変化」

昨年9月4日～9月12日に，連合王国ダラム大学およびスコットランドにおいてINQUAネオテクトニクス委員会，海岸線委員会との共催のもとに第3回ミーティングか開催された．全体を通じてのテーマは“Sea-level Changes and Neotectonics”で，5日～7日に研究成果の発表が行われ，8日から12日にはスコットランドにおいて巡検が行われた．日本からの参加者は3名であった．また，本プロジェクトの関連国際研究集会として，昨年10月17日から24日までINQUAの海岸線委員会，ネオテクトニクス委員会合同の“The International Meeting on both Sea-level Changes and Coastal Evolution and Neotectonics (NQUA) in Taiwan”が台湾で開催された．日本側からは15名が参加し，研究報告及び集集地震の変動地形を含む巡検が行われた．

No.440：「ロディニアの集合と分裂」

オーストラリア，中国，インド，ロシア，南極での日本チームの研究成果を，昨年6月に開催された地球惑星関連合同大会におけるIGCP-368/411/440共同開催によるシンポジウムで発表し，研究交流を行った．また，昨年7月にイルクーツクで開催されたIGCP-440のワークショップには，日本から5名が参加して，ロシア，オーストラリアでの研究成果を発表した．さらに，10月下旬に大阪市大で開催されたIGCP368/411/420/440の共催の“International Symposium on the Assembly and Breakup of Rodinia and Gondwana, and Growth of Asia”でも関係者が，ロディニア分裂後の大陸の再配置に関わる新しい成果（年代論など）やロディニアを構成していた地殻の深成岩・変成岩岩石学的研究などについて発表した．

7．新しいプロジェクト

平成14年2月4日から8日まで，パリのユネスコ本部で開かれたIGCP理事会において，提案された9件のうち，以下の5つが本年から新しく発足するプロジェクトとして採択された．

IGCP-463 Upper Cretaceous Oceanic Red Beds (2002–2006)
C. Wang (China), M. Sarti (Italy), R.W. Scott (USA) & L.F. Jansa (Canada)
Prof. C. Wang : Chengdu Univ. Technol., No. 1 Dongsan Road, Erュ xianqiao, Chengdu, 610059 Sichuan, P. R. China.
Fax : (86)–28–4077163
e-mail : wcs@cdut.edu.cn

IGCP-467 Triassic Time (2002–2006)
Dr. M. J. Orchard (Canada) : Geological Survey of Canada, 101–605 Robson St., Vancouver, B. C. V6B 5J3, Canada.
Fax : (1)–604–666–1124
e-mail : morchard@nrcan.gc.ca

IGCP-470 The 600 Ma Pan-African Belt of Central Africa (2002–2006)
Dr. F. Toteu (Cameroon) : Centre for Geological and Mining Research, B. P. 333, Garoua, Cameroon.
Fax : (237)–94–8341
e-mail : crgm@iccnet.cm

IGCP-471 Evolution of Western Gondwana during the Late Palaeozoic (2002–2006)
C.O. Limarino (Argentina) & L.A. Buaotois (Argentina)
Dr. C. O. Limarino, Dept. Cien. Geol., Pabellon II, Ciudad Universitaria, 426 Buenos Aires, Argentina.
e-mail : limar@advancedsl.com.ar

IGCP-473 GIS Metallogeny of Central Asia (2002–2006)
Dr. R. Seltmann (UK) : Centre for Russian and Central Asian Mineral Studies, Dept. Mineral., Natl. Hist. Mus., Cromwell Road, London, SW7 5BD, U. K.
Fax : (44)–207–942–5537
e-mail : rs@nhm.ac.uk

以上の結果，現行のプロジェクトは，O. E. T.（期間延長）の4つを含めて計39となる．新しいプロジェクトに参加しておられる方，および，参加を希望される方はご連絡下さい．

また，新しいプロジェクトを提案したいと思っている方はご連絡下さい．日本人がリーダーを務めるプロジェクトが昨年に引き続き3つとなり，このままだと今後さらに減少すると考えられます．国際交流を促進するため，また，発展途上国の研究者と協力して地球科学を推進する，という立場から積極的に新しいプロジェクトを提案していただくよう，強く希望致します．提案様式は日本IGCP活動報告2001（本年2月刊）に掲載されています．今年の提出期限は10月初旬で，推薦のための国内委員会は9月に開かれる予定です．

8．御質問等がありましたら下記にお寄せ下さい．

委員長　土　隆一
〒422–8035　静岡市宮竹1–9–24
土　研究事務所
電話　054–238–3240
Fax　054–238–3241
e-mail : rtsuchi@mvi.biglobe.ne.jp
幹　事　波田重熙
〒657–8501　神戸市灘区鶴甲1–2–1
神戸大学大学教育研究センター
電話　078–803–7601
Fax　078–803–7640
e-mail : hada@kobe-u.ac.jp

（文責　土　隆一・波田重熙）

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会よりの催し物のご案内を掲載します．

地質調査総合センター記念講演会のご案内

平成13年4月の独立行政法人産業技術総合研究所の発足に伴い，地質調査所の調査研究業務を発展的に継承しました地質調査総合センター（Geological Survey of Japan）では，その発足と前身機関である地質調査所の設立120年を記念して，記念講演会を開催いたします．海外の地質調査所の活動を知る良い機会でもありますので，ぜひご参加下さい．

日時：平成14年6月7日（金）14：00～17：00
場所：明治記念館（港区元赤坂2–2–23　電話 03–3746–7711）
参加費：無料

プログラム：
来賓挨拶
地質調査総合センターの紹介
招待講演　米国地質調査所，中国地質調査所
活動紹介　雲仙火山科学掘削（地球科学情報研究部門・長崎県島原市長）

＊なお，同日17：30～20：00，記念パーティー（参加費￥10,000）をあわせて開催致します．

連絡・問い合わせ先：産業技術総合研究所　地質調査総合センター　記念講演会事務局　電話 0298–61–3581

東京地学協会第6回海外巡検「スイスアルプスを歩く」のご案内

◇内容
1. スイスアルプスの氷河，永久凍土，氷河地形などの観察を通して，地球の環境変化を考える．
2. アルプスの高山植物を観察する．
3. アルプスの土地利用の特色，山岳国立公園の管理を視察する．

◇場所　スイスアルプス南東部のベルニナ山群地域（サンモリッツ周辺）
◇対象　地学に興味を持つ一般の方々
◇案内者　平川一臣（北海道大学）・松岡憲知（筑波大学）
◇費　用　約30万円以内
◇募集人数　約20名
◇企画主催　東京地学協会
◇日　程　7月20日頃から7泊8日（6泊＋1機中泊）（予定）
◇スケジュール概要
1日目　日本→スイス（Zurich泊）
2日目　Zurich→ベルニナ（St. Moritz周辺へ移動）
午後，Pitz Nair：山岳展望，足慣らしの散歩（エーデルワイス観察）
3日目　Pitz Corvatsch, Murtel～Koaz Hutte：小氷期の氷河前進，岩石氷河，地球温暖化モニタリング観測
4日目　Morteratsch Glacier：氷河上横断ウオーク，過去160年間の氷河変動
5日目　スイスの山岳国立公園視察
6日目　Zurichへ移動（Segantini美術館またはLuzern氷河公園）
7日目　Zurich→日本
◇申込締切　2002年6月初旬（予定）

参加者は，毎日3～4時間程度ハイキングを続けることができる体力が必要です．細かい点は変更の可能性があります．
詳細・最新情報や申込方法は，東京地学協会のHP（http://wwwsoc.nii.ac.jp/tokyogeo/index.html）ニュース欄でご案内しております．

「ODP-Japan/U.S.MARGINS南海地震発生帯科学掘削国際ワークショップ」のお知らせ

プレート沈み込み帯は地球表層の地震エネルギーの90％以上を放出しておりますが，この領域のサンプル採取と孔内観測は容易ではありません．特に震源断層の上限近傍を掘削・観測できれば，プレート境界付近の海洋地殻，堆積物，流体，熱などを震源システムへ運び込まれる初期の段階で捕らえることができます．2002年2月号のニュース誌表紙で紹介されました現在建造中の新型地球深部掘削船「ちきゅう」は，海底下6–7kmを掘る能力があり，プレート境界地震発生帯に到達することが夢でなくなりつつあります．こうした中，国際的な研究チームが形成され，南海トラフ地震発生帯掘削計画のプレプロポーザルが2001年にIODPに提出されました．
本ワークショップは，沈み込み帯震源領域掘削によって期待される科学的成果をより明確にし，サンプル採取から観測までを含む多角的な計画を押し進めるための強力なプランを練り上げることを目的として開催されます．サンアンドレアス（米西海岸）や車籠埔断層（台湾）等の他の地震発生帯掘削計画も進行しており，この南海計画がうまく調和すれば，地震発生の場について画期的なデータがもたらされることでしょう．科学掘削で必要な仮説検証研究を熟成させ，断層力学に対する我々の理解が飛躍的に高まることが期待されています．付加体研究と地震研究を総合的に論じる場に加わってみませんか？

日時：2002年7月21日（日）～23日（火）
場所：アメリカ西海岸（詳細はセカンドサーキュラーにて）
後援：ODP-JAPAN
協賛：InterMARGINS-Japan

セカンドサーキュラーをご所望の方は，下記連絡先まで氏名，所属，連絡先，そしてどのような研究が行いたいかを簡単にお知らせ下さい．

南海掘削国際研究チーム世話人
Harold Tobin（ニューメキシコ工科大学地球環境科学部）
木村　学（東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻）
三ケ田　均（海洋科学技術センター深海研究部）
Pierre Henry（フランス国立高等科学院地質部）
小平　秀一（海洋科学技術センター固体地球統合フロンティア）
連絡先　〒237–0061神奈川県夏島町2–15
海洋科学技術センター深海研究部　三ケ田均（mikada@jamstec.go.jp）

第6回テチス浅海域に関する国際シンポジウムの開催延期について

昨年7月号の地質学会ニュースに開催のご案内をいたしました「第6回テチス浅海域に関する国際シンポジウム（International Symposium on Shallow Tethys 6）」は，本年8月にブダペストでの開催を予定しておりましたが，主催者側であるEotvos大学古生物学教室の都合で来年（2003年）8月に開催が延期されることになりました．参加を予定されておりました方々には，開催年に入ってからの変更ということで，多大なご迷惑をおかけいたします．なお，開催は1年間延期となりましたが，シンポジウムの開催地，主催者，プログラム等の変更はありません．具体的な開催日程やアブストラクトの締め切り等については，今後ウェブ上で情報が流される予定です．また，preliminary registrationはすでに始まっておりますので，興味ある方は下記のウェブサイトを訪れて下さい．

http://pangea.elte.hu/paleo/tethys/circ1.htm

詳しい情報をお知りになりたい方は，このシンポジウムの日本からの世話人である小笠原，上野までお問い合わせいただいても結構です．

（筑波大学　小笠原憲四郎）
（福岡大学　上野勝美）

国際シンポジウム「環日本海地域における白亜系層序と国際対比―手取層群を中心として―」のご案内

日本古生物学会2002年年会が，福井県立恐竜博物館において，6/21（金）～23（日）に開催されます．初日に，国際シンポジウム「環日本海地域における白亜系層序と国際対比―手取層群を中心として―（Fauna and Flora of the Tetori Group and correlation with the Cretaceous sequences in Far-East Asia）」を企画しました．皆様の御参加をお待ちしております．

日時：2002年6月21日（金）　10：00－16：45
会場：福井県立恐竜博物館　（福井県勝山市村岡町寺尾51–11）
（交通等については，http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/参照）
主催：日本古生物学会
共催：IGCP434「白亜紀の炭素循環と生物多様性の変動」
後援：NPO法人　福井恐竜博物館後援会
参加：事前申込不要．ただし，古生物学会参加費が必要になります．

趣旨：手取層群からは，恐竜など，白亜紀初頭の陸上生態系を考える上で重要な化石が産出し，近年注目を集めているが，その層序や年代論には問題があることが指摘されており，世界の生物相と議論する際に避けられない重要な課題となっている．そこで，手取層群や同時代の地層の研究者，各分類群や層序学的手法の研究者が会するシンポジウムを開催し，年代論や層序の対比という視点から，「現在の対比精度の認識」や「各分類群の研究のためには，どの程度の精度の対比が求められるのか」を議論し，今後の研究進展のための一助としたい．この目的のためには，日本のデータだけでは不十分なことから，ロシアや韓国，中国の研究者にも参加していただき，「世界の中の手取層群」について議論を行う．

プログラム：
10：00–13：00　#Cretaceous Stratigraphy of Far-East Asia, comparison with the Tetori Group（5件）
12：00–13：00　Lunch
13：00–16：00　#Fauna and Flora of the Tetori Group and their correlation in East Asia（10件）
16：00–16：15　Break
16：15–16：45　Discussion

世話人：平野弘道（早稲田大）・長谷川　卓（金沢大学）・佐野晋一（福井恐竜博）・東　洋一（福井恐竜博）

問い合わせ先：
福井県立恐竜博物館　佐野　晋一
ssano@dinosaur.pref.fukui.jp
電話　0779–88–0001　Fax　0779–88–8710

公募　教官公募等の求人のニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

核燃料サイクル開発機構平成15年度任期付研究員（博士研究員）の公募

21世紀の科学技術を飛躍的に発展させるために，創造性に富み，発想の豊かな若手研究者を募集します．

1.　募集人員　5名程度
2.　研究分野　高速増殖炉開発及びそれに関連する核燃料サイクル技術開発，高レベル放射性廃棄物処分基盤研究分野等で核燃料サイクル開発機構の業務として実施可能な研究
3.　応募資格　採用時に原則として35歳以下で博士号取得者（採用時に取得見込みを含む）であり，かつ健康で，研究を自主的，主体的に遂行する意志のある方
4.　契約開始日　2003年4月1日（予定）
5.　研究期間　原則として3年間以内
6.　応募締切　2002年7月22日（月）【必着】
7.　問い合せ先　核燃料サイクル開発機構
技術展開部　技術協力課　亀田，飛田，深作
電話　029–282–1122
（内線41111, 41126, 41127）
Fax　029–282–7980
E-mail　daigaku@jnc.go.jp
なお，詳細についてはサイクル機構ホームページを参照してください．
（http://www.jnc.go.jp/）

島根大学汽水域研究センター「汽水域環境変動解析研究分野」教官公募

公募人員：助教授または講師　1名
専門分野：汽水域・河口域の環境科学（広義）に関連する研究に意欲がある人で，専門分野をとくに限定しない．
担当研究分野：「汽水域環境変動解析研究分野」に属し，汽水域で現在起こっている環境変化のメカニズムの解明及び環境情報の堆積物への記録過程と解読に関する研究を中心に行うほか，他分野と共同して汽水域が抱える緊急かつ重要な課題の解決にむけて集中的に研究を行うプロジェクト研究にも参加する．なお，着任後は併任として，大学院での指導をしていただくこともある．
応募資格：博士の学位を有し，フィールドワークを重視して研究を行っている方で年齢は35歳前後であることが望ましい．
採用予定日：平成14年10月1日
提出期限：平成14年7月31日（水）必着
問い合わせ先：
〒690–8504　島根県松江市西川津町1060
島根大学汽水域研究センター長　高安克己
電話　0852–32–6451　Fax　0852–32–6099
E-mail：takayasu@soc.shimane-u.ac.jp
詳細は，センターHP（http://www.kisuiiki.shimane-u.ac.jp/）を参照．

掲　示　板

堆積研ホームページの新事務局での運用開始　新しいURLでの運用を開始しました．
http://geogate.sci.ibaraki.ac.jp/SSJ/SSJ.html
堆積学研究会　事務局　taisekiken@geogate.sci.ibaraki.ac.jp

学協会・研究会報告

IGCP434「白亜紀の炭素循環及び生物多様性変動」・「第7回国際古海洋学会」共催巡検報告

早稲田大学大学院，現UFJ　総研・清水孝太郎

2001年9月22日から9月25日の4日間にわたって，IGCP434とICP VII（7th International Conference on Paleoceanography）の共催による巡検が北海道三笠市，夕張市，名寄市および天塩の中川町で行われた．米国ニューヨーク市などにおけるテロ事件の直後で，講演やポスターの部には多数のキャンセルがあったにもかかわらず，巡検にはスイス・フランス・ドイツ・スペイン・アメリカ・オーストラリア・ニュージランド，それに日本の世界8か国から18名の参加があった．

日本学術会議・日本古生物学会・日本第四紀学会の共催によるICP VIIは本巡検に先立ち，9月16日から21日の間札幌市内において行われ，盛会のうちに終了した．International Conference on Paleoceanographyがアジアで開催されることは，今回が初めてということもあり，会場には日本人の姿が数多く見うけられた．テロ事件の影響を受けて，米国人研究者の講演キャンセルが目立った．ICP VII開会式においては，参加者全員で黙祷を捧げ，事件の犠牲になった人々の冥福を祈った．

本巡検においても日本人の積極的な参加が目立ち，18名中10名が日本人であった．22日朝に北海道大学の正門を出発した三笠市のご配慮によるバスは，一路，夕張市シューパロ川支流の白金沢へと向かった．車中では，金沢大学の長谷川卓氏による名案内が調子よく響いた．海外からの巡検参加者は，初めて目にするのか地下足袋や熊除け鈴に興味を示していた．白金沢においては，白亜系セノマニアン・チュロニアン階境界付近の地質を詳細に観察することのできる連続露頭が存在する．これまで世界各地のセノマニアン・チューロニアン階（C/T）境界付近において，有機物に富み葉理の保存が良好な黒色頁岩の存在が報告されてきている．この古海洋学的現象は，1976年にSchlangerおよびJenkyns両氏によって“Oceanic Anoxic Event（海洋無酸素事変）2（＝OAE2）”と命名されて以来，白亜紀古海洋学における重要な研究テーマとなっている．IGCP434のプロジェクト・リーダーを務める早稲田大学の平野弘道氏および本巡検の長谷川卓氏は，本邦のOAE2に注目した研究活動を展開している．長谷川氏は白金沢における地球化学分析をもとに，陸源高等植物の炭素安定同位体比曲線は年代対比の道具として極めて有用であることを指摘している．この成果は，将来陸成層と海成層の年代対比に大きく寄与することが期待され，IGCP434の主要課題となっている．

OAE2は黒色頁岩の堆積メカニズムのみならず，数多くの海生動物が消滅した点でも多くの研究者達が関心を示している．巡検ではC/T境界の露頭を前に，長谷川氏とドイツ・キール大学のKuhnt氏の間において活発な議論が展開された．OAE2における浮遊性・底性有孔虫の消滅原因について，長谷川氏は無酸素水塊の拡大を考えているのに対して，Kuhnt氏は温度の異なる水塊の侵入を考えていたようである．その夜は三笠市長自らが巡検団一同を歓待して下さり，当地自慢の物産が食卓を賑わした．三笠市産のワインはワイン通が多いヨーロッパ諸国の研究者にも好評だったようである．C/T境界の露頭を前にして行われた議論は夕食後も人数を増やしてさらに続き，当地自慢のワインを限りなく消費しつつ活発な議論が展開された．三笠市長，教育長の，いつもながらの地球科学に対するご理解とご配慮には誠にありがたいものがある．

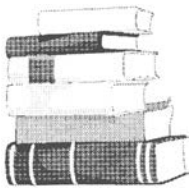
翌日，白金沢とは別のルートにおいてC/T境界の露頭観察をするため，夕張市滝ノ沢へと向かった．午後は夕張市内の瀟洒なホテルにて昼食をとり，予期せぬフランス料理に巡り会えたことを賞賛しつつ舌鼓を打った．これは化石館の高橋賢一氏の熟慮の末のプランであったと聞いている．次いで石炭歴史村を見学した．その後再び三笠市へ戻り，三笠市立博物館に向かった．この博物館は白亜系産アンモナイト化石のコレクションが極めて整っていることで知られている．

巡検第3日目は主として中川町への移動日となった．北海道を縦断して，日本の自然をより詳しく知ってもらおうとの意図があったようだが，あいにくの悪天候となった．途中，名寄市立博物館へ立ち寄り，昼食を取ると共にアイヌ文化や開拓民に関する館内展示に一同見入った．ここで中川町のご配慮によるバスに乗り換え，日も随分落ちてから中川町郷土資料館に到着した．中川町は三笠市と同様に本邦白亜系の模式的地域とされているところであり，保存良好な大型海生爬虫類やアンモナイト類，イノセラムス類の化石を多産することで知られている．町のシンボルマークにもアンモナイトが採用されている．中川町郷土資料館も白亜系産のみならず各種大型海生動物化石のコレクションを誇っている．本年7月1日には博物館が開設され，さらに展示内容が充実したものになるとのことである．その日の宿泊先は町営ホテルであり，ここでは中川町長自らが英語を話して巡検団を歓待してくれた．それに対して巡検団を代表してスイスETHのHelmut Weissert氏が感謝の挨拶を述べた．その夜は，巡検中すっかりカラオケに魅了された海外研究者を含めて全員で，米国テロ事件の犠牲者のため，the BeatlesのIMAGINEを合唱するという一場面もあった．また，中川町長の地球科学に対するご理解とご援助には，一同心底から感謝した．

巡検最終日は中川町内の化学合成群集露頭を観察した．この露頭は上部白亜系中に観察されるものであり，近年蝦夷累層群中の各層準からも報告されている．こうした化学合成群集を含む石灰岩露頭は，海底からの湧水作用が起源とされている．特殊な環境下にあった生物活動を知る意味で興味深い．現場では，中川町郷土資料館の疋田吉識氏による酸素同位体比データなどを交えながら議論が展開された．その後，町内の川原において鮭の遡上を見物しながらの野外昼食となった．その日札幌に帰着した時には，既に日が沈んでおり，別れを惜しんでの解散となった．

本巡検は，北西太平洋地域以外を主な舞台としてきた海外の研究者に，本邦におけるOAE研究の成果を露頭の前で紹介し，その地質を知悉してもらうことに大きな貢献をした．同じOAE2が起きたとされる層準でも，彼らには大きく異なって見えたのではないだろうか．OAEの発生メカニズムを考える時，世界各地のOAEに関する情報が数多く必要であることは言うまでもないが，これからは時間分解能の高い情報が必要になってくるであろう．また海洋においてOAEという現象が起こっていた間，陸域ではどのような現象が起きていたのか知ることは興味深いテーマである．今後こうした要求に応えるため，炭素安定同位体比層序の必要性がますます高まってくるであろうと思われる．

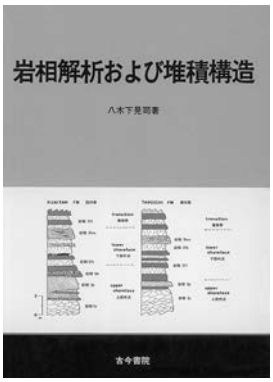
結びに当たり，巡検開催についてご配慮いただいた第7回国際古海洋学会組織委員会の岡田尚武氏，行政の立場から絶大なご支援をいただいた三笠市長及び中川町長に，深甚の謝意を表する．



紹　介

岩相解析および堆積構造

八木下晃司　著



〔古今書院2001年10月10日発行，A5版，222ページ，定価3,500円（税別），ISBN4-7722-3013-0〕

本書は砕屑性堆積岩類を対象として，野外で実際に岩相解析するための基本原理と方法を記述した実践的な教科書である．著者の永年にわたる国内，国外における調査・研究例をもとに書かれており，分かりやすく，読んで納得のいくものとなっている．十分な説明がないままに多くのことがらを少ないページに詰め込んだ教科書が多い中で，本書は少し毛色が変わっていて，読後にさわやかな気分になる．

評者が野外調査を始めた1970年代初頭には，砕屑性堆積岩類は主として層序学の研究対象であり，野外での観察は層序を編むためで岩相解析は二の次にされていた．露頭を観察しながら，もっと多くの情報と取りたいという気持ちから一種の欲求不満になっていたことを思い出す．当時，庄司力偉は「堆積学」（1971）において日本の固体堆積学の研究の世界からの遅れを指摘し，堆積学振興の重要性を主張していた．それから30年を経た現在，本書のような国際的に通用する教科書が日本語で出版されたことに感動を覚える．著者をはじめとする多くの堆積学研究者の努力の結果だと思う．

内容は，次の9章からなっている．

1. 岩相解析および堆積構造
2. チャンネルとバー
3. 平板および舟状斜交層理
4. ハンモッキー斜交層理とスエール斜交層理
5. インブリケーション
6. 土石流堆積層と扇状地堆積物
7. 反砂堆および高い流れ領域における堆積構造
8. ヘリングボーン斜交層理および潮汐束
9. タービダイト・海底峡谷・コンターライト
10. シークエンス層序学に関する岩相と堆積構造

第1章は，岩相，岩相コード，岩相モデル，堆積構造といった基本概念についての解説である．2章から10章はトピックごとにまとめられており，読者の興味に応じてどこから読んでも理解できるよう書かれている．どのトピックについても記述は具体的である．評者は第2章を読んで，昔，八木下氏に蒲原礫岩の露頭でチャンネルとバーの区別の仕方を教えていただいた時の目から鱗が落ちた感じをなつかしく思い出した．読者諸子も本書のあちらこちらでそんな感じを味わうことができるだろう．

シークエンス層序学は1980年代半ば以降の堆積学における世界的なはやりであり，日本でも一世を風靡した．第10章はシークエンス層序学の簡潔な解説と野外でのシークエンス認定法が実例をあげて解説されている．新しい魅力的な考え方が提案されると，機械的にその原理を現象にあてはめてしまうことがよくある．その点，著者が，シークエンス層序学が非活動的縁辺域の堆積盆をもとにしたもので，日本のような活動的縁辺域を念頭において作られたものではないことを指摘している点は注目に値する．機械的な原理のあてはめが危険な例として，パラシークエンスが必ずしも海水準変動によってのみ説明されるものでなく，アバルジョンによっても説明が可能であることを示している．より新しいパラダイムの構築をめざした独創的な研究を進めるためには批判精神は不可欠である．この意味で第10章は，シークエンス層序学の健全な紹介となっている．

フィールドに魅力を感じ，日々露頭から出来るだけ沢山情報を得ようと研鑽を重ねている学部・大学院修士の学生諸君に本書を薦めたい．一方，若い頃，不幸にして本書で記述されているような手法に接することの出来なかった方にも一読をお薦めする．露頭を観察することがこんなに楽しいことだったのかと再認識できるかもしれない．

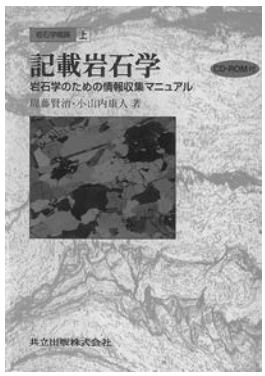
あえて難をあげれば，例えばFig.3-2のような不鮮明な写真である．再版にあたって考慮いただきたい．

本書は砕屑性堆積岩類のみを対象としているが，今後，炭酸塩堆積物や火山砕屑岩類等についてもこのような教科書が次々と出版されることを期待する．

（天野一男）

岩石学概論・上
記載岩石学―岩石学のための情報収集マニュアル

周藤賢治・小山内康人　著



〔共立出版株式会社，2002年，272頁，A5版，CD-ROM付，ISBN4-320-04639-0，定価3700円＋税〕

「岩石を記載する」．何と憂うつな響きだろう．最初に野外調査に出かけて，恐らくは誰もが思ったことだろう．無理もない．何のために記載をするのかが見えていないし，その方法も充分に修得していないのだから．「指導教官が悪い」と言ってしまえばそれまでで，以後，岩石学などやらなくてもいい分野へ進めばこの憂うつからは開放される．しかし，今だに岩石学に携わっている人間にとっては依然としてこの憂うつから，程度あるいは内容こそ違え，解き放されることはなく，更にやっかいなことには，いつしか指導教官と呼ばれるようになった憂うつ人間もいる．さて，困った．何かいい方法はないだろうか…．本書は久し振りに出版された使える教科書である．学生には最初の憂うつをかなり軽減してくれそうだし，年老いた憂うつ教官にも学生指導はもとより自身の研究の一助としても使えそうである．そして，岩石に関連した企業で働く人たちを含めて広く薦めたい教科書でもある．

本書は，第1章の岩石成因についての小史と記載岩石学の生い立ちの記述，および岩石の分類法の解説から始まり，以下の章にその分類法に従って，火成岩，変成岩及び堆積岩の順で書き進められている．以下，章立てに従って紹介する．

第2章から第5章までが火成岩の記述で，内容は，火成岩の組成・分類・組織（2章），火成岩の微量元素組成と同位体組成（3章），火成岩の記載的特徴（4章），及び火成岩体（5章）となっている．従来からの主要元素組成やノルム組成による火成岩の分類に加えて，本書では，近年，特にその有用性が認識されだした微量元素や同位体組成による分類や成因の議論が分かり易く記述されている．

また，火成岩の野外での産状を記述した章は，図を多用し，丁寧に書き進められており，岩石の鏡下あるいは化学組成による記載も野外での産状の正確な記載がないとその有用性が半減，あるいはそれ以下になるという著者らの考えの表れとみた．一方，鏡下での記載については，実用性を重んじたスタイルであり，個々の鉱物各論や結晶学的記述はそれほど詳しくない．これは，鉱物各論や結晶学については他に良い教科書があるので重複を避けたためと思われる．いずれの記述も分かり易さを目指して書かれているため，専門の人からみると少し物足りなさを感じるかも知れないが，もう少し深く理解したいと思う人は，巻末に9ページにわたって引用されている文献でその要望のかなりの部分は満たされると思われる．このことは，以下の変成岩と堆積岩についても同様である．

第6章からは変成岩の記述で，内容は，変成作用（第6章），変成岩の分類と命名（第7章），変成作用の限界と進行過程（第8章），変成相と変成相系列（第9章），変成岩の組織（第10章），広域変成岩の記載的特徴（第11章），及び局所変成岩の記載的特徴（第12章）となっている．変成作用の分類は，広域変成作用と局所変成作用に2大別し，それぞれをさらに3分類（造山帯・海洋底・埋没変成作用）と6分類（接触・熱水・動力・破砕・衝撃変成作用と交代作用）に分けて記述されている．変成岩の分類は，原岩，組織及び変成岩特有の名称の基準で行われ，それぞれに記載の要点がまとめられている．変成相と変成相系列の記述は，各種の変成反応線を駆使した図を多用してなされ，更に代表的な変成相系列は具体的な変成岩地域を例に解説され，とても分かり易く記述されている．もちろん，近年，注目されている超高圧及び超高温変成作用についても抜かりなく解説されている．鏡下における記載は，変成組織や原岩による変成鉱物の違いなどに基づいて多くの鏡下写真とともに記述されており，理解しやすい内容となっている．全体に変成岩の形成過程とそのテクトニクスの重要性を全面に押し出した記述であり，従来にはない意欲的な変成岩の記載方法である．特に，変成作用の圧力―温度―変形―時間変化の解説はいくつかの地域を例に分かり易く説明されている．なお，変成岩のトピックスが2～3の一口メモないしはコーヒーブレイク様の囲み記述で紹介されており，堅苦しい構成にならない工夫の表れとみた．

堆積岩については，第13章（堆積岩の形成と分類）にその記述がある．ここでも，火成・変成岩に準じて全岩あるいは鉱物（クロムスピネル）の化学組成に注目した砂岩の後背地の推定法などの記述が特徴となっている．もちろん，従来の構成鉱物および構成岩片種に基づく堆積岩の分類も記述されている．

以上，章立てに従って本書の内容を紹介したが，本書にはもう一つの大きな特徴がある．それは，書中にちりばめられている各種の写真および一部の図が，添付されているCD-ROMに納められていることである．これは，この種の教科書にはなかった試みで，実に便利である．特に，写真は書中ではモノクロでかなり小さく載せられているが，CD-ROMでは驚くほど見事なカラー写真として収録されている．時代の要請とはいえ，本当に良くできている．なお，著者からの最新の連絡では，CD-ROMに若干の不具合（最新のOSでは認識できない，など）があるとのことで，不具合が発生した時は共立出版のサポートサービス（http://www.kyoritsu-pub.co.jp/）へアクセスして欲しいとのことである．また，同サービスでは出版後に見出された図の修正や他の図の情報も得られるとのことである．

さて，最後になるが，本書を通読して感じたエネルギッシュな記述を支えているものはいったい何なのであろうか．それは，「まえがき」に書かれているように，本書の底辺には，ここ30年程で劇的に変化した地球観，すなわちプレートテクトニクス，更にはプルームテクトニスという地球観が要請する「岩石形成とテクトニクスの関連の解明」に充分に応える記載岩石学を目指す，という著者らの揺るぎない姿勢があるからであろう．この姿勢が続編の「解析岩石学」で更に揺るぎないものとなっていることを期待したい．

（石塚英男）

本邦産岩石の深部物性データ集　2001

地質調査総合センター速報no.23

星野一男・加藤碩一・深部物性データ編集委員会

〔2001年発行　A4版　479p〕

最初に我が国に岩石の強度データ集が発行されたのは，1972年である．以後地質調査所の地質力学研究室で精力的に岩石の高圧物性について研究実験を行い，各地から試料を集め，この度本データ集が取りまとめられた．

本データ集に収録された岩石は，518種におよび，その内訳は堆積岩429種類，火山岩が66種類，深成岩が23種類である．また地域的には北海道中央，北海道東部，渡島-津軽，東北，新潟，北陸，中国，壱岐，津島，常磐，関東，中部，東海，紀伊半島，四国，北九州，および沖縄の15地域に分け，我が国の全地域をもれなく含んでいる．堆積岩の518種の内288種は大深度坑井試料からなり，近海を含む深度数千mクラスのボーリングから得られた試料であり，そのデータは大変重要である．

最初に採取された場所が地質図入りで示された全試料の一覧がある．ここで示される緯度・経度は平成14年10月から図幅5万分の1，2万5千分の1では，4隅に示される新しい世界測地系になるので東京付近では緯度＋11.6，経度－11.6程ずれる．高圧実験への準備（Ⅳ章）では全試料の物性が一覧表で示された孔隙率，密度，弾性波速度が載っている．Ⅴ章には，星野が考案した三軸試験機の説明もある．

試料は番号と記号で示され，それぞれ3～9個の実験を行い変形特性一覧表となっている．また試料番号ごとの応力―歪み曲線図がつけられている．モール円と包絡線図を見ると，直線式がモール円によく接している．このことは，地層面に直角に切り端面を1/500まで平行に研磨した努力の賜物といってよい．

表8-1，表8-2には圧密に進行の伴う力学特性の変化と本邦各堆積盆地の地質年代とその圧密物性指標が載っている．中新世のところを見ると裏日本新潟と表日本常磐・房総・三浦で圧密の進行が大分違うことがわかる．つまり表日本では強度が小さい．

深成岩では二酸化珪素成分が強度などに影響があるらしい．このほか分析した深成岩・火山岩の力学特性と化学・鉱物成分との関係が図表にまとめられている．

巻末には孔井柱状図が試料採取点と共に載せられている．図9-4には，石油技術協会から29個の，また石油公団から6孔井の資料を，物性サンプルの欄を設けて該当する深度位置に試料記号をそれぞれ記入してある．その他はもとのままなので，凡例が無く地層傾斜の傾斜角がわかりにくい．

それにしてもこのようなデータ集は，我が国においてほとんどないので貴重であり，多くの人が参照されるとよい．特にこれから岩石のことを学ぶ人々に強く薦めたい．

（羽田　忍）

書評・献本

以下の献本が寄せられています．紹介の労をとっていただける方は「ニュース誌編集室」までお知らせ下さい．

「琉球列島―生物の多様性と列島のおいたち―」安間繁樹著　東海大出版会　定価￥2000＋税　p195
「地球システムのデータ解析」萩原幸男・糸田千鶴著　朝倉書店　定価￥3200＋税　p148
「Geological and Biological Effects of Impact Events」E. Buffetaut・C. Koeberl編　Sprinver-Verlag　定価￥11890＋税　p295
「廃棄物とのつきあい方」鹿園直建著　コロナ社　定価￥1200＋税　p145

CALENDAR

2002, 5〜

地球科学分野に関係する研究会，学会，国際会議などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆さまの情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

5月　May

☆関東支部主催「活変動地形判読セミナー2」
5月18・25日，6月1・8日（いずれも土曜日） 場所：都内（詳細未定） 講師：太田陽子氏

○2002年地球惑星科学関連学会合同大会
5月27日（月）〜31日（金） 場所：代々木国立オリンピック記念青少年総合センター
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jepsjmo/jmoo2002/index-f.html

6月　June

○日本情報地質学会総会・講演会（Geoinforum 2002）
6月13日（木）〜14日（金）
場所：福岡大学セミナーハウス（六本松）
http://www.jsgi.org/

○地質学史懇話会例会
日時：6月15日（土）13：30〜17：00
場所：北とぴあ（東京・王子）
内容：講演3題．詳細はホームページで．
http://www.geocities.co.jp/Technopolis/9866/jahigeo.html

☆日本地質学会中部支部設立総会
6月15日（土）
場所：名古屋大学理学部B5講義室
シンポジウム「中部地方の地質学の発展をめざして―研究成果と課題―」
巡検「三河地方の領家帯の変形とCHIME年代，中央構造線，設楽層群」6月16日（日）

○日本古生物学会2002年年会・総会
6月21日（金）〜23日（日）
場所：福井県立恐竜博物館
シンポジウム「環日本海地域における白亜系層序と国際対比―手取層群を中心として―（仮題）」
http://ammo.kueps.kyoto-u.ac.jp/palaeont/

☆日本地質学会　近畿・四国・西日本支部合同大会
6月29日（土）
場所：岡山大学

7月　July

○第20回化石研究会総会・学術大会
7月6日（土）〜7日（日）
場所：大阪市立自然史博物館
http://www.mascat.nihon-u.ac.jp/FOSCL/

○第37回地盤工学研究発表会
開催日　7月16日（火）〜18日（木）
場所　クランキューブ大阪（大阪国際会議場）
＊17日（水）15：00より特別講演会
「地球温暖化防止に向けた世界の動き，国内の動き―京都議定書の発効をめぐって―」
詳細は，http://www.jiban.or.jp/

8月　August

○第56回地学団体研究会総会
8月2日（金）〜4日（日）
場所：北海道教育大学札幌校，かでる2・7（北海道立道民活動センタービル）
シンポジウム「第三紀」「博物館」「付加体」「環境」「応用地質」「地学教育」を予定
http://strati.sci.hokudai.ac.jp/agcj_hok/sokai2002/

○The 2002 Goldschmidt Conference incorporating ICOG (the International Conference on Geochronology)
8月18日（日）〜23日（金）
場所：Davos, Switzerland
http://www.goldschmidt-conference.com/2002/gold2002/

○第4回国際レルゾライト会議
4th International Workshop on Orogenic Lherzolite and Mantle Processes
8月26日（月）〜9月3日（火） 場所：北海道様似町公民館　http://ganko.eps.nagoya-u.ac.jp/iec2001/index.html

9月　September

○6th International Symposium on the Jurassic System
9月12日（木）〜22日（日）
場所：Mondello, Palermo, Sicily, ITALY
http://www.dst.unito.it/6thisjs/

☆日本地質学会第109年年会・総会（新潟大会）
9月14日（土）〜16日（月） 場所：新潟大学（新潟市）

2月　February　2003

○第8回太平洋地域新第三系国際会議
The 8th International Congress on Pacific Neogene Stratigraphy
2月3日（月）〜5日（水）
場所：タイ国チェンマイ市プーカムホテル
連絡先：〒422-8035　静岡市宮竹1-9-24
土　隆一研究事務所
電話　054-238-3240　FAX　054-238-3241
E-mail：rtsuchi@mvi.biglobe.ne.jp

☆リーフレットシリーズ・3　好評発売中！！
『大地をめぐる水―水環境と地質環境―』

第1作「大地の動きを知ろう―地盤・活断層・地震災害―」，第2作「大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo-Pollutions」に引き続きリーフレットシリーズ第3作「大地をめぐる水―水環境と地質環境―」が発売になりました．
　A2版裏表カラー印刷，ハンディータイプでさらにポスターにもなります．

　ご希望の方は以下の要領でお申込下さい．
　会員価格300円　非会員価格400円
申込方法：学会事務局宛に，希望部数を記入し，返信封筒（切手貼付のこと）を入れてお申し込み下さい．
※少部数の場合は，代金は切手で同封可．
　なお，サイズが横15cm・縦21cm，重さ25g/部ですので，郵送につきましては，以下のようにお願いします．
定型封筒の場合：90円切手貼付．ただし，二つ折りにしての郵送となります．
定型外（15cm×21cm以上）封筒の場合：130円切手を貼付．

第1図　ロシア科学アカデミーのロゴ．2002年は創立以来278年目にあたる．

海外の動き

ロシア科学アカデミーの現況

富樫幸雄＊（産業技術総合研究所）
＊現在，ロシア科学アカデミー鉱床地質学・岩石学・鉱物学・地球化学研究所（IGEM RAS）へ長期派遣中

1．はじめに

ロシア科学アカデミー（英語名Russian Academy of Sciences; RASと略）は1724年，ピョートル一世（大帝）により創立され，それ以来，280年近くにわたって，基礎科学のすべての分野での研究活動とその実績で，ロシア社会の大きな権威であり続けてきた（第1図）．ソ連時代になってもそのようなステータスは変わらず，多くの優秀な頭脳を集積した最高・最大の研究組織として，とくに，冷戦下で「西側」に対抗するための「国家のための科学」を推し進める大きな役割を果たした．ソ連科学アカデミーは「社会主義の栄光」の大きな一翼を担っていたといえる．この間，この組織は国家の手厚い保護を受けただけではなく，それに所属する研究者であること自体が大きな社会的尊敬を受けたのであった．

しかし，1991年末の突然のソ連崩壊により，状況は一変した．組織そのものは存続したものの，新しい国家体制の中で，ロシア科学アカデミーが国家機関かどうか，ということすら論議の対象となった．怒涛のようなハイパーインフレのため，研究予算と職員の給与の実質価値は微々たるものになっただけでなく，それすらも滞りがちとなった．若い優秀な研究者は経済的に安定した別の職場や海外の研究所へ大量に流出した．年々，設備の老朽化は進み，研究者の士気は地に墜ちた．

ソ連の崩壊から10年が過ぎた．ほとんど未経験の市場経済体制を，なんの予備知識もなく受け入れる大混乱を経ながら，ロシアの社会はやっと落ち着きを取り戻しつつあるように見うけられる．この間，大きな試練の道を歩んできたロシア科学アカデミーという巨大組織の現状を，最近の資料をもとにご紹介したい．

2．ロシア科学アカデミーの組織

現在，ロシア科学アカデミーは理工学，人文科学にわたる基礎研究（医学，農学を除く）のための国家機構として，ロシア連邦政府の科学技術省が所管している．しかし，伝統的に独立性が高く，組織としての意志決定最高機関は総裁，副総裁，幹部会顧問（いずれもアカデミー会員）からなる幹部会（Presidium）である（第2図；第3図）．現在の総裁はユーリーS. オシポフ氏（応用数学）で，副総裁は分野別に11名任命されている．そのうち，地球科学分野ではニコライP. ラヴォーロフ氏（鉱床学）（第4図）とニコライL. ドブレツォフ氏（岩石学）がいる．また，2000年度ノーベル物理学賞を受賞したジョーレスI. アルフォーロフ氏（ヨッフェ物理技術研究所長）も副総裁の一人である．

2001年9月1日現在，ロシア科学アカデミーに属する研究機関の総数は378．うち，狭義の研究所数は322を数える（他は博物館など）．これらは分野別に18の部門（Otdelienie；Department）に分けられる．これらのあるものは，地域別に13の地域研究センター（サンクトペテルブルグ，ウファ，コラ，ダゲスタンなど）や，3つの地方支部（シベリア，極東，ウラル）に所属する（第1表）．

総職員数は113,337名．うち，研究者数は54,164名．これには，アカデミー会員481名，同準会員702名，博士号保有者9,043名，修士（Kandidat）26,262名が含まれる．

地球科学関連の部門としては，
①地質学・地球物理学・地球化学・鉱山科学部（OGGGGN）
②海洋学・大気物理学・地理学部門（OOPhAG）
の2つがある．OGGGGNの研究機関数は21で，部門長はドミトリーV. ルンドクイスト氏（ヴェルナツキー地質博物館長）である．また，OOPhAGの研究機関数は7つで，部門長はユーリーA. イズラエル氏（全地球気象学・エコロジー研究所長）である．

3．ロシア科学アカデミーの予算

2000年度（ロシアの会計年度は暦年と同じ）のロシア科学アカデミーの研究予算実行額は，9,976.1百万ルーブル（日本円換算でほぼ420億円；1ルーブル＝4.2円として換算）であった．これは，前年度よりも31％増えている．このうち，連邦政府からの予算が5,290.2百万ルーブル（全体の53％），科学技術省ほかの政府内特別基金からが808.6百万ルーブル（同8％）であるのに対し，外部資金が3,588.6百万ルーブル（同36％）と大きな比重を示しているのが注目される．

また，同年度の連邦政府予算のうち，基礎プロジェクトに支出された予算は3,604.0百万ルーブル（日本円で約150億円）であった．このうち，OGGGGNによる支出は456.1百万ルーブル（全体の

第1表　ロシア科学アカデミーの研究部門・地方支部の構成と研究機関数

研究部門名	略称	研究機関数
1．数学	OM	6
2．物理学・天文学	OOPhA	23
3．核物理学	OOYaF	2
4．物理工学・エネルギー工学	OPhTPE	7
5．機械工学・力学・プロセス管理	OPMMPU	12
6．情報・計算機工学・オートメーション	OIVTA	24
7．化学・化学工学	OOTKh	17
8．物理化学・無機物質工学	OPhKhNTM	8
9．物理化学生物学	OPhKhB	20
10．生物学	OOB	21
11．生理学	OPh	6
12．地質学・地球物理学・地球化学・鉱山科学	OGGGGN	21
13．海洋学・大気物理学・地理学	OOPhAG	7
14．歴史学	OI	14
15．哲学・社会学・心理学・法学	OPhSPP	7
16．経済学	OE	16
17．国際関係	OMO	7
18．文学・言語学	OLYa	10
研究部門所属研究機関数（A）		228
幹部会直属研究機関数（B）		16
i．極東支部		33
ii．シベリア支部		61
iii．ウラル支部		40
地方支部所属研究機関数（C）		134
ロシア科学アカデミー合計（(A)＋(B)＋(C)）		378

（「ロシア科学アカデミー幹部会活動報告資料：1997－2001版」より）

第2図（左）　貴族の館を思わせるロシア科学アカデミー幹部会ビル（Presidium）．総裁以下の幹部会メンバーの執務室はこの中にある．有名なフェルスマン鉱物学博物館はこの隣りの敷地に建っている．

第3図（右）　ロシア科学アカデミー事務局本部ビル．幹部会ビル（第2図）とは対照的な近代的な高層ビルである．

12.6％；約19億円），OOPhAGによる支出は172.7百万ルーブル（全体の4.8％；日本円で約7.3億円）で，2つの部門を合わせて全体の17.4％と，研究機関数から見て，地球科学部門には比較的多めの予算が配分されているようである．

2001年度の予算額は上記の2000年度実行額よりも約20％程度増額されており，ここ数年，順調に予算が延びていることが示されている．ただし，最悪の時に比べれば少しは良い，という程度で，11万人を超える大組織に日本円換算で400億円程度の予算では，いかにロシアの物価や人件費のレベルが低くても，十分というには程遠いことは確かである．

4．ロシア科学アカデミーの現状

最近公表された「ロシア科学アカデミー幹部会活動報告資料；1997–2001年度版」には，現在も，①乏しい財源，②頭脳の流出，③設備の老朽化，などの厳しい状況が続いていることが率直に述べられている．

その中で，最も重要な課題としては，①研究条件の改善，②最先端分野への予算の重点配分，③頭脳の確保，④設備の整備，など多岐にわたり，さらに，これらを進めるために，⑤連邦政府レベルでの科学政策を推進するための法的な整備，⑥新財源の導入（産業との連携；保有財産の運用など）に力を入れている．

若手研究者の流出を防ぐためのインセンティブとしては，①給与の改善，②徴兵猶予措置の適用，③住宅の確保，などを進めてきたが，その結果，1999年の採用者は初めて1990年のそれを上回った．（日本人には，徴兵猶予がインセンティブになる，というのが印象的である．）

法律面では，1996年8月に「科学および科学技術政策に関する連邦法」が成立し，ここで，①ロシア科学アカデミーは国家機関であること，②国防分野以外の基礎研究活動には連邦予算が配分され，その額は連邦予算全体の4％を上限とすること，などが明記された．（ただし，この配分比率については，2001年度実績は連邦予算全体の1.83％にとどまっている）

5．ロシア科学アカデミーの今後

ロシアは世界の陸地面積の約12％を占める世界最大の国であり，日本の隣国の1つでもある．その地質体の大きさと多様性からも，また，地質・地理の日本との連続性からも，日本の地球科学研究者にとって強い関心を持たざるを得ない国であろう．

筆者は2000年3月以来，モスクワにあるロシア科学アカデミー鉱床地質学・岩石学・鉱物学・地球化学研究所（IGEM RAS）に滞在し，鉱床学分野の共同研究に従事している．こうしてロシアに何年も暮らし，ロシア科学アカデミーの「現場」を中から見て思うことは，この10年余りのこの国と社会のあまりにも大きく急激な変化である．

結局は，研究も人が行うもの．私のまわりで働く中堅どころの同僚研究者のサラリーはおそらく月額100米ドルに満たないであろう．たしかに公共料金や国産食料品・雑貨の価格は比較的安いが，街に溢れるさまざまな輸入品の価格は日本とほとんど変わらない．貧富の差が極端に大きい今のロシアでは，テレビのコマーシャルはいたって華やかに購買意欲をかきたてる．このような社会環境の中で，研究にのみ没頭すること自体，かなり難しいことに違いない．

社会一般の，科学者を見る目も社会主義の頃とは様変わりで，1999年の世論調査では，「現在最も尊敬されている職業は何か？」という問いに対して，1位はビジネスマンで，50％の人がこの職業をあげている．以下，政治家（21％），医者（18％），熟練労働者

第4図　ロシア科学アカデミー副総裁（地球科学担当）ニコライP.ラヴョーロフ氏（中央）．鉱床地質学・岩石学・鉱物学・地球化学究所（IGEM RAS）所長で，ロシア科学界の知日派の一人である．

（17％），ジャーナリスト（15％），輸出入業者（14％），芸術家・俳優・作家（13％），教師（9％），農家（9％），科学者（5％），軍人（4％），技師（2％）の順に続いている．（Center for Science Research and Statistics, 2001）

科学者，軍人，技師などの社会主義時代の花形職業はまったく人気がない．この結果は，まさに，今のロシアの世相がそのまま反映されているものといえそうである．このような社会状況の中で，ロシア科学アカデミーの重要な政策の中に，「優秀な頭脳の確保」が謳われているのはもっともなことである．さらに，「限られた予算を緊急かつ重要な研究テーマに重点的に配分すること」，「研究所機構の再編成を進めること」，「外部企業のイノベーションのニーズに積極的に応えてゆくこと」，「国際協力を進めること」，などが重要な政策としてあげられている．（日本での昨今の国研や大学の独立行政法人化にあたっておこなわれている論議に大変よく似ていることは，当然といえば当然であるが）

これに関連して，ロシアに長期滞在する一外国人としては，ロシアという国自体の広汎な国際化をとくに進めてほしいと切に願うものである．外国人には，公私両面において社会主義時代そのままの煩瑣な規制が多く，西側のコスト意識では考えられない時間や経費のムダが多い．このままでは実質的な国際研究交流など不可能ではないか，と思う時すらあるほどである．ロシアがいつ「フツーの国」になれるか，は難しい質問だが，ロシアは日本の大きな隣国．好むと好まざるとにかかわらず，今後も「長いおつきあい」を忍耐強く続けて行かざるをえないであろう．それが日本と日本人の宿命のようである．

参考文献

青木　斌（1996）：ロシア科学アカデミーと地球科学者．54p．東海大学出版会．

青木　斌（1999）：私の友人―研究者たち．ロシア科学アカデミーとウクライナ科学アカデミーの地球科学者．68p．東海大学出版会．

ロシア科学アカデミー（1999）：ロシア科学アカデミー便覧，第2部．688p．Nauka，モスクワ．（ロシア語）

ロシア科学アカデミー幹部会（2001）：ロシア科学アカデミー幹部会活動報告資料：1997–2001年版．192p．Nauka，モスクワ（ロシア語）

Center for Science Research and Statistics (2001) : Russian Science and Technology at a Glance: 2000. 143p. Centre for Science Research and Statistics, Moscow.（英文）

［付記］ロシア科学アカデミー関連のインターネットホームページには以下のようなものがある：

1. http://www.pran.ru/（ロシア科学アカデミーの公式ページ．ただし，ロシア語のみ）
2. http://www.ras.ru/RAS/oggggn/（ロシア科学アカデミー地球科学部門のページ．英語もあり内容が豊富でわかりやすい）

委 員 会 だ よ り

☆法人化調査検討委員会

法人化調査検討委員会　報告

委員長　徳岡隆夫，（委員）赤羽貞幸・天野一男・上砂正一・会田信行・滝田良基

本委員会は昨年9月の評議員会でそれまでの調査委員会を引き継いで，活動を続けてきました．これまでに，以下の点について検討を行ってきました．

「法人化することの意義と必要性」
「法人化した場合と現在の組織運営形態のちがいと問題点」
「法人化に伴う財政問題」
「最近法人化あるいは法人化を目指している関連学会の動向」
「主務官庁となる文部科学省からの情報収集と法人学会の状況」

評議員会においては昨年12月と本年3月に，時間をかけて集中した討論を行いました．これらを中心に紹介します．なお，ニュース誌1月号および本号の評議員会議事抄録（p19–27）も参照して下さい．

1．法人化の必要性

以下のようにまとめることができます．（法人化の問題については，1988年からの将来構想の検討を経て，1993年以降評議員会を中心に検討が行われてきましたが，常に学会の将来計画や活性化，社会的な責任の問題とかかわって議論されてきたことです．この辺りのことにつきましては，ニュース誌1月号の座談会記事をお読みください．）

(1) 任意団体（権利能力なき社団）から社団法人になることによって社会的に認知されることになり，社会的な地位が高まる．学会はそのような組織であることが必要で，そうでなければ社会的に発言力も弱く，社会に提言を受け入れてもらえない．最近では倫理規定や著作権法に関連しても，法人である必要性が高まっている．

(2) 学会法人の認可では「一般国民への普及啓発活動を幅広く行っているかどうか」が基準となっているが，学会の本来の目的である「地質学および関連科学の進歩と普及をはかる」ためにも，法人化は必要である．社会的貢献について，人類の未来を開拓するためには問題の発掘・提言・実態の解明から解決までを法人学会として責任をもって関わっていくことが重要である．

(3) 研究企画委員会では学会の果たす役割として，①「知の創造」，②「グローバルな課題への貢献」，③「身近な課題への貢献」をあげているが，これらを果たす上では法人であることが望ましい．また，同委員会は学会として大学における教育と研究の飛躍的向上を計るためには，「科学・技術の最前線を積極的に取り込んでいくための企画」，「従来的研究法と新技術ユーザーのためのショートコース」，「これらへの参加学生に対する大学における単位化」など（ニュース誌，4巻3号参照）を提案している．これらの企画を実施するためには，法人である必要がある．

(4) 法人であれば，法的に保証された範囲での正当な事業，たとえば非営利の出版活動が可能となり，また，公的機関からの委託研究やプロジェクトへの応募を通じて，研究の発展を計れるとともに，財政基盤を強化することができる．

(5) 法人となることにより社会への一層の貢献が求められることになるが，このことを通じて学会を活性化することができる（たとえば防災や理科（地学）教育を通じた貢献など）．これらを責任をもって行うには，任意団体では限界がある．

(6) JABEE（日本技術者教育認定機構）や技術者継続教育に取り組むには法人であることが必要で，現在は任意団体であるために，法人である他学会の傘下での活動を余儀なくされている．地質学の中心的な学会である本会が，このまま任意団体で留まっていて良いわけがない．法人格をもっていないと，今後相手にされなくなる可能性が強く，発言力の低下など深刻な問題が生じ，また，公的機関の各種委員の推薦においても，今後法人でない学会では支障が生じる怖れがある．さらに言えば，伝統ある地質学関連教室の殆どから地質学の名称が消えてしまった現状では，近い将来に地質学の社会的な認知が失われ，ひいては学生の就職さえ危うくなる怖れがある．このような状況下では，地質学という名称で法人格を得ることには大きな意味があり，またそれによって全国の地質学関連教室の核として機能できるようにする必要がある．

(7) 法人の場合には，いままで以上に会員の総意での運営が求められることになり（たとえば高いハードルの総会の成立条件），会員の意見を反映した，より民主的な運営が可能になる．

(8) 法人化に批判的な意見の根幹には，お上に対する不信感があるのではないか．社会的な役割を果たすためには法人化が必要で，法人化の過程で生じる問題点は，その都度対処すれば良いことである．

2．法人化した場合の問題点や法人化そのものの問題点

（＊印は本委員会のコメント）

(1) 法人の場合には理事会を中心とした組織となり，従来学会が行ってきた評議員会を中心とした組織を守ることができないのではないか．（＊4.を参照）

(2) 法人化することによって，財政上の負担が増えることにならないか．（＊公認会計士の関与が必要になる分は増えるが，その他は任意団体でも同じ．）

(3) 大学等の研究者を中心とした組織となり，それ以外の階層，たとえば小中高教員の意見や要求が取り入れられなくなる怖れはないか．（＊社会への貢献が一層重視されることになり，国民への普及啓発活動に責任ある団体として積極的に取り組むことを通じて，学会としてより幅広い活動の展開が期待される．）

(4) 法人化すると主務官庁である文科省の指導を受けることになり，学会活動が不自由になる怖れはないか．（＊文科省の認可の基準は3を参照．任意団体の場合には会員へのサービスのみを考えれば良かったが，一般国民への普及啓発活動の重視，経理処理の一層の厳密化，総会重視の立場から定足数1/2以上などが求められる．このようなことについての指導はあるが，自主的な学会活動への干渉はあり得ない．）

(5) 法人化には多大の労力がかかるが，それだけの力量が現在の組織にあるのか．

(6) 代議員制を採用するとすれば，総会は役員と代議員で構成されることになり，一般（正）会員は総会の構成員になれないことになり，権利が奪われることにならないか．（＊4.を参照）

(7) 現制度下で，総会（委任状を含め1/15以上）は多数の委任状で成立しているのが現実であり，形骸化している面がある．むしろ代議員制にしたほうが，より民主的な討論ができるようになるのではないか．

(8) 法人化のメリットとともにデメリットも議論すべきではないか．評議員会中心の現行の運営が不可能になり，法人化は民主的な運営を目指すものとは言えない．（＊4.を参照）

(9) 法人化のデメリットを強調する人は，法人化しなかった場合のデメリットについてどのように対応するのかを述べるべきではないか．

3．監督官庁となる文部科学省の認可の基準

文科省は「学会法人の設立許可の基準について」で，以下のように示しています．

(1) 正会員数が1000名以上であること．（学生会員を除く）
(2) 基本財産が，社団法人は2000万円以上であること．
(3) 任意団体として継続して3年以上の活動歴があること．
(4) 学問分野として確立し，当該分野における唯一の学会であり，全国的な規模で活動していること．
(5) 独立した事務所を有し，専従の職員を配置していること．
(6) 一般国民への普及啓発活動を幅広く行っていること．
(7) 学術情報の海外への発信等，国際的な活動を幅広く行っていること．
(8) 経理処理について，監査，会計業務の依頼等，公認会計士の関与があること．

これらの基準についてみると(2)は社団法人を目指すということになれば，いくつかの学会が行ったように会員からのカンパを集めるなどして，その財産を確保する必要があるでしょう（これが集められないようであれば，法人化は到底無理？）．(8)については学会の会計は担当者の努力でかなり整備されてきましたので，公認会計士に関わる経費増（数10万円程度）は必要になります．これら以外の条件については，地質学会は基準を十分に満たしているといえます．むしろ，100年以上の歴史と5000名以上の会員を有し，多面的な活動を行ってきている本会がいまだ法人でないのは不自然といっても良いでしょう．

4． 定款案作成上の問題点

定款は任意団体の会則にあたるものです．これから地質学会が法人化を目指すとすると，上記の条件を満たすとともに，法人学会としての一定の基準を守るように，文科省の「定款作成例」にもとづいた定款案をつくり，文科省との折衝を行うことになります．この場合，従来行ってきた任意団体の組織運営形態は大幅に変更する必要があります．「定款作成例」をみると，以下のような点が検討すべき大きな課題となります．

(1) 総会の定足数は正会員の1/2以上で，年2回行う．
(2) 理事会（10数名から最大でも30名程度までの人数で構成）が総会に次ぐ審議・執行機関となるので，現行の評議員会を中心とした方式は変更が必要となる．また，理事は互選で理事長及び常務理事を定めることになるので，会長・副会長を理事長・副理事長とした場合には，現行の選挙方式には工夫が必要となる．なお，会長・副会長は当然理事の一員．
(3) 経理の処理に一層の厳密さが要求され，公認会計士の関与が求められる．
(4) 正会員は「学識経験を有する個人」と規定することになるので，学部学生は準会員の扱いとなる．

1～3の条件は主務官庁である文科省が学会法人を全体として指導監督する上で必要としていることですので，定款作成にあたってはこれに従うのが条件となります（ただし，定款では必要最低限のことを書くのが決まりなので，その文言に抵触しない限りは，学会が規則等で決めて運用すればよい）．総会の成立条件を正会員の1/2とする条項は，この数年来，学会法人に対して強力な指導がなされてきたことで，ほとんどの法人学会が定款の変更をすでに行っています．その中で会員数の多い学会はこれをクリアするのは到底不可能であることから，代議員制を取り入れているケースが多数である状況です．この場合，役員（理事と監事）と代議員が民法上の社員となり，総会は社員をもって組織することになりますので，正会員の大多数が総会の構成員でなくなるということになります．（なお，最近法人化された学会では，「正会員は総会に出席して意見を述べることができる」という条文を定款に入れるなどの工夫をしています．）年2回の総会開催は昨年のKSD事件以来，初めて強く指導していることのようです．なお，評議員会については，理事会が責任をもつというのが法人の場合の基本的な考え方ですから，位置づけは諮問機関となり，最近認可された学会法人や検討中の学会の動きから察すると，定款で規定するのは難しいと思われます．従って，評議員会を定款の外の学会規則として残して従来の機能を実質的に果たすようにするか，あるいは伝統ある評議員会制度を改めて総会―代議員会―理事会といった組織に変えるかの選択を迫られることになるでしょう．また，もう一つの大きな問題として「理事長は理事の互選による」ことになっていますので，現在行っている会員による会長選挙とどのようにすり合わせるかが問題となります．これらの点は最近法人化した学会や法人化を目指している学会の状況調査によってわかったことで，委員会としては資料を集めて論点を整理し，次の評議員会で審議をお願いする予定です．

なお，学会法人の状況を知りたい方は文科省のHP（http://www.mext.go.jp/b_menu/koueki/shinkou/05/005.htm）をご覧ください．定款が掲載されている学会（これらは最近定款の改定を行った学会？）も数多くあり，組織形態は学会によって実にさまざまであることがわかります．なお，文科省は今後できるだけ形を揃えようとしているようですので，「定款作成例」にもとづかずに，既存の法人学会の方式を参考にすることは難しいものと思われます．

5． これからの法人化についての検討のスケジュールは？

先の3月の評議員会では法人化の必要性については，本号掲載の議事録にあるように，確認されたところですが，どのような法人とするかについての具体的な検討はこれからのことです．これから文科省と予備的な折衝を行い，3で示した(1)~(8)の条件について，本学会の状況を説明し理解してもらうとともに，文科省の認可についての考え方を直接聞く必要があります．その上で，委員会としては6月の評議員会に定款案とその問題点，法人化する場合のスケジュールなどを示し，審議をお願いすることになります．そこでは法人化を基本方針とするかどうかについての評議員会としての態度を決めていただくことになりますが，それが認められた場合には，9月総会で承認を求めることになりますので，くわしい内容を会員の皆さまに広報し，ご理解とご意見をいただくことになります．ここまでが本委員会の任務と考えています．9月総会で承認された場合には，新しい評議員会のもとに法人化準備委員会が組織され，基本財産2000万円をどう集めるのかを含めて具体的な検討に入り，さらにその先の総会で法人化の実施を決議し，社団法人の設立総会を経て，文科省の認可を申請するということになります．その道のりはかなり長く，また険しいものとなるでしょう．このように，法人化の正式なスタートラインに立つのはまだ先のことですが，法人化の意義と必要性，および法人化へのプロセスを現時点でしっかり討論しておくことが必要だと考えています．

The Island Arcは年4回発行されます．最新号のVol.11, Issue 2が2002年6月に発行されます．日本語要旨をニュース誌とホームページ（http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj/）にも掲載しています．全文はオンライン上（http://www.blackwell-synergy.com）で無料閲覧できますので，是非ご覧ください．閲覧方法はニュース誌3月号を参照してください．

（The Island Arc連絡調整委員会）

The Island Arc Vo.11 Issue 2には，以下の5編が掲載されています．

The Island Arc Vo.11 Issue 2

1．Structural position of the Seba eclogite unit in the Sambagawa belt : supporting evidence for an eclogite nappe

Author : Mutsuki Aoya

三波川帯・別子地域のエクロジャイト岩体群は，基質の低変成度広域変成岩（片岩）に対して異地性とされてきた．しかし近年，瀬場ユニットの片岩部でエクロジャイトが多産し，沈み込み起源の広域エクロジャイト変成が三波川帯に存在する事が明白化した．さらに露頭-顕微鏡規模の構造データから，地図上で孤立した瀬場ユニットが大褶曲の鼻に当たり，構造上，他のエクロジャイト岩体と共に変成帯最上位を成すことが判明した．よって別子のエクロジャイト岩体群は単一の大ユニット，エクロジャイトナップとして認識できる．ナップが瀬場ユニットを含む事は，三波川エクロジャイト変成が全て沈み込みイベントに帰結できる可能性を示唆する．

2．Three-dimensional finite strain analysis in the high-grade part of the Sanbagawa Belt using deformed meta-conglomerate

Author : Yoshinori Moriyama and Simon Wallis

一般に，三波川帯の広域的延性変形は引伸ばし歪で特徴付けられるとされる．この考えは低変成度部における変形放散虫の歪解析に基づいている．中・高変成度部では放散虫の各個体の識別が困難で，同様の歪解析はない．三波川帯の高変成度部に初めて発見された変レキ岩は，3次元歪の定量的見積りを可能にした．誤差が評価できる形でRf-φ法から求めた歪の主軸比は，X/Y＝5.4-6.6とY/Z＝3.8-3.9で，変レキ岩の変形が押しつぶし歪の領域にあったことを示す．歪み楕円の形状の半定量的マーカーからも，高変成度部全域において同様の結果を得た．先の歪解析との相違は，四国西部低変成度域の延性主変形に正立褶曲作用の歪が後に累加されたためであろう．

3．Petrology of the greenstones of Lower Sorachi Group in the Sorachi-Yezo Belt, Central Hokkaido, Japan : with special reference on discrimination between oceanic plateau basalt and MORB

Author : Tohru Nagahashi and Sumio MIyashita

北海道中軸部の空知層群下部を構成する緑色岩類は，記載岩石学的・岩石化学的検討により，中央海嶺玄武岩（MORB）とは異なる特徴を示すことが明らかになった．この緑色岩類は大部分無斑晶質で，FeO＊/MgO-TiO2図においてMORBより低いTi増化傾向を示し，＞TiO2-10MnO-10P2O5図において大部分IAT領域に投影される．また，N-MORBで規格化したスパイダー図で平坦なパターンを示すが，Nbに正の異常が認められる．これらの特徴は，海台玄武岩（OPB）の特徴に類似し，空知層群下部の緑色岩類の起源が海台であることを示唆している．また，先の2つの区分図上にOPBの組成領域を提案した．

4．Thermal evolution of the Ryoke metamorphic belt, southwestern Japan : Tectonic and numerical modeling : Comment

Author: Yoko Yasutaka,Simon Wallis,Takeshi Ikeda

西南日本領家変成帯の高温変成作用を説明するため，地殻中部への厚いシート状花崗岩体の貫入モデル（奥平モデル）が提案されていた．しかし，奥平モデルは，領家帯柳井地域カリ長石-菫青石帯から最近だされた岩石学的データの示す温度圧力条件より低温の結果を示す．奥平モデルの地殻底部における境界条件などを替え，結果がより高温になるようなパラメタを設定し，モデルが再計算された．それでも，地殻浅部における実際の岩石データと整合的な結果は得られなかった．奥平モデルの熱的影響は貫入花崗岩体の直近でのみ有為であり，領家変成作用を説明するためには，地殻全体における高い地温勾配を形成するプロセスが必要である．

5．Thermal evolution of the Ryoke metamorphic belt, southwestern Japan : Tectonic and numerical modeling : Reply

Author : Takamoto Okudaira

Yasutaka, Wallis and Ikeda（2002）によるOkudaira（1996）に対する複数のコメントについて，具体的な反証を示しながら議論した．彼らが指摘するように，Okudaira（1996）の熱モデルには一部修正されるべき箇所が認められるものの，結論においては妥当であることが示された．なお，モデルにおいて修正が必要な箇所については，Okudaira et al.（2001 ; The Island Arc 10, 98–115）において改訂済みである．

☆関東支部

報告

雲仙ボーリングコア観察会

関東支部では去る2月7日に，茨城県つくば市の産業技術総合研究所において，星住英夫氏・宇都浩三氏（産業技術総合研究所）を講師に招き，雲仙ボーリングコア観察会を開催しました．本観察会は，産業技術総合研究所共催のもと，当所が実施した雲仙火山ボーリングのコアを利用して火山岩類の観察方法を修得しようというものです．観察会には27名の参加があり，うち地質調査業関係者21名，官公庁・学校関係3名，学生1名，その他2名と，地質調査業関係者が参加者の大半を占めました．実務に直接関係することとあって参加者全員の熱心な姿が印象的でした．

本観察会は講義と観察の2部構成で実施されました．このうち講義は当日午前中に地質標本館映像室にて行われ，最初に星住氏より火山岩類の特徴と成因，観察方法について説明がありました．露頭の写真を多用した分かりやすい解説をしていただきました．続いて宇都氏からは雲仙科学掘削計画について，その沿革と重要性について講義をしていただきました．世界に例のない火道掘削計画によって雲仙火山の形成過程解明と今後の防災に多大な貢献をすることが期待されます．

午後は野外倉庫前において実際にコアの観察を行いました．参加者全員による手際のよいコアの展開によりスムーズに観察会をすすめることができました．星住氏には，コアを前に成因に基づく岩相区分について改めて説明をしていただきました．参加者も午前の講義に増してより真剣な様子でした．特に強風化したクリンカー部と火砕流堆積物，泥流堆積物の見分け方など，経験のある方々でも悩む問題について，星住氏から見分ける手掛かりを丁寧に教えていただきました．参加者からも熱のこもった質問が多数挙げられました．それらの質問にもひとつひとつ講師の星住氏に答えていただきました．また実際に星住氏らが使用している記載シートも見せていただき，参加者全員貴重な体験になったことと思います．最後のコアの収納も参加者全員の協力のもとスムーズに進み，ほぼ予定の時刻に観察会を終了することができました．

関東支部では，技術士継続教育を考慮し，今後ともこのような実務に関連するセミナー形式のイベントを多数開催していく予定です．皆様の積極的な参加をお待ちしております．

（中澤　努）

☆近畿・四国・西日本

ご案内

近畿支部・四国支部・西日本支部
合同大会のご案内

日本地質学会，近畿，四国および西日本支部では，昨年，日本地質学会の支部再編が行われたことをうけて，これら3支部の活動の発揚を示すとともに，各支部間の情報交換・連携など日本の地質学発展に先進的な役割をはたすことを目的として，下記の日程で合同大会を開催することに致しました．多数の方の御参加を御待ちいたします．

1.　例会開催案内

日時：2002年6月29日（土）

特別講演　西村祐二郎先生（山口大学；前西日本支部長）

9：00～　一般講演

18：30～　懇親会

会場：岡山大学

懇親会：未定（会費約5,000～6,000円を予定）

2.　講演・懇親会申込先（締切：5月31日（金））

〒812–8581　福岡市東区箱崎6–10–1

九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門内

日本地質学会西日本支部　坂井　卓　宛

電話　092–642–2293　Fax　092–642–2686

E-mail : taku@geo.kyushu-u.ac.jp

地質学会シンポジウム講演記録

「明日を拓く地質学—現場に応える地質学へ—」

2001年12月20日　発行

編集者　井内美郎・岩松　暉・大矢　暁・徳岡隆夫・湯佐泰久

発行　日本地質学会　　A5版　204p　会員頒価￥2,000　送料￥310

上記出版物をご希望の方は，学会事務局（電話　03–5823–1150）または，井内美郎（電話　089–927–9674/yinouchi@sci.ehime-u.ac.jp）までお問い合わせください．

院生コーナー

今回は，昨年度院生コーナーに掲載された内容の目録を掲載します．昨年度は研究室紹介が多かったようです．研究室紹介は，今後進学にあたって参考にされる院生も多いのではないかと思いますし，地球科学の多岐にわたる研究分野の紹介にも有益なのではないかと考えられるので，今後も重視していきたいと思います．もちろん，巡検報告・学会参加報告・留学体験記・論文紹介などもどんどん掲載していく予定ですので，皆さん投稿よろしくお願いいたします．

2001年

5月（Vol. 4, No. 5）：平林シュードタキライト　トレンチ掘削調査報告（豊田宗則：東北大）

6月（Vol. 4, No. 6）：第13回International Conference on Deformation Mechanisms, Rheology and Tectonics参加報告（Kyu-Hwan CHO：早稲田大学理工学研究科地球・環境資源理工学専門地質学部門）

7月（Vol. 4, No. 7）：ドイツ留学記（斎藤　良：Universitat Wurzburg）

8月（Vol. 4, No. 8）：国際学会の紹介と参加の勧め（守屋和佳：東大・理学系・地球惑星科学，小松原純子：東大・新領域・複雑理工学）

9月（Vol. 4, No. 9）：North American Paleontological Convention 2001参加報告（和仁良二：早稲田大学大学院D3）

10月（Vol. 4, No. 10）：研究室紹介No. 13：島根大学総合理工学部地球資源環境学教室地球物質システム学講座変成岩ゼミ（柏原由芙子：島根大学）

11月（Vol. 4, No. 11）：第6回国際エクロジャイト会議に参加して（岡本　敦：東京大学理学部）

12月（Vol. 4, No. 12）：研究室紹介No. 14：東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻高橋研究室（久保啓子：東京工業大学）

2002年

1月（Vol. 5, No. 1）：研究室紹介No. 15：早稲田大学　大学院理工学研究科環境資源及材料理工学専攻地質学部門　早稲田大学教育学部理学科地球科学専修古環境科学研究室（舟木泰智：早稲田大学）

2月（Vol. 5, No. 2）：研究室紹介No. 16：九州大学大学院比較社会文化学府　国際社会文化専攻地球自然環境講座（上栗伸一：九州大学）

3月（Vol. 5, No. 3）：研究室紹介No. 17：大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻地球進化学講座砂村グループ（関口智寛：大阪大学）

4月（Vol. 5, No. 4）：研究室紹介No. 18：京都大学理学研究科地球惑星科学専攻　地質学鉱物学教室地球テクトニクス講座岩石変形研究室（溝口一生：京都大学）

新編集委員紹介

今月より，これまで院生コーナーを担当してくれた守屋さんが退任され，新たに東京大学の戸丸君が院生コーナーの編集になってくれることになりました．以下は，守屋さんの退任挨拶および戸丸君の就任挨拶です（成瀬　元）．

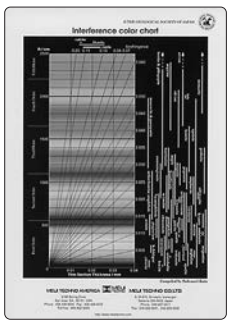
守屋は2001年度をもちまして，院生ページの編集担当を退くこととなりました．2年間という短い間でしたが，多くの方々に研究室紹介や海外巡検，学会参加報告などを執筆していただきました．この場を借りて御礼申し上げます．この間，多くの若手研究者の方々と知り合い様々な議論をさせていただくことができました．今後とも院生コーナーがみなさんにとって有益な情報源となり，議論の場となっていくことを願っています（守屋和佳）．

今年度から院生コーナーの編集に参加することになった東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻博士課程2年の戸丸仁と申します．皆さん，よろしくお願いします．専門分野は無機地球化学で，海洋ガスハイドレートの生成メカニズムについて研究しています．室内での合成実験から掘削調査，潜水調査まで幅広く手がけていますが，フィールドだけでなく同年代の研究者のネットワークも広げたいと思っています．自分からもいろいろな情報を発信していきたいと考えていますが，皆さんからの情報を楽しみにしています．突然，原稿のお願いメールが届くかもしれませんが，ぜひこの場を使って，知識や興味の共有を楽しみましょう．よろしくお願いします．（戸丸　仁）

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の2人でおこなっています．e-mailでいただければ幸いです．

naruse@bs.kueps.kyoto-u.ac.jp　　成瀬　元（京大）
tomaru@gbs.eps.s.u-tokyo.ac.jp　　戸丸　仁（東大）

「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）が下敷き（プラスティック製/A4版/両面カラー）になりました．



岩石学を学習する学生さんをはじめ，偏光顕微鏡を使用する全ての研究者の方々に有効に活用していただけることと思います．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．
会員価格 200円　非会員価格 300円

NOW ON SALE!!

執行委員会だより

2002年度第9回執行委員会

期　日：2002年3月23日（土）10：00～12：00
場　所：北とぴあ901会議室
出席者：小松会長，徳岡副会長，周藤評議員会議長
立石執行委員長，公文・天野・伊藤・渡部・高橋・会田各執行委員，水野（事務局）　永広副執行委員長は支部長連絡会議・災害委員会に出席

主な報告・審議事項は以下の通り．

1）会員数変動，会費納入率の推移の資料を作成した．評議員会でもあらためて会員数の動向を説明し，会員増の努力を呼びかけることとした．
2）大涌谷自然科学館存続に関する要望書，修正案を作成した．
3）第3種・第4種郵便物廃止に関する要望書（案）を検討し，評議員会に諮ることとした．
4）第3回定例評議員会の議事進行について検討した．
5）定例評議員会における学会法人化に関する討論の進め方について意見交換を行った．あわせて，調査検討委員会の今後の進め方についても意見交換を行った．

2002年度第10回執行委員会

期　日：2002年4月22日（月）13：00～18：00
場　所：地質学会事務局
出席者：徳岡副会長，立石執行委員長，永広副執行委員長，公文・天野・伊藤・渡部・久保・会田各執行委員
水野（事務局）

主な報告・審議事項は以下の通り．

1）日本技術者教育認定機構第3回定時総会が5月15日（水）13：30–16：00，港区芝建築会館ホールで開催される．福沢仁之JABEE委員が代理出席予定．
2）3月末現在の決算報告を了承した．
3）地質学会HPの更新について，早急に対処する必要を確認した．
4）4月1日付けで新規採用の斎藤昭子（総務担当）は勤務中．
5）第109年総会・年会（9月14～16日，新潟）について：3月29日付けで新潟県より，日本地質学会第109回年会新潟大会に対して補助対象コンベンションの指定通知があった．
ニュース誌5月号に掲載する年会開催案内と講演申し込み，並びに参加申し込みなどを検討した．
講演申し込みと要旨原稿の送付は本部事務局扱い，その他の申し込みはすべてJTB扱いとすることを了承．年会参加，講演要旨申し込みのみの手続きは手数料200円，そのほか，宿泊，交通，見学会，懇親会などを含めた申込手数料は500円とすることを了承．講演については今回ポスター講演について優秀講演賞を選定することを了承．具体的な進め方については行事委員会の検討を待つこととした．
6）地球惑星合同学会初日の5月27日（9：30～17：00）には日本学術会議講堂にて地質研連，地質総合研連，資源開発工学研連，エネルギー・資源工学研連，地球・資源システム工学専門委，鉱物研連共催の合同シンポ「地球・資源および関連分野における技術者養成と大学教育」が開催される．案内はニュース誌5月号に掲載する．
7）韓国地質学会より4月5日付けで小松会長宛に，創立55周年にあたり，10月23日～25日に東アジアの地質学会の代表者を招待しての特別セッションを設けて交流したい，是非招待したいとの予備的招待状が寄せられた．会長は9月総会で交代することとなっているが，現会長・副会長で対応することが適当と判断した．
8）4月15日付けで日本学術振興会より平成14年度科研費補助金（研究成果公開促進費，定期刊行物）として，The Island Arcに対して5,200,000円（単年度）の交付内定通知があった．5月14日締め切りであらためて交付申請書を提出することとなっている．
9）名誉会員の推薦依頼中．5月20日（次回執行委員会の日）に委員会を開催し，検討する．50年会員については総務委員会で事務的に扱う．
10）地学教育委員会委員長未定，教師層からの評議員に連絡し，早急に委員長を互選し，その上で，大学教員や博物館関係者も含めた委員構成を検討していただくこととした．
11）4月22日午前開催された法人化調査検討委員会の報告を受け，意見交換を行った．法人化準備中の地理学会に関する情報を始め，社団法人化している学会の運営方法に関する資料が整理されて報告された．また，その中で，6月評議員会に向け，運営に際する基本的立場と骨子案を中心とした答申と提案をまとめていくという委員会の報告を了承した．
12）日本学術会議第19期会員候補者推薦の手続き等について，日程を再確認した．「関連研究連絡委員会」の順位として，前回と同じように，地質研連1位，総合研連2位，鉱物研連3位とすることとした．
13）2002年度第4回定例評議員会の議題について予備的審議を行った．
14）第三種・第四種郵便物の存続を求める要望書について，ドラフトを修正の上，総務庁ならびに関連学会に至急送付することとした．

事務局職員紹介

日本地質学会事務局は，この春から新メンバーを迎え，現在事務局長以下，4名で業務に当たっています．この場をお借りし職員を紹介します．

昨年4月より地質学雑誌・ニュース誌の編集業務を担当しています，細川寿子（ほそかわとしこ）です．ご挨拶が遅れましたが，信州大学卒業後，上京し早一年が経過しました．学生時代は，群馬県の山奥で新第三紀の火山性陥没盆地の研究をしていました．未熟な部分が多く会員の方々にはご迷惑をおかけしますが，これからもより円滑に雑誌が発行できるよう努力していきます．会員の皆様からのご投稿をお待ちしています．よろしくお願いいたします．（細川寿子）

はじめまして．4月から日本地質学会事務局で勤務しています，斎藤昭子（さいとうしょうこ）と申します．担当は総務です．茨城大学出身．同大学大学院では，吾妻火山群（福島県・山形県の県境）を調査地域とし，修士論文に取り組みました．野外調査よりも，分析中心の室内作業がほとんどでしたので，今更ながら，野外調査が恋しいです．まだまだ『ひよっこ』で，至らないことばかりですが，一つ一つ仕事を覚えて頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします．（斉藤昭子）

2001年度に日本地質学会に拠金された会員の方々

多数の会員の方々から本会に対して2001年度（2001年1月1日～同12月31日）に合計617,204円の拠金をいただきました．その都度評議員会に報告され，評議員会議事抄録に記録されていますが，ここにあらためてご芳名をまとめて掲載し．ご厚志に対してあつく御礼申し上げます．使途について特にご指定のないものについては，基金に繰り入れ，ご指定のあるものについては，所定の費目に繰り入れ，本会の活性化のための重要な基礎といたします．以下敬称を略させていただきます．

基金として：日高　稔，斉藤林次，古川和代，山田直利
普及出版引当準備金として：「地質基準」委員会（足立勝治，天野一男，岩松　暉，上砂正一，宇田進一，坂　幸恭，酒井　彰，酒井隆太郎，滝田良基，水野篤行，新妻信明，籾倉克幹，山元孝広）
「国際層序ガイド」訳編者グループ（天野一男，新井房夫，平野弘道，保柳康一，兼岡一郎，木村克己，熊井久雄，水野篤行，新妻信明，楡井　久，能條　歩，小笠原憲四郎，清水惠助，高山俊昭，柳沢幸夫，八尾　昭）
研究奨励引当準備金として：竹内圭史
下敷作成協賛金：(株)明治テクノ

日本地質学会会長　小松正幸

2002年の会費払込について

2002年1月～12月の会費額は下記のとおりです．未納の方にはとくそく請求書を送付いたしますが，早急にご送金をお願いいたします．

正 会 員	12,000円	（アイランドアーク購読料	8,000円）
〃　院生割引	8,000円	（　〃	6,000円）
学生会員	5,000円	（　〃	6,000円）

1.　金融機関自動引き落しのお申し込みをいただいた方へ

5月20日頃までにお申し込みいただき，2002年およびそれ以前の会費が未入金の方を対象に，6月24日に引き落としの予定です．請求書ならびに引き落し通知の発行は省略させていただきますのでご了承ください．通帳には金額と共に「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」，「MFS」などと表示されていますのでご確認ください．

2.　自動引き落し新規の申込を受け付けています．登録口座変更の場合も改めて申込書をお送り下さい．

学会としては自動引き落しによる払込みをより多くの会員に積極的に採用していただきたく，ご理解とご協力をお願いいたします．
申込書はニュース誌4月号に掲載されています．申込は随時受け付けています．

（日本地質学会会計委員会）

訃　報

本会の次の方々がご逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

正会員
小泉　斉（4月5日）
松田哲夫（4月23日）
渡辺暉夫（5月9日）

2002年度第4回定例評議員会のお知らせ

標記評議員会を下記のように，6月22日（土）に開催いたします．傍聴希望の方は6月10日（水）13：00までに執行委員会宛，氏名・連絡先を記入した申請書をご提出ください．

2002年度第4回定例評議員会
日　時：2002年6月22日（土）13：00～
場　所：北とぴあ　901会議室（東京都北区王子）

学 会 記 事

2002年度第3回定例評議員会議事抄録

2002年5月13日
日本地質学会　評議員会議長
周藤賢治

日時：2002年3月23日(土)　13：00～18：00
場所：北とぴあ　901会議室
出席者：小松正幸会長　平　朝彦・徳岡隆夫副会長　周藤賢治評議員会議長
（01−02評議員）足立勝治　赤羽久忠　荒戸裕之　磯崎行雄　【板谷徹丸】　伊藤谷生　井内美郎　菊地隆男　木村　学　【久保和也】　公文富士夫　斉藤尚人　佐々木和彦　佐瀬和義　【柴崎直明】【田崎和江】　高須　晃　高橋正樹　高安克己　徳橋秀一　鳥海光弘　新妻信明　廣野哲朗　別所孝範　渡辺暉夫
（02−03評議員）会田信行　【秋葉文雄】【赤羽貞幸】　阿部国広　天野一男　上砂正一　永広昌之　小松宏昭　榊原正幸　【柴　正博】　滝田良基　竹内　章　立石雅昭　【楡井　久】　鴬本　格　【松本俊幸】　三宅康幸　矢野孝雄　吉川周作　渡部芳夫　（【】は委任状提出者）
（オブザーバー）加藤碩一関東支部長　（事務局）水野篤行

冒頭に，周藤評議員会議長より加藤関東支部長のオブザーバー出席の紹介と配布資料の確認，議事次第の説明があった後，一評議員より前回定例評議員会の議事抄録案に対する修正要望の一部が取り入れられずその連絡がなかったことに対する説明が求められた．これに対して立石執行委員長より，議事抄録は個々の発言の記述ではなく議論のあった事項についての記録であるとの説明があった．

報告事項

Ⅰ　執行委員会報告

1．　運営財政部会

公文部会長・天野副部会長・高橋広報委員長よりそれぞれの関係事項について次の報告があった．

1）総務委員会

庶務関係

(1)　次の共催・協賛・後援等を承諾した．

(i)　第18回ヒマラヤーカラコルムーチベット　ワークショップに対する後援（組織委員長：在田一則．2003年月下旬あるいは4月上旬，日本，場所未定）．（1月21日付け）

(ii)　国際シンポジウム「先カンブリア地塊の融合とアジアの古生代造山作用の役割」（組織委員会委員長：渡辺暉夫；主催－北海道大学，共催－IGCP440,420,411；9.5−9.7，北海道大学大学院理学研究科）の後援．（3月13日付け）

(iii)　日本応用地質学会「地形からわかる地質情報（基礎編）」講習会の協賛（6.7，中央大学駿河台記念館）．（3月1日付け）

(2)　次の転載等を許可した．

(i)　足立勝治会員に対して，地質学雑誌81巻9号，p.552，Fig.4（陶野郁雄著）を地盤地質学（今井五郎監修，コロナ社刊）に転載．（01年12月2日付け）

(ii)　古今書院に対して，地質学雑誌46巻545号末尾の故今井半次郎博士の肖像写真を岡田博有著「堆積学」に転載．（1月23日付け）

(3)　2月8日に日本学術会議第19期学術団体登録に関する説明会があった．第19期会員選挙に関する全日程は次のとおりである．

5.31　登録申請締め切り．11月下旬　関連研連の指定．12月上旬　会員候補者の選定と推薦人の指名の依頼．2003.2.17会員候補者の届け出締め切り．2.20　推薦人の届け出締め切り．5月上旬－6月上旬　推薦人会議．6月下旬　学術会議経由で内閣総理大臣へ推薦．7.22　会員の任命．

(4)　地質研連斎藤常正委員長より1月31日付けで，平成15年度科研費補助金，細目「地質学」の第1段審査委員候補者として6名を4月4日までに地質研連に推薦して欲しい旨の依頼があった．

(5)　鉱物研連山中委員長より2月28日付けで，平成15年度科研費補助金，細目「岩石・鉱物・鉱床学」（岩石分野）の審査委員候補者として2名の推薦依頼があった．

(6)　古生物研連野田委員長より3月5日付けで平成15年度科研費補助金，細目「層位・古生物学」の審査委員候補者として2名の推薦依頼があった．

(7)　技術者継続教育に関する（社）日本工学会のCPDシステム委員会が2月20日に開催され，公文委員長が出席した．

(8)　3月13日に第10回JABEE事務局長連絡会が行われ，水野事務局長が出席した．主な議事は，平成13年度・事業，平成14年度事業計画の全体報告，昨年12月以降の諸委員会の議事内容の説明であった．

(9)　（株）ウイズウイグより3月4日付けで，科学技術振興事業団の委託による科学技術文献速報のための抄録作成・索引付与の作業者の公募記事の広報依頼があり，検討の上，ニュース誌への掲載を了承することとした．なお，この種の依頼については今後その都度審議することとした．

(10)　国立情報学研究所より電子図書館サービスに関する平成14年度の著作権使用料変更の有無の照会があり，あわせて各学協会ごとの登録誌の利用状況表が送付された．会員・非会員ともに利用状況が高くないので，総務委員会として，地質学雑誌・論集などのバックナンバーに関する電子図書館の利用に関する広報をニュース誌に掲載，また著作権使用料についてあらためて再検討することとした．

(11)　学会に保管されている寄贈図書，雑誌類，地質学雑誌バックナンバーなどを，事務局のスペースとの関係で，今後の活用をどのようにしていくかについて総務委員会で検討中．執行委員会で検討の結果，地質学雑誌バックナンバーを順次整理，寄贈図書類についてはすでに預けた先への継続的な登録依頼を含めた具体的方策の検討をさらに総務委員会で検討することとした．

(12)　自然史学会連合：森田委員より2002年度第1回自然史学会連合運営委員会（2002年3月2日，国立科学博物館分館）に関する報告が文書により寄せられた（当日配布）．

会員関係

(1)　次の入会を承認した．

入会承認　正会員23（院生割引5）　学生会員2

（正）張　泰雨，渡部　翼，田村一利，土屋靖司，今野正雄，松永　豪，古田靖志，平田晴昭，吹田歩（以上1.21），遠藤満久，古山　清，河潟俊吾，舟橋嘉浩，井上厚行，真先　修（以上2.18），竹下欣宏，藤井徹也，南部暁生（以上3.15）

（内，院割）竹村貴人，長田幸久，山本慎一（以上1.21），大賀博道，西脇仁（以上3.･15）

（学）市原　寛（1.21），藤井正博（2.18）

(2)　次の退会を承認した．

賛助会員（2）：三井エンジニアリング（株）（1.21），兵庫県立人と自然の博物館（3.15）

正会員（112）：

（正）足立　清，新井重三，安藤久男，石井要行，石橋　毅，板垣　道，伊藤田直史，稲田智範，井上　真，上田義浩，宇野沢　昭，大倉恒太，大澤　穣，大島　良，大竹亮作，大野源広，大場忠道，岡田忠晴，岡田美和，岡村義彦，奥山凡夫，尾崎　淳，小沢昭三，河合功一，川井奈緒美，川島悟一，

喜多佐由理，久保重明，久保紀重，黒木慎一郎，黒田　直，香村官永，小坂佳，小島国靖，小関和輝，小林治郎，小堀蒼洋，後藤祐孝，斉藤道典，斎藤豊，酒井敏行，坂上麻子，櫻井香緒里，　　迫田昌敏，佐藤　亮，篠塚未暁，清水秋秀，清水宏典，実方祥剛，杉本良也，杉山　明，瀬戸弘之，太井子宏和，田崎義行，竜野伸武，田中亮吏，谷口彰敏，種村光郎，田野久貴，大悟法弘充，千葉　恵美，中居功，中島敬史，中山由紀，永井誠二，永峰良則，永吉雄大，楡井良政，沼野達明，野　　村錬一，蓮見法人，長谷川　巧，菱田　量，平山利晶，福間　進，藤本雄一，古田邦子，槇　明，政岡邦夫，増田優記，松本直弥，三浦義征，三枝利光，宮島圭司，山中基由，山村　健，弘原海清，池田恵介，奥田律子，落合　厚，金子真弓，滝本博司，古田　梢，松本昌俊，笠間亜樹，徳永陽子（以上1.21），白石健太郎，山崎良雄，藤井　稔，杉本卓司，黒澤　聡，太田陽子，古水次郎，伊藤徳二郎，浅田明日香，大河原正文（以上2.18），多田元彦，高梨文治，森下律生，山田昌史，岩田博武，石井辰弥（以上3.15）

(3) 次の会員が逝去された．

（名1）牛来正夫（2002.2.4）

（正2）溝口瑞雄（1998年），三好真一郎（2001.11.8）

(4) 2001年度末の除籍者（111名）が確定した．

(5) 会員の動静（2月末現在）

	賛助	名誉	正会員（内院生）*		学生	合計
2001.10.31	47	71	5072	（267）	42	5232
2002. 2.28	44	70	4875	（133）	27	5016
増・減	－3	－1	－197	（－134）	－15	－216

*正会員の内数

天野副部会長より1997年以降の会員数の変動について説明があり，会員が1999年をピークとしてそれ以降下降しており，その内容をさらに調べたいと述べられた．

会計関係

(1) 決算報告（2月末現在）　順調に推移している．

(2) 2001年度決算案と2002年度予算案について（議題へ）

会計監査は3月20日に予定されており，その結果は第9回執行委員会（3.23午前）と第3回定例評議員会にに報告する．

(3) 平成13年度科研費補助金（研究成果公開促進費，公開発表　）に関して，文部科学省より確定通知（確定額：1,062,000円）と返還通知（338,000円）があり，返還額を1月17日に納付した．

(4) 2001年度（2001.1.1～2001.12.31）における本学会への会員からの寄金について（敬称略）

寄金へ：日高　稔，斎藤林次，古川和代，山田直利

普及出版引当準備金へ：「地質基準」委員会（足立勝治，天野一男，岩松　暉，上砂正一，宇田進一，坂　幸恭，酒井彰，酒井隆太郎，滝田良基，水野篤行，新妻信明，籾倉克幹，山元孝広）「国際層序ガイド」訳編者グループ（天野一男，新井房夫，平野弘道，保柳康一，兼岡一郎，木村克己，熊井久雄，水野篤行，新妻信明，楡井　久，能條　歩，小笠原憲四郎，清水恵助，高山俊昭，柳沢幸夫，八尾　昭）

研究奨励金引当準備金へ：竹内圭史

下敷作成協賛金：明治テクノ

(5) ブラックウェル社に対して3月5日付けで，2002年度のオンライン出版費470万円（500万円マイナス編集経費30万円）及び印刷誌購読費163万円（正会員203名分と学生会員1名分），合計633万円を送金した．

(6) 鳥居昭三会員より3月14日に表彰関係に対する10万円の寄付があった．

(7) 3月11日付けで，地質基準委員会（144,384円）と国際層序ガイド訳編者グループ（51,848円）より普及出版引当金に対する寄付があった．

(8) 4月1日のペイオフ解禁への具体的な対応策を検討，細部については事務局でさらに詰めることとした．

2) 広報委員会

(1) ニュース誌編集小委員会

ニュース誌5巻2号までを刊行した．

(2) インターネット運営小委員会

1) 日本科学技術振興財団主催の第43回科学技術映像祭のホームページへのリンク依頼があり，12月27日付けで承諾した．

2) 徳橋委員からの委員辞任の申し出を受理し，新たに信州大学の吉田孝紀会員に委員を委嘱することとした．

3) 体制を強化し，ホームページ内容の時宜にかなった更新を進めるよう努力することとした．

井内四国支部長より，ホームページを四国支部ホームページにリンクして欲しいとの要望が述べられた．

2 学術研究部会

伊藤部会長より全体報告があり，立石執行委員長より新潟大会に関する補足説明があった．

1) 行事委員会

(1) 第109年総会・年会（新潟大会；9月13日―プレシンポジウム，9月14–16日―総会と年会，特別講演会・総会は14日午前））

準備委員会で準備を進めている．詳細についてはニュース誌5月号に掲載する．

新潟県の助成【1/3（総額－参加費収入）を上限として700万円を限度とする】に対する申請を行った．それとの関わりで，参加費と要旨集代金をセットにして3,500円（事前申込）を予定している．

(2) 第110年以降の総会・年会

第110年総会・年会の開催地案（中部支部静岡地域）について，あらためて3月評議員会に諮ることとした．（議題へ）

(3) 地球惑星関連学会連絡会（地球惑星合同大会）

地質学会として正式に参加することとなっているが，開催方法やセッションの持ち方などについてまだ，全体のものとなっていない点がある．行事委員会・執行委員会での討議と全体への広報をもっと行う必要がある．

2) 専門部会連絡委員会　未開催

3) 国際交流委員会

脇田委員長より，世界の地質学会の情報を収集中（これまでに約40の学会を収集）で，データを整理して地質学会のホームページで公開し，さらに追加の情報を学会員に求める予定である，との報告があった．

4) 研究委員会

ヒマラヤ地質研究委員会

在田委員長より次の報告があった．

本委員会が中心となって2001年8月25日–27日に八王子市大学セミナーハウスで開催した「ヒマラヤ・チベットの上昇とアジアモンスーンの変動：夏の学校2001」のプロシーディングスが月刊「地球」特集号（2002年4月号・5月号）で出版される予定である．

「地質学と地震」研究委員会

嶋本委員長より次の報告があった．2002年度春の地球惑星科学合同大会で，セッションG061「断層帯のレオロジー・流体循環と地震の発生過程」（短縮名：断層レオロジーと地震発生）を共催する（コンビーナー：藤本光一郎，増田幸治，芝崎一郎，嶋本利彦）．セッションでは，断層と断層岩，断層のレオロジー，流体循環と変成・変質作用，断層帯の物性などの研究者と地震学（とりわけ地震の発生過程）の研究者が集まって，断層内での物理的化学的プロセスと地震発生過程について学際的に議論を深める．今後，このようなセッションを定例化していきたい．

地質環境の長期安定性に関する研究委員会

渡辺委員長より次の報告があった．

5月下旬の地球惑星合同大会で，本研究委員会の活動を委員長名で報告する．また，合同大会で夜間小集会を開き，各種報告（林報告）と火山グループの報告（高橋）を受ける．さらに，研究委員会の課題を鮮明なものにする討議を行う予定．2月15日の原子力委員会のワークショップには渡辺が出席した．

3 編集出版部会

渡部部会長より次の報告があった．

1) 地質学雑誌編集委員会

地質学雑誌108巻2号まで刊行した．

2) 企画出版委員会

(1) 本委員会の構成を天野一男（総務），阿部国広（学校教育），柴　正博（生涯教育）の3委員とすることすることを執行委員会として了承した．

(2) 加藤関東支部長から提起のあった朝倉書店の「地方地質誌」の改定について検討し，学会として取り組むこととし，編集準備委員会を各支部からの委員を含めて構成することとした（北海道―新井田，東北―佐藤（時），関東―遠藤，中部―新妻，関西-吉川，西日本―佐野，近畿―未定）．当面，共立出版の同種出版物との関係，編集要綱などを検討する．この準備委員会（第1回委員会：地球惑星合同大会時に予定）や設立予定の刊行委員会は企画出版委員会のもとに置かれる予定．

3） The Island Arc連絡調整委員会

2002年2月22日にブラックウェル社から双方の署名済みの今後3年間に関する「The Island Arc出版契約書」（英文；2001年12月5日付け）が送付された．オンライン購読のための会員リストを作成し，ブラックウェル社に送付した．

2001年度アイランドアーク編集事務局経費に関する資料を了承．3月末に次号が発行されるが，この号からオンライン閲覧可能のこととなっている．閲覧方法などの周知を計ることとした．掲載論文の日本語要旨をニュース誌，HPに掲載するが，会員閲覧のために必要なオファー番号が未通知で，その決定次第あらためてHPに掲載するとともに，ニュース誌に掲載することとした．

2002年度以降についてのブラックウェル社との新契約の状況下での今後の経費の扱い方について検討した．編集事務局長について，徳橋事務局長は竹内圭史事務局長に交代，渡部事務局長は留任，を了承した．

次の本連絡調整委員会の委員構成を執行委員会として了承した．

会田信行（委員長），小川勇二郎（編集委員長），巽　好幸（同），渡部芳夫（編集事務局長），竹内圭史（同），向山　栄，荒戸裕之．

4　普及教育事業部会

1） 学校教育委員会

阿部委員長より，第3回委員会を3月23日午前に行い，詳細については後日報告すると述べられた．

学校科目「地学」関連学会連絡協議会報告

佐瀬協議会委員より次の報告があった．

第29回協議会が3月14日に都立向丘高校で行われ，各学会の地学教育への取り組みに関する情報交換に引き続き，今後の協議会の方向性について討議した．そのなかで，指導要領の次回改訂が早まるとされる状況のもとで，協議会の活動を強めていくことが確認された．そのため各学会で学校科目「地学」に盛り込むべきカリキュラムの検討を進めること，2年後ぐらいを目標に協議会が「地学」をアピールするような「声明」を外に向かって出すように検討を進めること，多くの学会が協議会に参加できるように取り組むことが確認された．次回は6月18日（火）の予定．

2） 生涯教育委員会

赤羽委員より，柴委員長の代理として次の報告があった．

生涯教育委員会と学校教育委員会では，2002年2月9日と10日に，各委員会の会議とともに合同で下記のシンポジウムを開催した．参加者は21名．両委員会の活動の目的や内容とともに，相互交流と地学教育の発展のために努力していくことを確認し，新潟の地質学会の総会・大会に学校教育委員会と合同で夜間小集会を開くことが決定した（ニュース誌3月号に詳細内容掲載）．

生涯教育委員会の構成（10名）：委員長　柴　正博（東海大学自然史博物館），赤羽久忠（富山市科学文化センター），小幡喜一（埼玉県立自然史博物館），塚腰実（大阪市立自然史博物館），先山　徹（兵庫県立人と自然の博物館），里口保文（滋賀県立琵琶湖博物館），田口公則（神奈川県立生命の星・地球博物館），松岡敬二（豊橋市自然史博物館），村松　武（飯田市美術博物館），森田利仁（千葉県立中央博物館）．

地質学会ニュースの博物館紹介については，これまで通り継続させて，同時に今後の展開について検討する．できれば，これまで掲載されたものをまとめて，本として出版する方向を検討する．

箱根町立大湧谷自然科学館が閉館の可能性があり，箱根町に対して日本地質学会による存続についての要望書の提出を提案する．また，箱根町立大湧谷自然科学館を支援するために，箱根火山に関するシンポジウムや見学会などを企画し秋に実行することを検討する．

なお，立石執行委員長より上記要請に対して第8回執行委員会において，会長名による「箱根町立大湧谷自然科学館の存続についての要望書」を箱根町長宛に提出することを決定した旨報告があり，評議員会としてこれを了承した．

3） 地質基準委員会

新妻委員長より次の報告があった．

(1)1月8日に第18回地質基準委員会を開催し，今後の活動を検討した．講習会の開催，産総研「JIS原案作成委員会」への協力，地域地質記載の電算化（記載体制の確立）に必要な基準の作成，「地質用語集」の作成などが話題となった．その他委員構成を検討した．(2)3月11日に支払われた「地質基準」の印税144,384円を学会に寄付した．(3)3月18日に第19回委員会を行い，地質学用語集の作成・出版に関する作業を委員会として開始することとした．

4） 地層名委員会

天野委員長より，(1)「国際層序ガイド」の2回目の印税が共立出版より支払われ，その半額51、848円を3月11日づけで，学会に寄付した．(2)「層序用語についての各国語の表記一覧表作成」の依頼がISSCよりあり，作業中である,との報告があった．

5） その他

5.1　その他―1（執行委員会報告）

・4月以降の事務局の体制について

立石執行委員長より下記を執行委員会として了承した旨方向があり，これを了承した．

1） 9月総会で現水野事務局長退任，以降，橋辺事務局長とする．

2） 4月の斎藤事務局職員の新採用の機会に橋辺事務局職員を事務主任（4級から5級へ昇格）へ昇格させる．

3） それぞれの職務の整理を行い，執行委員会・評議員会の準備や議事録作成, 事務局長の対外的な仕事を含めて，執行委員・評議員等の役割分担も検討する．

5.2　その他―2（執行委員会関係の委員会等の報告）

1） 支部長連絡会議

永広連絡会議議長より次の報告があった．

(1) 昨年末の支部長連絡会議で，支部主催例会の予稿集あるいは報告書の主催者として，日本地質学会を共催団体として入れさせて欲しいとの要望が出された．執行委員会で検討し，事前にプログラムなどを執行委員会宛に送付してもらい，検討した上で，了承する方向を確認した．

(2) 3月23日午前，北とぴあにおいて地質災害委員会との合同会議を行い，各支部活動の報告，「地方地質誌」の準備状況報告，地質災害委員会の活動等についての討議を行った．

各支部の活動は一部を除いて順調に進行している．今後の地質学会の大会は基本的には支部が責任を持つこととなっており，関連して支部が開催地を決めて行事委員会に持ち込むという意見が出された．

地質災害委員会関係については次項参照．

2） 地質災害委員会

永広委員長より上記合同会議において, 今後の活動について自由討論を行い，当面情報収集を中心とし，連絡体制を確立する，またホームページを利用することとした，との報告があった．

なお，地質災害委員会の構成が次のように決まった．以下，次の順序；支部（支部長＋専門委員）．北海道（岡田尚武＋田近　淳），東北（矢内桂三＋越谷信），関東（加藤碩一＋中山俊雄），中部（新妻信明＋未定），近畿（熊井久雄＋三田村宗樹），西日本（長谷義隆＋金折裕

司)，四国（井内美郎＋榊原正幸）

3） JABEE委員会

三宅委員長より2001年12月以降のJABEEをめぐる動向と今後の予定について報告があった．

(1) 3プログラムについて試行審査があった．

・島根大学総合理工学部地球資源環境学科（2001.12.2–4）

・秋田大学工学資源学部地球資源学科応用地球科学講座（同．12.9–11）

・同地球システム工学講座（同．12.9–11）

試行審査を通じて多くの問題点が出されたが，それらのなかのいくつかについてはJABEEで改善が図られつつある．

(2) 4月以降いくつかの取り組みが始まっている．JABEE認定が少ないことは地質工学分野が軽視されることにつながるので，ぜひ関心をもってJABEEに取り組んでいただきたい．2002年度試行審査プログラムを募集中である．

・2002年5月18日　工学教育連合講演会（東京都文京区中央大学理工学部）2001年度の試行の結果に基づくJABEE全体の問題点の洗い出し

・2002年5月27日　地質研連ほか4研連共催　地球・資源および関連分野における技術者養成と大学教育シンポジウム（仮題）（日本学術会議講堂）

4） 技術者継続教育委員会

公文委員長よりCPDシステム協議会（2002.2.20）および関連事項の報告があった．

5） オンライン化検討委員会

天野委員長より次の報告があった．

2月8日（金）および3月7日（木）にオンライン化検討委員会を行い，以下の点について検討を行った．

(1) 地質学雑誌，地質学会ニュースの編集および出版のオンライン化．

(2) 事務のオンライン化．

(3) ホームページの充実について．

これらについては，9月までになんらかの形での答申を出す予定で，継続的に審議を続行する．なお，現時点で，早急に実現すべき事柄として以下の点を執行委員会に提案した．

(1) 事務局のIT環境の整備．

(2) 5月の合同学会において，鈴木委員が現在検討中である学会オンライン化システムのデモンストレーションを行うこと．

(3) 会員に対してオンライン化に関するアンケート調査を行うこと．なお，回答は評議員選挙の投票用紙とともに回収する．

Ⅱ　各種委員会報告（評議員会関係）

1　各賞選考委員会

永広委員長より，3月11日締切で推薦依頼を行った，選考過程はガラス張りにしたい，推薦論文は公表し，6月評議員会で報告できるように委員会で議論・準備していくとの報告があった．

2　名誉会員推薦委員会

徳岡委員長より，推薦委員会の構成が決まった，専門部会・評議員・支部長宛に候補者推薦の依頼を行い，昨年の方法に準じて，6月評議員会に提案できるように検討していく，なお，50年会員については執行委員会マターであるので，執行委員会で検討して欲しいとの報告があった．

3　科学研究費委員会

天野委員長より次の報告があった．

平成15年度科研費審査員候補者の候補を評議員会に推薦する．内訳は，細目地質学1段（18名），細目層位古生物1段（6名），細目岩石鉱物1段（9名）である．また，地球科学2段地質学分野への候補者も推薦する（3月14日現在で推薦人数は未定）．【議題へ】

4　学術会議連絡委員会

(1) 地質学研連

公文研連委員より第18期第4回研連委員会（2002.3.5）に関する報告があった．詳細はニュース誌に別途掲載予定．次回は5月5日の予定．

(2) 鉱物学研連

高橋研連委員より第18期第5回研連委員会及び第5回同鉱床学専門委員会合同会議（2002.2.22）に関する報告があった．詳細はニュース誌に別途掲載予定．次回は合同会議として5月10日の予定．

(3) 鉱物学研連鉱床学専門委員会

丸山委員より上記内容の報告があった．【別紙】

(4) 地球化学・宇宙化学研連

田結庄研連委員より第18期第4回研連委員会（2002年2月28日）の報告があった．詳細はニュース誌4月号に別途掲載済．次回は5月16日の予定．

(5) 海洋科学研連

井内研連委員より第18期第5回研連委員会（2002年3月11日）の報告があった．次回は5月21日の予定．

(6) 国際学術協力事業研連

土　研連幹事より，国際学術団体及び国際学術協力事業ー2001年度報告書が本年3月末に刊行される予定との報告があった．

(7) 古生物学研連

八尾研連委員より第18期第5回研連委員会（2002年3月4日）の報告があった．詳細はニュース誌に別途掲載予定．次回は5月14日の予定．

(8) 地質科学総合研連

公文研連幹事より，第18期第回研連委員会（2002年3月6日）の報告があった．詳細はニュース誌に別途掲載．なお，第19期の本研連は環境地質学（仮称）専門委員会と第四紀学専門委員会で構成され，また研連委員の入れ替えを行う（人選は本研連世話担当の岩松学術会議会員-研連委員長に一任；入れ替えは18期中に実施）こととなった．次回からの委員構成と開催日は未定．

(9) IGCP専門委員会

土　専門委員会委員長より次の報告があった．

1.　2001年のIGCP国内委活動報告を昨年11月末にIGCP本部へ提出した．

2.　平成13年IGCP国内委活動報告（英文7頁，和文41頁）をそれぞれ印刷刊行し，関係方面に配布した．

3.　IGCP本部理事会（第30回）が本年2月4日－8日にパリのユネスコ本部で開催され，日本からは島田允堯九大教授が理事会のメンバーとして出席した．

4.　IGCPの国内における活動報告は昨年から日本学術会議のHPでも掲載されることとなった．

5　地学教育委員会

佐瀬評議員より，3学会（日本地質学会・日本地学教育学会・地学団体研究会）地学教育セミナー世話人会が行われ，2002年11月9日（土）に学習院中高等部において「海」をテーマとして同セミナーを開催することとなったとの報告があった．

6　女性地球科学者の未来を考える委員会

田崎委員長より，5月27日～31日，地球惑星合同大会において保育所を設置するので，利用していただいきたい（ホームページで申し込みのこと）との連絡があった．

7　研究企画委員会

木村委員長より，渡辺・磯崎両委員（国際化分科会）からの報告（ニュース誌に別途投稿される予定）の紹介があり，そのなかでとくに，情報をできる限り早く国際的に発信する必要がありそのためには，HPの整備，情報の更新が非常に重要であると強調された．また，本年2月に行われた学校教育委員会・生涯教育委員会の合同シンポジムの紹介があり，さらに研究企画委員会として本年度中に報告をとりまとめるので，意見を欲しいとの要望があった．

8　移行措置等検討委員会　なし

9　法人化調査検討委員会　【議題へ】

徳岡委員長より，「3月22日に予定どおり地質学会の法人化についての検討経過の報告と討論の会を行った．その内容は議題のなかで紹介する」との報告があった．

10　倫理規定等検討委員会

伊藤委員長代行より次の報告があった．

第1回，第2回委員会をそれぞれ2月8日，3月1日に開催した．伊藤執行委員を委員長代行として，本年6月の評議員会に中間とりまとめを提出する方向で，毎月委員会を行うこととした．下記の諸事項について現在検討中である．

著作権問題一般の歴史・現状の認識，著作権・倫理規定に関する意義，関連分野

での現状・動向の調査・分析（大学，産総研，民間企業，技術士会，JABEE関係，他学会，諸外国など），司法関連の動向，裁判の現状など．

さらに検討を行った上で，5月連休明けに弁護士による司法・法律面に関する話を聞くこととしている．科学技術基本法では各学協会に対して倫理綱領を持つよう要望されており，また知的財産権をめぐっては法的には不備な現状であって，専門家からの発言の要求に対して対応するために倫理規定の整備が必要である．

以上に対して，立石執行委員長より新潟大会の夜間小集会で研究企画と倫理規定等の問題を取り上げて欲しいとの要望が出された．

Ⅲ　その他の報告

1）　今後の評議員会の日時・会場について

立石執行委員長より下記日程（評議員会で了承済み）が確認された．

同　第4回　2002年6月22日（土）13：00～18：00　北とぴあ802会議室

同　第5回　2002年9月13日（金）新潟市

2）　第三種・第四種郵便物の廃止案への対応について

立石執行委員長より，現在国会郵政委員会において審議されている両種郵便物の原則廃止案について，第8回執行委員会において，両種郵便物が廃止された場合には学会として概算1500万円に達する郵送料の負担増となって財政上危機に陥ることとなり，非常に重要な死活問題なので，存続の要望書を関係方面に提出することを決定した旨，説明があり，これを了承した．

3）　日本地質学会優秀講演賞の実施について

立石執行委員長より，新設後まだ実施されていない日本地質学会優秀講演賞の授賞を本年秋の新潟大会から行事委員会が中心となって準備・実施することとした旨，報告があり，これを了承した．

議　題

議題の審議に先だって，水野事務局長より本評議員会の出席者37名，委任状提出者10名で，評議員会が成立している旨の報告があった．なお，周藤評議員会議長より議事の進行の都合上，3番目に予定の科研費審査委員候補者の選出に関する説明と投票を最初に行いたい旨の提案があり，了承された．

1　2001年度決算案と会計監査報告について

公文総務部会長（財政担当）より配布資料により，第109年総会に提案する2001年度決算案と財産目録（2001年12月31日現在）の説明，ならびに3月20日に行われた栗本・三本両会計監査委員の監査結果の報告があり，これらを異議なく承認した．また，会費収入の増加．安定化を計るために金融機関への会員の自動振り込み制度を検討していきたいと述べられた．承認された決算案と会計監査報告については，本誌p24–27に別途掲載．

2　2002年度予算案について

公文総務部会長（財政担当）より配布資料により，第109年総会に提案する2002年度予算案の説明があり，質疑の上，原案を異議なく承認した．承認された予算案は，本誌p24–27に別途掲載．

3　科研費審査委員候補者の選出について

天野科研費検討委員会委員長より同委員会での審査委員候補者の選出経過が報告され，関係分科・細目ごとに所定の選出数の倍数の候補者について投票し，それぞれ次点以下を含めて順位を付けて選出した．

分科　地球惑星科学（地質学分野）2段3名；同（地球宇宙化学分野）2段　1名；細目　地質学1段　9名（ほかに継続予定委員3名を推薦）；細目層位・古生物学1段2名（ほかに継続予定委員1名を推薦）；細目岩石・鉱物・鉱床学（岩石分野）1段2名；同（鉱床分野）1段　2名（予備として）；分科環境学2段　1名；細目環境動態解析1段　1名；細目環境影響評価・環境政策1段　1名；細目地球宇宙化学1段　1名

4　2002年度選挙管理委員の選出について

立石執行委員長より，委員として川辺文久（早稲田大学教育学部），五十嵐　聡（法政二中）両会員が推薦され，さらに3名の候補者未定の委員については執行委員会に一任して欲しいと提案があり，異議なくこれを了承した．

5　第110年総会・年会（2003年）の開催地について

伊藤学術研究部会長より表記について，中部支部（静岡地区）としたいと提案があった．新妻中部支部長より中部支部として開催を了承し，すでに3月19日に準備委員会（静岡大学・東海大学・常葉大学の会員による）を行い主会場を静岡大学として2003年9月18日–21日（4日間）を計画している旨が報告され，これを了承した．

6　日本地質学会の法人化について

法人化調査検討委員会の徳岡委員長より同委員会の取り組みの経過が資料によって報告され，天野委員より前日の3月22日に開催された「法人化の検討経過の報告と討論の会」の内容（法人化の必要性の賛否，進め方等に関する討論）が紹介された．次いで学会としての法人化の必要性，法人化により起こり得る学会運営上の障害，監督官庁の対応等に関する意見交換が行われた．

そのなかで，現在のJABEEへの対応や本来学会の持っている社会的責任を果たすことも含め，学会の発展のためには学会の社会的認知（法的な人格の認知），あわせてそれによる財政的基盤の確立のために法人化は是非必要，一刻も早く法人化すべきであるとの意見が強く出された．また，法人化にあたり監督官庁が地質学会の自主的運営に対して管理するのではないかとの懸念，現行の総会制の合理性への疑問，法人化の際に評議員会制が守られるかとの懸念，任意団体であることの不利益に対してどのように考えるかの疑問等が表明された．さらに，小松会長より，社会的に存在価値がある学会であるためには法人格が必要等の発言があった．また，徳岡委員長からは法人化をさらに検討していくためには評議員会として法人化の必要を認めることが不可欠との発言があった．

以上の議論を踏まえて，周藤評議員会議長より「法人化の必要性を評議員会として認めること」の可否についての採決の提案が行われた．挙手採決の結果，賛成30票，反対4票，保留2票で同原案が議決された．

採決後，法人化の今後の進め方について討論が行われた．そのなかで，調査検討委員会に対して以下の要望が出された．(1)最終決定機関―執行機関の関係の観点からの定款案の検討，(2)全員参加の総会制の民主性の検討，(3)法人化に向けて努力する前提での運営・財政に関するさらなる検討，(4)評議員の役割に関する検討，(5)評議員会制の機能と名称の検討．さらに，法人化の具体的タイムスケジュールの検討の要望，法人化についての会員投票の検討の要望が出された．

日本地質学会2001年度会計決算案と2002年度予算案について

2002年度第3回定例評議員会（2002年3月23日）において，本年9月に開催される第109年総会（新潟）に提案・審議される2001年度決算案と2002年度予算案が審議され，承認されました（本誌掲載の同評議員会議事抄録参照）．決算案は3月20日に行われた栗本史雄・三本健四郎両会計監査委員による会計監査を受けています．ここにこれらの詳細を掲載します．

会員各位に広くご検討いただき，ご質問・ご意見があれば，ぜひお寄せいただきたくお願いいたします．

（執行委員長　立石雅昭）

2001年度（平成13年度）　決算（案）：　収入の部

2002.03.13

（単位：円）

収入の部	01年度予算額	決算（案）	予算との増・減	2001年度決算の説明
1．会費収入	56,750,000	54,496,920	-2,253,080	
賛助会員	2,500,000	2,600,000	100,000	
正会員	50,000,000	49,067,920	-932,080	院生割引から正会員に（約200名）
院生会員	4,000,000	2,569,000	-1,431,000	正会員に変更（約200名）
学生会員	250,000	260,000	10,000	
2．事業収入	18,100,000	20,313,806	2,213,806	
論集収入	2,000,000	2,050,330	50,330	
雑誌販売収入	4,000,000	5,031,235	1,031,235	
雑誌印刷負担金収入	0	2,329,400	2,329,400	導入は継続検討　決算は超過ページ・カラー代金計上
別刷収入	2,500,000	1,769,705	-730,295	一部有料化
広告料収入	1,800,000	1,849,960	49,960	00年の名簿広告入金97万円含む
年会開催費	7,300,000	6,717,576	-582,424	新設　支出と相殺　　内訳は下記
参加登録料	2,640,000	1,981,000	-659,000	00年は負担金収入に一括
発表登録料	0	0	0	導入は継続検討
予稿集売上	3,500,000	2,279,000	-1,221,000	
補助金・寄付金	1,000,000	2,220,000	1,220,000	石川県140万円、金沢市69万円、企業13万円
展示収入	150,000	206,658	56,658	
雑収入	10,000	30,918	20,918	
普及資料等販売収入	500,000	565,600	65,600	明治ﾃｸﾉ下敷き30万円一括購入含む
3．補助金等収入	210,000	4,500,000	4,290,000	
文部省刊行補助金収入	0	3,100,000	3,100,000	申請するも安全を見て計上せず…欧文誌として当選
文部省講演会補助金収入	0	1,400,000	1,400,000	申請するも安全を見て計上せず…当選
国際交流補助金	200,000	0	-200,000	支出と相殺
その他助成金	10,000	0	-10,000	
4．その他	4,009,392	4,322,794	313,402	
受取利息	10,000	16,229	6,229	
引当金受取利息	0	295,162	295,162	退職金引当金預金満期利息
雑収入	999,392	666,199	-333,193	
アイランドアーク預り金	3,000,000	2,718,000	-282,000	
寄付金	0	627,204	627,204	寄付者の詳細は別紙「平成13年度決算案支出の部」の下に記載
5．基本財産受け入れ収入	0	0	0	
6．敷金保証金解約収入	0	0	0	
7．特定引当金取崩収入	4,500,000	4,552,608	52,608	
名簿刊行費取崩	0	0	0	
事務局移転費取崩	0	0	0	
退職金手当取崩	4,500,000	4,552,608	52,608	村松さん退職金として
総目録刊行費取崩	0	0	0	
普及書出版費取崩	0	0	0	
年会開催補助費取崩	0	0	0	
研究奨励費取崩	0	0	0	
当期収入合計	83,569,392	88,186,128	4,616,736	
前期繰越収支差額	14,480,608	14,480,608	0	
収入合計	98,050,000	102,666,736	4,616,736	

2001年度（平成13年度）　決算（案）：　支出の部

2002.03.13

（単位：円）

支出の部	01年度予算額	決算（案）	予算との増・減	2001年度決算の説明
1．事業費	41,964,000	35,477,310	-6,486,690	
（1）集会費	7,810,000	7,006,630	-803,370	
総会開催費	200,000	96,155	-103,845	
年会開催費	7,300,000	6,620,975	-679,025	
会場費・会場設営費	1,500,000	1,185,203	-314,797	
機器賃借料	500,000	0	-500,000	金沢大学の備品を使用
資料印刷費	2,000,000	1,454,230	-545,770	
アルバイト人件費	1,500,000	1,782,150	282,150	
文具費・郵送費	500,000	191,040	-308,960	
旅費・交通費	1,000,000	1,676,088	676,088	
雑支出	300,000	332,264	32,264	
諸集会費	0	0	0	
事業計画関連費	300,000	289,500	-10,500	JABEE参加費10万円ほか
雑費	10,000	0	-10,000	
（2）出版費	32,654,000	26,422,029	-6,231,971	
雑誌印刷費	22,654,000	17,708,192	-4,945,808	01年末の印刷業務競争入札で大幅ｺｽﾄﾀﾞｳﾝ実現　併せてページ数減少
論集印刷費	1,500,000	0	-1,500,000	2001年発行なし
名簿刊行費	0	0	0	
総目録刊行費	0	0	0	
編集費	500,000	569,161	69,161	
送本運搬費	7,500,000	7,356,651	-143,349	
ﾘｰﾌﾚｯﾄ・普及書刊行費	500,000	788,025	288,025	ﾘｰﾌﾚｯﾄ37万円，下敷き42万円
（3）研究奨励費	400,000	719,025	319,025	賞金20万円、賞状楯他18万円，バッチ3
（4）補助費	700,000	1,258,626	558,626	
支部補助費	400,000	0	-400,000	支部再編に係る補助　四国，中部　20万×2を計上　中部科研費で対応　四国分は次年度計上
研究委員会・専門部会費	0	0	0	
普及講演会補助費	300,000	1,258,626	958,626	新設　　年会時の地質情報展の会場費、ポスター他
（5）学界交流費	400,000	71,000	-329,000	
国際交流助成費	200,000	0	-200,000	収入と相殺
学界交流助成費	200,000	71,000	-129,000	
2．管理費	31,892,000	31,753,231	-138,769	
人件費	20,000,000	21,115,781	1,115,781	村松さん退職金　4552608円含む。　賃金総額は16563173円
通信費	1,200,000	1,091,866	-108,134	
役員選挙費	750,000	0	-750,000	定数立候補で選挙行わず
旅費・交通費	10,000	5,810	-4,190	
会議費	450,000	593,763	143,763	金沢での評議員会割高
事務所賃借料	5,201,899	5,220,746	18,847	更新料28万円含む。
光熱費	700,000	673,598	-26,402	
什器備品賃借料	1,700,000	1,275,877	-424,123	
消耗品費	1,600,000	1,437,464	-162,536	
雑費	280,101	338,326	58,225	会費引落手数料23万円含む
3．その他	3,000,000	2,926,000	-74,000	
アイランドアーク預り金支出	3,000,000	2,926,000	-74,000	収入と相殺　徴収年度の違いあり
4．基本財産繰入支出	0	192,000	192,000	寄付より
5．その他の固定資産取得支出	0	0	0	

6 特定引当金繰入支出	4,500,000	8,468,428	3,968,428	
特別引当（刊行補助）	0	3,100,062	3,100,062	刊行補助３１０万円は02年3月に支出予定のため引当繰り入れ
臨時引当繰入	0	338,000	338,000	年会普及講演補助残金戻し入れ分　0 2年３月支払い予定
名簿刊行費繰入	1,000,000	1,000,000	0	
事務局移転費繰入	0	0	0	
退職金手当内部繰入	2,700,000	2,995,162	295,162	引当預金満期利息295162円含む
退職金外部積立繰入	300,000	200,000	-100,000	新設　3万円×10ヶ月（３月より）中小企業退職金共済制度　但し政府補助が月１万円のため実支出は月２万円
総目録刊行費繰入	200,000	200,000	0	
普及書出版費繰入	0	325,204	325,204	寄付より
年会開催補助費繰入	0	0	0	
研究奨励費繰入	300,000	310,000	10,000	新設　寄付1万円含む
7 予備費	1,000,000	0	-1,000,000	
当期支出合計	5,500,000	8,468,428	2,968,428	
次期繰越金	92,550,000	94,198,308	1,648,308	
支出合計	98,050,000	102,666,736	4,616,736	

収入	98,050,000	102,666,736	4,616,736	
前年度からの繰越	14,480,608	14,480,608	0	
単年度収入	83,569,392	88,186,128	4,616,736	収入-前年度繰越
取崩収入	4,500,000	4,552,608	52,608	
実質単年度収入	79,069,392	83,633,520	4,564,128	単年度収入-取崩収入
支出	98,050,000	102,666,736	4,616,736	
単年度支出	5,500,000	8,468,428	2,968,428	支出-次年度繰越
繰入支出	4,500,000	8,468,428	3,968,428	
実質単年度支出	1,000,000	0	-1,000,000	単年度支出-繰入支出
次年度への繰越	92,550,000	94,198,308	1,648,308	
単年度収支（繰越収支）	78,069,392	79,717,700	1,648,308	
引当金収支	0	3,915,820	3,915,820	
実質単年度収支	78,069,392	83,633,520	5,564,128	

2002年3月20日

日本地質学会
会長　小松正幸　殿

日本地質学会会計監査
栗本　史雄
三本健四郎

2001年度（平成13年度）会計監査報告

2001年度（平成13年度）の決算報告及び財産目録、並びにそれらに関連した帳簿、伝票、預金通帳などを監査した結果、これらはすべて正確であり、かつ適正に会計処理されたものであることを認めます.

以上

寄付の内訳（敬称略）

収入		支出	
（基金）	192,000	基金	192,000
故　日高　実　会員	12,000		
斎藤林次　名誉会員	30,000		
古川和代　名誉会員	50,000		
山田直利　名誉会員	100,000		
（研究奨励）	10,000	研究奨励引当	10,000
竹内圭史　会員	10,000		
（普及出版）	425,204		425,204
下敷き協賛　明治テクノ㈱	100,000	普及書印刷費	100,000
「地質基準」著者　＊	260,220	普及出版引当	325,204
「国際層序ガイド」著者　＊＊	64,984		
合　計	627,204		627,204

＊　足立勝治、天野一男、岩松　暉、上砂正一、宇田進一、坂　幸恭、酒井　彰、酒井隆太郎、滝田良基、新妻信明、水野篤行、籾倉克幹、山元孝広

＊＊天野一男、新井房夫、小笠原憲四郎、清水恵助、熊井久雄、高山俊昭、新妻信明、楡井　久、能條　歩、平野弘道、水野篤行、八尾　昭、柳沢幸夫

2001年度財産目録

（単位　円）

基金	1,902,012
前年度末	1,710,012
2001年度引当額	192,000
事務所保証金	2,000,000
運用財産	23,843,813
銀行預金	12,554,393
郵便貯金	11,239,949
現金	49,471
財産総計	25,843,813

臨時引当準備金	3,438,062
科研費（研究成果公開発表）返却金*	338,000
科研費（ｱｲﾃﾗﾝﾄﾞｱｰｸ出版補助金）**	3,100,062

*現金，**銀行預金

引当準備金

引当準備金総計	22,267,018
退職手当引当準備金	15,887,020
前年度末	17,444,466
2001年度積立額	2,995,162
2001年度退職金支払	-4,552,608
名簿刊行費引当準備金	1,000,000
前年度末	0
2001年度積立額	1,000,000
年会引当準備金	1,200,000
前年度末	1,200,000
2001年度積立額	0
普及出版引当準備金	621,704
前年度末	296,500
2001年度積立額	325,204
総目録刊行費引当準備金	2,002,291
前年度末	1,802,291
2001年度積立額	200,000
研究奨励金引当準備金	310,000
前年度末	0
2001年度積立額	310,000
事務所移転引当準備金	1,246,003
前年度末	1,246,003
2001年度積立額	0

退職手当引当金外部積立金	300,000
2001年度中退共掛金	200,000
2001年度中退共掛金助成	100,000

2002年度（平成14年度）　予算案：　収入の部

2002.03.13

（単位：円）

収入の部	02年度予算額	01決算（案）	決算との増・減	2002年度予算案の説明
1．会費収入	54,200,000	54,496,920	-296,920	
賛助会員	2,300,000	2,600,000	-300,000	景気低迷による脱会を考慮
正会員	49,000,000	49,067,920	-67,920	01年決算（案）を計上
院生割引正会員	2,600,000	2,569,000	31,000	01年決算（案）を計上
学生会員	300,000	260,000	40,000	01年決算（案）を計上
2．事業収入	16,600,000	21,713,806	-5,113,806	
論集収入	1,000,000	2,050,330	-1,050,330	01年新刊なしであるが、編著者負担分を考慮して収入を計上
雑誌販売収入	5,000,000	5,031,235	-31,235	01年決算（案）を計上
雑誌印刷負担金収入	2,300,000	2,329,400	2,600,000	導入は継続検討　超過ページ・カラー代金01決算予想分計上
別刷収入	1,800,000	1,769,705	30,295	01年決算（案）を計上
広告料収入	600,000	1,849,960	-1,249,960	01年名簿広告97万円含む　02年刊行するも収入は次年度　景気低迷を考慮して計上
年会開催費	5,800,000	6,717,576	-917,576	支出と相殺　内訳は下記
参加登録料	2,700,000	1,981,000	719,000	3000円(参加費+予稿集）×900人
発表登録料	0	0	0	導入は継続検討
予稿集売上	300,000	2,279,000	-1,979,000	3000円×100冊（年会不参加者分）
補助金・寄付金	2,500,000	2,220,000	280,000	新潟県100万円、新潟市50万円、企業100万円
展示収入	250,000	206,658	43,342	
雑収入	50,000	30,918	19,082	
年会普及事業開催費	0	1,400,000	-1,400,000	新設　これまで年会開催費で計上
文部省補助金収入	0	1,400,000	-1,400,000	０２年未申請
その他寄付金	0	0	0	
年会地質情報展開催費	0	0	0	新設　これまで収入を考えていない　０２年実施予定
展示・販売手数料	0	0	0	
その他寄付金	0	0	0	
普及資料等販売収入	100,000	565,600	-465,600	02年1件新規発行予想するも、収入低に設定
3．補助金等収入	3,100,000	3,100,000	0	
文部省刊行補助金収入	3,100,000	3,100,000	0	刊行補助が０２年も当たると仮定
国際交流補助金	0	0	0	ここ数年なし。あれば収支相殺
その他助成金	0	0	0	01年決算（案）を計上
4．その他	2,312,171	4,322,794	-2,010,623	
受取利息	10,000	16,229	-6,229	01年決算（案）を計上
引当金受取利息	0	295,162	-295,162	01年退職金引当預金満期利息
雑収入	672,171	666,199	5,972	01年決算（案）を計上
アイランドアーク預り金	1,630,000	2,718,000	-1,088,000	収支相殺　０２年OL購読により減少
寄付金	0	627,204	-627,204	予算上は計上せず　あれば収支相殺
5．基本財産受け入れ収入	0	0	0	
6．敷金保証金解約収入	0	0	0	
7．特定引当金取崩収入	4,438,062	4,552,608	-114,546	
特別引当（刊行補助）取崩	3,100,062	0	3,100,062	０１年度預かり分
臨時引当取崩	338,000	0	338,000	０１年度預かり分
名簿刊行費取崩	1,000,000	0	1,000,000	02年度刊行予定
事務局移転費取崩	0	0	0	
退職金手当取崩	0	4,552,608	-4,552,608	
総目録刊行費取崩	0	0	0	
普及書出版費取崩	0	0	0	
年会開催補助費取崩	0	0	0	
研究奨励費取崩	0	0	0	
当期収入合計	80,650,233	88,186,128	-7,535,895	
前期繰越収支差額	23,849,767	14,480,608	9,369,159	
収入合計	104,500,000	102,666,736	1,833,264	

2002年度（平成14年度）　予算案：　支出の部

2002.03.13

（単位　：　円）

支出の部	02年度予算額	01決算（案）	決算との増・減	2002年度予算案の説明
1．事業費	41,912,460	35,477,310	6,435,150	
（1）集会費	7,418,000	7,006,630	411,370	
総会開催費	200,000	96,155	103,845	
年会開催費	5,800,000	6,620,975	-820,975	収入と相殺
会場費・会場設営費	450,000	1,185,203	-735,203	
機器賃借料	1,250,000	0	1,250,000	０１年は金沢大学の備品使用
資料印刷費	1,830,000	1,454,230	375,770	
アルバイト人件費	1,350,000	1,782,150	-432,150	
文具費・郵送費	270,000	191,040	78,960	
旅費・交通費	500,000	1,676,088	-1,176,088	
雑支出	150,000	332,264	-182,264	
年会普及事業開催費	408,000	0	408,000	新設　今後年会とは会計上独立した行事とする
会場費・会場設営費	0	0	0	
資料・ポスター印刷費	70,000	0	70,000	
講師謝金	0	0	0	
旅費・交通費	0	0	0	
雑支出	338,000	0	338,000	０１年普及講演補助残金（引当取崩）の返還
年会地質情報展開催費	450,000	0	450,000	０１年は普及講演会補助費として計上
会場費・会場設営費	200,000	0	200,000	
資料・ポスター印刷費	200,000	0	200,000	
雑支出	50,000	0	50,000	
諸集会費	150,000	0	150,000	
執行委員旅費	0	0	0	今後導入検討
支部長会議旅費	0	0	0	今後導入検討
会計監査委員旅費	50,000	0	50,000	新設（０１年総会で承認）
その他集会費	100,000	0	100,000	
事業計画関連費	400,000	289,500	110,500	ＪＡＢＥＥ参加費１０万円他　活性化を予想
雑費	10,000	0	10,000	
（2）出版費	33,600,000	26,422,029	7,177,971	
ｱｲﾗﾝﾄﾞｱｰｸｵﾝﾗｲﾝ出版費	4,700,000	0	4,700,000	新設　ｱｲﾗﾝﾄﾞｱｰｸのＯＬ購読費用をﾌﾞﾗｯｸｳｴﾙ社に支払い　以後３年間支出予定
ｱｲﾗﾝﾄﾞｱｰｸ編集費	300,000	0	300,000	
地質学雑誌雑誌印刷費	18,000,000	17,708,192	291,808	０２年はこれまでどおり印刷　０１年決算（案）
地質学雑誌編集費	600,000	569,161	30,839	01年決算（案）を計上
雑誌・ﾆｭｰｽ誌送本費	8,300,000	7,356,651	943,349	02年名簿分（90万円）余分に計上
論集印刷費	0	0	0	02年刊行計画なし　予算外の対応は予備費から
名簿刊行費	2,000,000	0	2,000,000	０２年刊行予定
総目録刊行費	0	0	0	
ﾘｰﾌﾚｯﾄ・普及書刊行費	0	788,025	-788,025	０２年計画なし　あれば予備費で対応
（3）研究奨励費	400,000	719,025	-319,025	賞金20万円、賞状楯他２０万円計上　メダルは00年、バッチは０１年に整備済み
（4）補助費	394,460	1,258,626	-864,166	
支部補助費	194,460	0	194,460	01年支部再編に係る補助（四国分）支出　今後活性化のための計上を検討
研究委員会・専門部会費	0	0	0	今後活性化のため計上を検討
普及講演会補助費	200,000	1,258,626	-1,058,626	今後、年会普及行事費は別途計上
（5）学界交流費	100,000	71,000	29,000	
国際交流助成費	0	0	0	ここ数年なし。あれば収入と相殺
学界交流助成費	100,000	71,000	29,000	他学会との交流拡大予想

2．管理費	31,637,540	31,753,231	-115,691	
人件費	20,000,000	21,115,781	-1,115,781	01年村松さん退職金約455万円含む　　02年4月より事務局に1名新規採用予定、事務局長待遇改善で賃金総額増加
通信費	1,100,000	1,091,866	8,134	01年決算（案）を計上
役員選挙費	750,000	0	750,000	01年定数立候補で選挙行わず　　02年は計上
旅費・交通費	10,000	5,810	4,190	01年決算（案）を計上
会議費	600,000	593,763	6,237	01年決算（案）を計上
事務所賃借料	4,940,000	5,220,746	-280,746	01年は更新料28万円含む。
光熱費	700,000	673,598	26,402	01年決算（案）を計上
什器備品賃借料	1,750,000	1,275,877	474,123	リースアップ物件対応で01年決算（案）以上を計上
消耗品費	1,450,000	1,437,464	12,536	01年決算（案）を計上
雑費	337,540	338,326	-786	01年決算（案）を計上
3．その他	1,630,000	2,926,000	-1,296,000	
アイランドアーク預り金支出	1,630,000	2,926,000	-1,296,000	収入と相殺　０２年OL購読により減少
4．基本財産繰入支出	0	192,000	-192,000	寄付があれば収支相殺　予算上は計上せず
5．その他の固定資産取得支出	0	0	0	
6．特定引当金繰入支出	6,540,000	8,468,428	-1,928,428	
刊行補助特別引当	3,100,000	3,100,062	-62	次年度支払いとして引当
臨時引当繰入	0	338,000	338,000	
名簿刊行費繰入	0	1,000,000	-1,000,000	02年刊行のため積み立てない
事務局移転費繰入	0	0	0	
退職金手当内部繰入	2,700,000	2,995,162	-295,162	財政委員会の答申を受け可能な限り増額
退職金外部積立繰入	240,000	200,000	40,000	3万円×12ヶ月 中小企業退職金共済制度　政府補助により実支出は２４万円
総目録刊行費繰入	200,000	200,000	0	
普及書出版費繰入	0	325,204	-325,204	寄付があれば収支相殺　予算上は計上せず
年会開催補助費繰入	0	0	0	年会で残余金が生じれば、その分を繰り入れ
研究奨励費繰入	300,000	310,000	-10,000	寄付があればその分を余分に繰り入れ
7．予備費	1,000,000	0	1,000,000	実質は毎年支出しないが、恒例により計上
当期支出合計	82,720,000	78,816,969	3,903,031	
次期繰越金	21,780,000	23,849,767	-2,069,767	
支出合計	104,500,000	102,666,736	1,833,264	
収入	104,500,000	102,666,736	1,833,264	
前年度からの繰越	23,849,767	14,480,608	9,369,159	
単年度収入	80,650,233	88,186,128	-7,535,895	収入-前年度繰越
取崩収入	4,438,062	4,552,608	-114,546	
実質単年度収入	76,212,171	83,633,520	-7,421,349	単年度収入-取崩収入
支出	104,500,000	102,666,736	1,833,264	
単年度支出	82,720,000	78,816,969	3,903,031	支出-次年度繰越
繰入支出	6,540,000	8,468,428	-1,928,428	
実質単年度支出	76,180,000	70,348,541	5,831,459	単年度支出-繰入支出
次年度への繰越	21,780,000	23,849,767	-2,069,767	
単年度収支（繰越金収支）	-2,069,767	9,369,159	-11,438,926	
引当金収支	2,101,938	3,915,820	-1,813,882	
実質単年度収支	32,171	13,284,979	-13,252,808	

追　悼

名誉会員　岩井淳一先生のご逝去を悼む

本会名誉会員（東北大学名誉教授）岩井淳一先生には，平成11年6月26日に，仙台市において開催された卒寿祝賀会に，お元気な姿を現わされ，全国各地から集った同窓関係者有志42名の祝福を受けられました．その後，平成13年に入ってから体調を崩され，奥様やお子さま方の手厚い介護を受けながら，千葉市において養生中でしたが，10月11日に肺炎のため，92歳の天寿を全うして，静かに昇天されました．

昭和20年以前には，多くの地質学を専攻した方々が，アジア各地の地質と地下資源の調査に情熱を傾けていましたが，それらの先達のおひとりとまたお別れすることになりました．

岩井先生は，鹿児島市清水町で，明治42年3月31日にお生まれになりました．昭和47年3月31日に，満63歳の誕生日を迎えられると同時に，東北大学を停年退官され，その後は長く東北ボーリングさく泉(株）の顧問として，東北地方の応用地質学分野において，指導的立場でご活躍されました．

先生は，昭和7年に東北帝国大学理学部地質学古生物学教室を卒業されました．卒業研究は，矢部長克教授の指導で，「福島県相馬古生層の研究」をまとめられました．卒業後，しばらくは母校の副手を勤められましたが，翌8年に南満州鉄道(株）に入社し，同社の地質調査所・産業部鉱床課において，主に満州北西部の興安嶺一帯の地質調査に従事し，二畳系～古第三系中に挟在する石炭や油母頁岩の資源探査に専念されました．昭和11年以降は，満州全域にわたる地質調査もおこなっていました．17年3月には，一時帰国して満鉄東亜経済調査局に移り，7月からは満鉄バンコック事務所の配属となり，主にスマトラ島中部の古・中生界や新生界の地質調査に従事されました．20年1月に帰国し，調査資料の整理にあたりましたが，召集されて終戦まで軍務につかれました．

戦後は，再び東北大学の地質教室の副手となり，昭和22年に助教授，37年には地質学講座担当教授に昇進し，一般地質学・構造地質学の講義をされました．また，仙台付近の野外地質実習や進級論文の野外調査のために，地質調査の手法や取りまとめ方法などを，懇切丁寧に指導されました．これも，ひとえに大陸や東南アジア地域において，長い間の詳細な地質調査を遂行されていた豊富な経験と，徹底した几帳面さによるものであったと思われます．

東北大学の研究室に復帰した岩井先生は，まず満州における地質調査の成果を取りまとめ，満州北西部の地形を始め，富綿炭田・三姓炭田の地質などについて，東亜地質鉱産誌に執筆されています．先生が，新しい研究課題として取り組んだのは，常磐炭田の亀ノ尾頁岩層の堆積学的研究でした．亀ノ尾頁岩層は，中新統の湯長谷層群の深海相を示す地層であり，薄層理をもつ泥質岩を主とする特殊な地層です．その堆積構造が，大陸で観察したことのある氷縞粘土に頗る類似することが，この研究を始める端緒になったと伺っております．綿密な野外観察と，採取試料の室内での観察・実験を基に，本層の泥質岩を4種類に識別し，それぞれの地域的・垂直的分布を明らかにしました．さらに，常磐炭田南部地域の亀ノ尾層に発達する，同時侵食・層間異常（褶曲状・地すべり状）・層間礫などの堆積構造についても，詳細な野外観察をおこなっています．その結果，海底地すべりに始まり，混濁流の発生，塊り状の砂や泥の運搬と同時浸食，級化層の生成に終るという，一連の堆積過程を明らかにされました．その主要な原因として，地震を推定しています．これらの亀ノ尾頁岩層の堆積学的研究によって，理学博士の学位が授与されています．

常磐炭田の現地調査の際には，筆者もお供をしたことがありましたが．野外観察の精密さはいうまでもありませんが，大きな頁岩の岩塊をリュックサックにずっしりと詰め込み，黙々と歩くお姿は今でも思い出されます．「少し分けて担ぎましょう」と申し出でも，一度も聞き入れてはもらえませんでした．また，宿に戻った後の徹底した野帳の整理と，長時間にわたる討論には，いつも驚嘆していました．

岩井先生の亀ノ尾頁岩層のご研究は，その頃の日本ではまだ未開拓の分野であり，全く画期的であったと思います．この研究成果は，仙台の地質教室の機関誌であったShort Papers IGPS No.1（1950）と，研究邦文報告の第42号（1953）に発表されました．

その後，東北地方の各地の，地質・堆積物・地質構造・地史などについて，精力的に調査・研究を続けられました．半澤正四郎教授らとの共著で取りまとめた「仙台付近の地質」を始め，花泉獣骨発掘泥質砂の粒度分布と堆積構造，福島県平市付近の更新統，北上川中流沿岸の第四系および地形，岩手県花巻市西部の鮮新・更新統，北上山地薄衣礫岩の研究―とくに古地理学的・構造地質学的意義について―など，地域に密着した研究を公表されています．また，「チリ地震津波による三陸沿岸被災地の地質学的調査」や，「地震に伴う自然現象と災害-青森県東部における“1968年十勝地震”の実例について」の報告など，自然災害科学の分野においても大きな足跡を残されました．さらに，昭和38年以降は海外技術協力としてタイ国に出張され，また，海外学術調査として，2度にわたり中華民国・香港・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシアに出かけ，Geology and Paleontology of Southeast Asiaシリーズに，貴重な調査報告をされています．

先生は敬虔なクリスチャンであり，温厚で誠実なお人柄は，多くの人達に常に好感をもって迎えられておりました．そのご遺徳は，貴重な研究業績と相まって，関係者の脳裏に末永く残るものと信じております．

ここに，岩井淳一先生のご経歴と業績を回顧し，心からご冥福をお祈り申し上げます．

なお，奥様の岩井千枝子様のご住所は，下記の通りです．
〒260-0001　千葉市中央区都町1273-22

（鎌田泰彦）

名誉会員　牛来正夫先生を偲ぶ

牛来正夫先生は昨年の暮に健康を害され，福島県原の町市の病院に入院療養中であったが，今年の2月4日午後に動脈瘤の手術の直前に，ご子息に看取られながら心不全で急逝された．享年86才であった．

先生は1916（大正5）年5月に宮城県仙台市で，参治・ハツ夫妻の長男として生まれたが，父君が軍人であられた関係で任地の福島県会津市で小学校を終えられた．当時この小学校の教諭であった岩石学者酒井栄吾氏に理科を学んだことも，将来岩石学者の道を歩む宿命を感じる．中学は会津中学から相馬中学に転校され，中学時代にすでに阿武隈高原の地質調査をおこなっていた．

1934（昭和9）年に東京高等師範学校理科三部博物科に入学し，学生時代に阿武隈高原の岩石についての研究論文を東京博物学会誌上に公表している．当時の高等師範学校には後の九州大学の岩石学教授杉健一先生がおられ，その指導を受けたことが牛来さんのその後の岩石学研究史に大きな影響を与えている．

1938（昭和13）年3月に東京高等師範学校を卒業し青森県立弘前中学校に赴任したが，翌年旧満州国立新京工鉱技術院（後の新京工業大学採鉱科）助教授に転出している．'43年に東京文理科大学（現筑波大学の前身）に地質学鉱物学教室が新設された機会に，助手として赴任された．第一回生として入学した私は岩石学の実習の指導を受けたのが，牛来さんに接した最初であった．

教室が空襲を避けて埼玉県風布に疎開中に木造教室が消失し，戦後数学教室の一部に間借りして再建を始め，間もなく大久保にある旧陸軍技術研究所の焼け跡の二階建の赤煉瓦での生活を始めた．やがて大塚に復帰する苦難の研究生活のなかで，教室の若手のスタッフとして復興に貴重な役目を果たしておられた．

牛来さんは寺田寅彦の随筆やポアン・カレーの科学論を愛読され，私達学生に哲学と科学史の勉強が必要なことを強調しておられた．この頃の牛来さんは学位論文をまとめ終えて，マグマの発生論の研究に移行し，毎週東大でおこなわれた岩石談話会に参加して思考をまとめていたことが「火成論への道（上・下）（共立出版，1976）」に記されている．この間'48年に「岩石学的見地からみた斜長石の研究」と題する論文で九州大学から学位を授与され，'53年には「斜長石双晶に関する岩石上の研究」で日本地質学会賞を授与されている．

「マグマ発生論」についての思考を最初に科学誌上に公表されたのは，「火成岩の進化の問題によせて－Bowen理論の批判（23巻12号，1953）」である．この論文の趣旨を補ったものが「火成岩の進化の問題によせて（地球科学，15号，1953）」であった．岩石学の研究には物理・科学的手法による微視的研究と同時に，長大な地球の歴史のなかでの岩体や地殻の成因を巨視的に解明する必要があると説くのが持論で，この視野から地団研双書として執筆された「火成岩成因論（上，中，下，'55～'58）」は，当時岩石学の参考書として広く愛読された．

'72年頃から同位体による火成岩の研究に注目し，地球史的な視野から火成作用のまとめに入り，共立出版から「火成作用－その地球史における展開（'73）」と「火成論－その地球進化論的序説（'75）」を出版している．これらの著書のなかで“地球の膨張説”を提起し，東京教育大学退官後に出版された「大陸地殻進化論序説（共立出版'90）」の中でまとめられ，さらに周藤賢治氏との共著「地殻・マントルの構成物質（共立出版'97）」のなかで完結されている．その研究思想は多くの弟子や後進の人たちによって継承されている．

学界における足跡として，1947（昭和22）9年には地学団体研究会の設立に参加し，'50年以降に日本地質学会や岩鉱学会の評議員や執行委員を永らく勤めている．とくに'49年に創立された日本学術会議の第四部（地質学）の会員に推されてからは，同会議の第一期・第五～八期の五期十数年にわたって会員を勤め，広い視野から戦後の日本における平和と民主主義のための科学研究体制の確立に貢献している．

筑波新大学設立構想が進められたとき，この構想が大学の伝統的な自治にそぐわないため最後まで反対され，'78（昭和53）年3月に東京教育大学の廃校とともに同大学教授として退職された．その後病身の夫人とともに福島県相馬市で晴耕雨読の生活を続け，'88（昭和63）年12月に夫人が亡くなられた後も，東京におられる二人のご子息との同居の勧めを固辞されて相馬に留まっておられた．

牛来さんは退官後に「一地質学者の半世紀（築地書館，'92）」を公けにして，東京教育大学を退官するまでの研究生活や友人との交流の記録を納めた自分史を公表している．そのなかにも記されているが，生前よく酒を好まれ私もしばしば酒の席を共にした．「天才は孤独である」というが，牛来さんと永い間接して感じたのは「孤独の反面で思いのほか他人への思い遣りの深い」ことであった．そのため後進や学生にたいして厳しい指導の反面で細かい配慮も感じられた．また批判的精神が強く，自分の納得出来ないことは歯に衣を着せないで反論する．この傾向は酒の席でしばしば激しい自己主張として発揮された．この性格が牛来さんの社会的地位に不利を招いた面もあったようだ．それを全く気にしないで，自分の学問研究に専念した学風は正に孤高である．

牛来さんの厳しい批判的精神が，現在の岩石学や学界についてどのように考えているかを改めて聞きたかった．相馬に移られてからの交流が，電話や手紙による時候の挨拶や近況の交信に留まったことが悔やまれる．それでも元気なうちは，短い言葉の端に針で指すような皮肉と，鋭い批評が感じられた．

今先生は相馬の墓地に安らかに眠っておられるが，幽界に先立たれた夫人や友人たちと再会し，酒を組み交しながら談論に花を咲かせていることであろう．話の輪に加われる日を楽しみに，先生のお人柄と学界に残された偉大な足跡を偲びつつ心からご冥福を祈る．

ご遺族は長男靖彦氏（東京都多摩市落川1233-1），次男邦彦氏（東京都日野市新井670-3）がおられる．

（大森昌衛）

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．現金書留または郵便振替　00140-8-28067
No. 38 以前の論集：院生・学生は 4 割引，正会員は 2 割引　No. 40 以降の論集：院生・学生のみ 2 割引

地 質 学 論 集

第 21 号　続・日本列島の基盤．加納　博ほか編，331 pp., 1982 年 4 月刊，会員頒価 2,400 円，〒380 円
第 22 号　琉球列島の地史．木崎甲子郎ほか編，165 pp., 1983 年 4 月刊，会員頒価 2,100 円，〒310 円
第 26 号　白亜系の国際対比―現状と問題．平野弘道編，172 pp., 1985 年 3 月刊，会員頒価 2,000 円，〒310 円
第 30 号　日本の第四紀層の層序区分とその国際対比．市原　実ほか編，221 pp., 1988 年 4 月刊，会員頒価 2,000 円，〒340 円
第 31 号　関東地方の基盤と変動．福田　理ほか編，138 pp., 1988 年 6 月刊，会員頒価 1,600 円，〒310 円
第 33 号　西南日本内帯高圧変成帯とテクトニクス．西村祐二郎ほか編，357 pp., 1989 年 4 月刊，会員頒価 3,000 円，〒380 円
第 34 号　堆積盆地と褶曲構造―形成機構とその実験的研究－．三梨　昂ほか編，209 pp., 1990 年 3 月刊，会員頒価 2,500 円，〒340 円
第 37 号　古日本海東縁の新第三系―層序・古地理・古環境．小林巌雄ほか編，326 pp., 1992 年 3 月刊，会員頒価 3,000 円，〒340 円
第 38 号　変動帯における砕屑岩類の組成と起源―日本列島を例として―．君波和雄ほか編，401 pp., 1992 年 3 月刊，会員頒価 3,500 円，〒380 円
第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250 pp., 1992 年 12 月刊，会員頒価 3,200 円，〒340 円
第 41 号　中部九州後期新生代の地溝．長谷義隆ほか編，192 pp., 1993 年 6 月刊，会員頒価 3,100 円，〒310 円
第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357 pp., 1993 年 4 月刊，会員頒価 3,100 円，〒380 円
第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177 pp., 1994 年 4 月刊，会員頒価 2,000 円，〒340 円
第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335 pp., 1995 年 11 月刊，会員頒価 2,800 円，〒380 円
第 45 号　シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249 pp., 1995 年 8 月刊，会員頒価 2,500 円，〒340 円（僅少ですが残部ありました）
第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162 pp., 1996 年 9 月刊，会員頒価 1,900 円，〒310 円
第 47 号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323 pp., 1997 年 4 月刊，会員頒価 3,000 円，〒380 円
第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia (IGCP 350) Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188 pp.，1997 年 6 月刊，会員頒価 2,100 円，〒340 円
第 49 号　21 世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232 pp.，1998 年 3 月刊，会員頒価 2,500 円，〒340 円
第 50 号　構造地質　特別号―21 世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263 pp.，1998 年 7 月刊，会員頒価 2,500 円，〒380 円
第 51 号　地震と地盤災害―1995 年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162 pp.，1998 年 3 月刊，会員頒価 3,000 円，〒340 円
第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316 pp.，カラー 10 pp.，1999 年 9 月刊，会員頒価 3,000 円，〒380 円
第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401 pp., 1999 年 11 月刊，会員頒価 3,900 円，〒450 円.
第 55 号　ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221 pp., 2000 年 1 月刊，会員頒価 2,800 円，〒340 円.
第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253 pp., 2000 年 3 月刊，会員頒価 2,900 円，〒380 円.
第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240 pp., 2000 年 9 月刊，会員頒価 2,800 円，〒340 円.

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995 年 4 月発行　会員価格 200 円（非会員 300 円）
大地のいたみを感じよう―地質汚染 Geo-Poollututions 1997 年 2 月発行　会員価格 200 円（非会員 300 円）
大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001 年 5 月発行　会員価格 300 円（非会員 400 円）
下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1 枚 200 円（非会員 300 円）

討論会講演要旨（1979 年 4 月刊，東京四谷）会員頒価 700 円，〒340 円
第 92 年学術大会講演要旨（1985 年 3 月刊，山口）会員頒価 3,200 円，〒500 円
第 96 年学術大会講演要旨（1989 年 5 月刊，茨城）会員頒価 3,500 円，〒500 円
第 101 年総会・討論会講演要旨（1994 年 3 月刊，東京）会員頒価 1,500 円，〒400 円
第 103 年学術大会講演要旨（1996 年 4 月刊，仙台）会員頒価 3,500 円，〒500 円
日本の地質学 100 年（100 周年記念誌，1993 年 3 月刊）頒価 8,000 円，〒600 円
第 104 年総会講演要旨（1997 年 4 月刊，東京）会員頒価 700 円，〒300 円
第 105 年年会講演要旨（1998 年 9 月刊，松本）会員頒価 3,500 円，〒500 円
第 108 年年会講演要旨（2001 年 9 月刊，金沢）会員頒価 2,500 円，〒500 円

・日韓構造地質研究会第 2 回合同大会（日本地質学会構造地質専門部会共催）のアブストラクトと巡検案内書：各 1,000 円

入 会 の ご 案 内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を日本地質学会事務局へお送りください.

入会には正会員1名の紹介が必要です. 近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください. また、申し込み時には、初年度の会費を添えてお申し込みください.

申込書送付先：101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　日本地質学会

送金先：郵便振替口座　00140-8-28067　日本地質学会

会費額：正会員12,000円（院生割引＊8,000円、定収のない方に限る）　学生会員5,000円

＊院生割引を希望される方は、下記の院生割引申請欄に指導教官の署名、捺印をもらってください.

日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan	
＊会員番号	＊会員種別　□正会員（□院生割引）□学生
氏名（ふりがな）Name in Japanese	ローマ字表記 family name　　first name
＿＿＿年Year ＿＿月Mo＿＿＿日Day	Sex：□ 男 Male　□ 女 Female　Country：
学位　Degree:　□ 博士Dr.　□ 修士 Master　□ 技術士 Engineer　□ その他 Other	
専門（下欄から3つまで） Specialities less than 3 items)　1.　　2.　　3.	
学歴 Academic career: ＿＿＿＿＿学校 High school＿＿＿＿年卒業 Year completed ＿＿＿＿＿ 大学 University＿＿＿＿＿学部 Faculty＿＿＿＿年卒業（見込み）Year completed 修士 Master:＿＿＿＿＿大学 Univ.＿＿＿＿研究科 Fac.＿＿＿＿年終了（見込み）Year completed 博士 Doctor:＿＿＿＿＿大学 Univ.＿＿＿＿研究科 Fac.＿＿＿＿年終了（見込み）Year completed	
自宅住所Home address（郵便番号Zip code　　-　　） 電話Phone:　　ファックスFax: 電子メールE-mail:	
所属機関・住所 Affiliation with address:（郵便番号 Zip code　　-　　） 電話Phone:　　ファックスFax: 電子メールE-mail:	
連絡先 Correspondence:　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office	
紹介者名（正・院生会員）　　印 Recommended by (name of member)＿＿＿＿＿＿＿＿Signature	
院生割引申請欄：運営細則に基づき会費の院生割引を申請いたします. 上記本学の学生につき、定収のない院生（研究生）であることを証明いたします. 指導教官　所属：　　氏名：　　印	
＊受付（　　年　　月　　日）＊入金（　　年　　月　　日）振替・現金・銀行・他 ＊承認（　　年　　月　　日）＊送本（　　巻　　号）	

太枠内のみにご記入ください（＊Official use only）

専門分野（番号で）01：層位　02：堆積・堆積岩　03：古生物　04：構造地質　05：火山・火山岩　06：深成岩　07：変成岩　08：鉱床地質（金属・非金属）　09：鉱床　10：鉱物　11：燃料地質　12：地熱　13：第四紀　14：環境地質　15：都市地質　16：土木地質　17：土質工学　18：水文地質　19：探査地質　20：土木工学　21：情報地質　22：地震地質　23：海洋地質　24：地球物理　25：地球化学　26：地質年代学　27：地理　28：地学教育　29：考古学　30：その他　40：地球惑星学

取扱い地質図一覧（委託販売）

01/7/5現在

会員には代金後払いで注文をお受けします．電話かFaxにて（なるべくFaxで），地質学会事務局へお申込み下さい．Tel. 03-5823-1150，Fax. 03-5823-1156

100万分の1日本地質図　第3版　4枚組　￥6,000
100万分の1日本重力図（ブーゲー異常）　￥3,700
地球化学アトラス　北関東　￥5,300
200万分の1地質編集図
　コンピュータ編集による日本地質図（付記付き）￥2,200
　日本の磁気図（付記付き）　￥2,400
300万分の1 日本列島地温勾配図　￥1,600
数値地質図
　100万分の1日本地質図　第3版　CD-ROM版（説付き）　￥5,900
　200万分の1東・東南アジアの数値地質図（説付き）　￥2,500
　20万分の1地質図幅集（画像）　￥2,300
　400万分の1東アジア磁気異常図 CD-ROM版（説付き）　￥1,200
　日本重力ＣＤ ＲＯＭ（説付き）　￥900
　*東・東南アジア都市域の地球科学情報 CD-ROM版　￥1,100
　*北海道地質ガイドマップ　CD-ROM版　￥900
　*日本の新生代火山岩の分布と産状　CD-ROM版　￥1,200
　*日本周辺海域音波探査データベース　CD-ROM版　￥900
　*日本地質図索引図（第1集 第8集　CD-ROM版1963 1999）　￥900
特殊地質図
　東京湾とその周辺の地質　￥5,900
　秋田地熱資源図　￥4,800
　諏訪湖湖底堆積状況図（1:1.35万）　￥1,500
　Hydro-Environmental Maps of the MUUS Desert and its Surroundings, China.（1:50万，３枚組・説付き）￥6,700
　Heat Flow Map of East and Southeast Asia（1:500万）　￥2,200
　東海沖海底音響画像図（1:40万）　￥700
　*38　札幌-岩内地域火山・鉱化熱水系分布図　￥3,600
　*札幌地熱資源図　￥4,400
　*青森地熱資源図　￥4,900
50万分の1鉱物資源図
　北海道（東部，西部）￥6,800
　東北　￥4,100
　関東甲信越　￥4,300
　中部近畿　￥4,300
50万分の1地質図幅
　旭　川 (第2版)　￥2,000
50万分の1活構造図
　東京(第2版)　￥3,100
2.5万分の1地質構造図
　阿寺断層系ストリップマップ（説付き）￥2,800
　中央構造線四国地域活断層ストリップマップ（説付き）￥4,300
　中央構造線近畿地域活断層ストリップマップ　￥2,300
　柳ヶ瀬 養老断層系ストリップマップ(1:10万)　￥2,400
　糸魚川 静岡構造線活断層系ストリップマップ（1:10万）￥2,400
　兵庫県南部地震に伴う地震断層ストリップマップ
　野島・小倉及び灘川地震断層-（1:1万，説付き）￥3,400
　*花折断層ストリップマップ　￥2,700
海洋地質図
　鳥取沖海底地質図（1:20万，説付き）￥3,800
　鳥取沖表層堆積図（1:23万，説付き）￥3,100
室戸沖表層堆積図（1:20万，説付き）￥2,700
　経ヶ崎沖表層堆積図（1:20万，説付き）￥2,900
　下北半島沖海底地質図（1:20万，説付き）￥3,200
　経ヶ崎沖海底地質図（1:20万，説付き）￥3,400
　粟島周辺海底地質図（1:20万，説付き）￥5,200
　佐渡島北方表層堆積図（1:20万，説付き）￥3,500
　佐渡島北方海底地質図（1:20万，説付き）￥4,100
　豊後水道南方海底地質図（1:20万，説付き）￥4,800
　豊後水道南方表層堆積図（1:20万，説付き）￥3,700
　駿河湾海底地質図（1:20万，説付き）￥5,400
　ゲンタツ瀬海底地質図（1:20万，説付き）￥3,900
　*塩屋崎沖海底地質図（1:20万，説付き）　￥5,000
　*響灘表層堆積図（1:20万，説付き）　￥3,700
　*ゲンタツ瀬表層堆積図（1:20万，説付き）　￥3,600
　*日向灘表層堆積図（1:20万，説付き）　￥3,400
重力図　（ブーゲー異常）1:20万
　青森地域　￥2,100，秋田地域　￥1,400，
　山形地域　￥1,400，北上地域　￥2,300，
　渡島地域　￥1,700，苫小牧地域　￥1,500，
　札幌地域　￥1,700，帯広地域　￥1,500，
　旭川地域　￥1,500，北見地域　￥1,500，
　根室地域（2枚組）￥2,400，*天北地域　￥1,800，
　*名寄地域　￥1,800，*大分地域　￥1,700
空中磁気図
　尖閣諸島海域　￥2,000
　伊豆大島地域(1:5万)伊東周辺地域（1:2.5万）￥1,000
　雲仙地域（1:5万）　￥1,000
　西表島周辺地域（1:10万）　￥1,000
火山地質図
　桜島火山（1:2.5万）￥1,200
　有珠火山（1:2.5万）￥1,100
　草津白根火山（1:2.5万）￥1,500
　阿蘇火山（1:5万）￥1,100
　北海道駒ヶ岳火山（1:5万）￥1,700
　浅間火山（1:5万）￥1,700
　青ヶ島火山および伊豆諸島南方海底火山（1:1万）￥2,500
　雲仙火山（1:2.5万）　￥1,100
　那須火山（1:3万）　￥2,100
　伊豆大島火山（1:2.5万）　￥1,700
日本炭田図
　天草炭田地質図　￥6,800
日本油田・ガス田図
　新潟県中部地域　￥3,700
20万分の1地質図幅
　相川及び長岡の一部　￥1,700，青森　￥2,200，奄美大島　￥1,800，
　飯田（第2版）￥2,300，厳原　￥1,300，岩内　￥2,300，宇都宮
　￥2,600，浦河　￥2,500，宇和島　￥2,000，鹿児島　￥2,400，
　金沢　￥2,600，唐津（第2版）￥2,100，岐阜　￥2,600，木本
　￥1,300，久米島　￥1,800，高梁　￥2,400，徳島（第2版）￥2,000，
　富山　￥2,300，長野　￥2,900，名寄　￥2,200，日光　￥2,800，
　八丈島　￥1,300，八戸　￥2,200，福岡　￥2,400，宮崎　￥2,500，
　村上　￥2,600，夕張岳　￥2,400，和歌山　￥2,500
５万分の１地質図幅　地質図1:5万，地域地質研究報告
　明石　￥2,400，赤名　￥2,700，姉崎￥3,400，飯豊山　￥3,000，
　*飯山　￥5,500，出雲崎　￥3,200，厳島　￥2,400，犬飼　￥3,400，
　*伊平屋島及び伊是名島　￥1,800，今市（島根県）　￥2,900，
　岩ヶ崎　￥4,300，石見大田及び大浦　￥3,800，上野　￥4,000，
　*浦郷　￥3,200，恵比島　￥2,800，大分　￥3,800，大阪西南部
　￥2400，大阪西北部　￥2,400，大阪東南部　￥3,400，*大阪東北部
　￥3,800，大須　￥2,400，小値賀島及び肥前平島　￥2,400，尾鈴山
　￥3500，折尾　￥3,000，海田市　￥2,700，柿崎￥3,300，柏崎
　￥4200，金山　￥3,100，神浦　￥2,800，上高地　￥3,500，刈和野
　￥2,400，木曽福島￥4,000，*北小松　￥3,900，岐阜　￥3,700，
　京都東北部　￥3,700，熊川￥3,600，熊田￥3,300，倉橋島及び柱島
　黒石　￥3,400，桑名　￥3,200，下呂　￥2,700，神戸　￥3,100，
　小倉　￥3,700，佐伯　￥3,000，佐賀関　￥2,600，*桜井　￥4,000，
　篠山　￥2,900，椎葉村　￥4,300，志津川　￥4,100，清水　￥2,700，
　末吉　￥3,100，須磨（2版）￥2,400，洲本　￥2,600，相馬中村
　￥5100，園部　￥2,900，高遠　￥4,200，田島　￥3,500，*龍野
　3400，立山　￥4,700，谷汲　￥2,400，玉庭　￥4,300，*竹生島
　￥2800，津西部　￥4,100，敦賀　￥3,600，十勝池田　￥3,400，
　豊岡　￥2,400，苗場山　￥2,700，長岡　￥4,000，中野　￥2,500，
　那古　￥1,800，名張　￥3,200，奈良　￥3,700，二本松　￥2,900，
　乗鞍岳　￥3,200，八海山　￥2,700，姫島　￥2,600，広島　￥1,500，
　広根　￥3,500，福江　￥2,600，福岡　￥3,700，福知山　￥3,200，
　北条　￥4,000，真　壁　￥3,600，松江　￥3,300，松之山温泉
　￥3,700，三重町　￥3,200，*三津　￥2,500，美濃　￥2,400，宮原
　￥4,500，槍ヶ岳　￥2,900，*温泉津及び江津　￥4,200，湯湾
　￥3,200，横須賀　￥2,700，横山　￥3,700，四ッ谷　￥2,500
　寄居　￥3,000，和歌山及び尾崎　￥2,300

*印のついたものは2001年新刊及び新刊扱いです．
*このほかの地質図，地質調査所出版物の詳細は以下のホームページhttp://www.gsj.go.jp/Map/でご覧になれます．